

**ANALISIS PENGGUNAAN *JOSEIGO* OLEH PRIA
PADA KARAKTER OROCHIMARU DALAM ANIME
NARUTO SHIPPUUDEN KARYA MASASHI
KISHIMOTO**

SKRIPSI

Diajukan untuk memenuhi salah satu syarat menempuh ujian sarjana sastra Jepang
pada Program Studi Sastra Jepang STBA JIA Bekasi



FRANSISCA APRILLIA

043131.52014.1014

**PROGRAM STUDI SASTRA JEPANG
SEKOLAH TINGGI BAHASA ASING JIA
BEKASI
2018**

LEMBAR PERSETUJUAN

**ANALISIS PENGGUNAAN JOSEIGO OLEH PRIA PADA KARAKTER
OROCHIMARU DALAM ANIME NARUTO SHIPPUUDEN KARYA
MASASHI KISHIMOTO**

Fransisca Aprillia

043131.520141.014

Disetujui oleh :

Pembimbing I



Drs. H. Sudjianto, M.Hum
NIP. 195906051985031004

Pembimbing II



Anggiarini Arianto, S.S, M.Hum
NIDN. 0415018401

Ketua STBA JIA



Drs. H. Sudjianto, M.Hum
NIP. 195906051985031004



LEMBAR PERNYATAAN KEASLIAN SKRIPSI

Nama : Fransisca Aprillia
Nomor Induk Mahasiswa : 043131.520141.014
Program Studi : Sastra Jepang (S-1)
Judul Skripsi : Analisis Penggunaan Joseigo oleh Pria pada Karakter
Orochimaru dalam Anime Naruto Shippuuden Karya
Masashi Kishimoto

Dengan ini saya menyatakan bahwa skripsi yang saya buat adalah asli bukan plagiat atau sanduran. Apabila di kemudian hari terdapat kecurangan dalam penelitian ini, maka akan menjadi tanggung jawab saya di kemudian hari.

Bekasi, 01 Agustus 2018



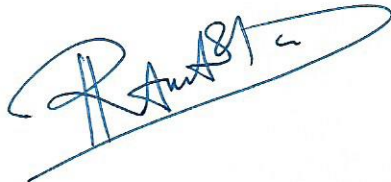
Fransisca Aprillia
NIM.043131.520141.014

LEMBAR PENGESAHAN

Nama : FRANSISCA APRILLIA
Nomor Induk Mahasiswa : 043131.520141.014
Judul Skripsi : Analisis Penggunaan *Joseigo* oleh Pria pada Karakter Orochimaru dalam Anime Naruto Shippuuden Karya Masashi Kishimoto
(岸本齊史が書いたアニメナルト疾風伝における大蛇丸のキャラクターにある男性が使う女性語の使用の分析)

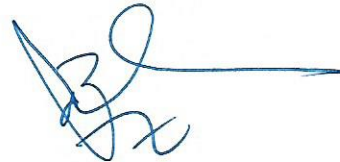
Disetujui oleh :

Penguji I



Dr. Rainhard Oliver, S.S, M.Pd
NIDN. 0401028102

Penguji II



Elli Rahmawati Zuleha, S.Pd, M.Si
NIDN. 0423077903

Ketua STBA JIA




Drs. H. Sudjianto, M.Hum
NIP.195906051985031004

SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG

Saya Pembimbing I Skripsi, dengan ini menyatakan bahwa mahasiswa berikut :

Nama : Fransisca Aprillia
Nomor Induk Mahasiswa : 043131.520141.014
Judul Skripsi : Analisis Penggunaan *Joseigo* oleh Pria pada Karakter Orochimaru dalam Anime Naruto Shippuuden Karya Masashi Kishimoto

Sudah layak mengikuti sidang skripsi yang akan diselenggarakan pada tanggal 10 – 11 Agustus 2018, karena sudah menyelesaikan masa bimbingan sebanyak 10 kali tatap muka dan mengikuti konsultasi-konsultasi lainnya. Selanjutnya untuk kesempurnaan hasil skripsi yang telah dibuat, maka saya menyerahkan sepenuhnya kepada tim penguji sidang skripsi untuk menguji hasil skripsi mahasiswa tersebut.

Bekasi, 1 Agustus 2018

Pembimbing I



Drs. H. Sudjianto, M. Hum
NIP. 195906051985031004

SURAT KETERANGAN LAYAK UJIAN SIDANG

Saya Pembimbing II Skripsi, dengan ini menyatakan bahwa mahasiswa berikut :

Nama : Fransisca Aprillia
Nomor Induk Mahasiswa : 043131.520141.014
Judul Skripsi : Analisis Penggunaan *Joseigo* oleh Pria pada Karakter Orochimaru dalam Anime Naruto Shippuuden Karya Masashi Kishimoto

Sudah layak mengikuti sidang skripsi yang akan diselenggarakan pada tanggal 10-11 Agustus 2018, karena sudah menyelesaikan masa bimbingan sebanyak 10 kali tatap muka dan mengikuti konsultasi-konsultasi lainnya. Selanjutnya untuk kesempurnaan hasil skripsi yang telah dibuat, maka saya menyerahkan sepenuhnya kepada tim penguji sidang skripsi untuk menguji hasil skripsi mahasiswa tersebut.

Bekasi, 1 Agustus 2018

Pembimbing II



Anggiarini Arianto, S.S, M.Hum
NIDN. 0415018401

MOTO DAN PERSEMBAHAN

Seigneur Dieu, Sauvez-nous

“Serahkanlah perbuatanmu kepada TUHAN, maka terlaksanalah segala rencanamu”

Amsal 16:3

Persembahan:

Skripsi ini saya persembahkan untuk mama saya tercinta dan kedua kakak saya.

**Analisis Penggunaan *Joseigo* oleh Pria pada Karakter Orochimaru dalam
Anime Naruto Shippuuden Karya Masashi Kishimoto**

ABSTRAKSI

Fransisca Aprillia

043131.52014.1014

Penelitian ini berjudul “Analisis Penggunaan *Joseigo* oleh Pria pada Karakter Orochimaru dalam Anime Naruto Shippuuden (Karya Kishimoto Masashi). Penelitian ini bertujuan untuk meneliti tentang *joseigo* apa saja yang digunakan oleh karakter Orochimaru dan alasan Orochimaru menggunakan *joseigo*. Teori dalam penelitian ini menggunakan teori Chino Naoko, Sudjianto, Janet. S. Shibamoto. Penelitian ini menggunakan metode penelitian deskriptif dengan pendekatan kualitatif. Hasil dari penelitian ini ditemukan 230 data dan 23 data yang sudah dianalisis dan yang paling banyak digunakan adalah bentuk akhiran. Berdasarkan analisis, dapat disimpulkan bahwa pemakaian *joseigo* oleh karakter Orochimaru bertujuan untuk memberi kesan kejam dan dramatis.

Keyword : *Joseigo*, Karakter, Pria, Orochimaru, Naruto Shippuuden

岸本齊史が書いたアニメナルト疾風伝における大蛇丸のキャラクターに
ある男性が使う女性語の使用の分析

フランシスカ・アプリリア

043131.520141.014

日本文学の研究

STBA JIA

2018

要旨

この本研究のタイトルは岸本齊史のナルト疾風伝のアニメの中である大蛇丸のキャラクターに男性が使う女性語を使用である。研究の目的はどんな女性語が使うのか、そして大蛇丸が女性語を使うの理由である。研究の方法は記述的で、定性で書いた。その中で Naoko Chino と Sudjianto と Janet S. Shibamoto の理論を使われている。研究の結果は 230 データがあって、23 データが分析された。そのデータはよく使われたのは、女性語の終助詞である。最後には大蛇丸が使う女性語の理由は残酷で劇的な感じが持つ。

キーワード： 女性語、キャラクター、男性、大蛇丸、ナルト疾風伝。

第1章

はじめに

A. 背景

言語と言うのは社会に努力や活動や自分を紹介するなどのとして音の象徴である(Kridalaksana, 2009:24)。Lyons のにとって言語は「*Most of the hare takes the views that language are system of symbol, designed, as it were, for the purpose of communication*」と言った。言語使って、私たちが相手に情報を通知することができる。数か国に、言語はジェンダーを比べるように男性や女性など特別な独特を持つ。例えば日本である。日本における言語は使用された女性語や男性語を持つ。しかし、この2つの言語は正式な会話の時に使われない。日常会話しかよく聞かれない。

Jorden のにとって(Sudjianto や Ahmad, 2014:204), 女性語はフェミニズムの反省として女が使う日本にある言語の1つである。そして、男性語は男が使う言語である。日本語の文書には終助詞と感動詞と代名詞がある。日本の終助詞は2つがある。それは女性が使うの終助詞と男性が使う終助詞である。男性が使う終助詞は「な、さ、ぞ、ぜ」がある。女性の使う終助詞は「わ、の、かな、かしら、こと」などがある。それに、女性と男性が使う終助詞は「よ」がある。

しかし、男らしいになるように女性が使う男性語がいる。でも、日本には最近そんなに珍しいではない。なぜなら、特別な状態と時機に女性は男性語を使われている。女性が社会言語として友達に話す。

でも、ナルトのアニメに珍しいことがある。なぜなら男性が使う女性語がいる。それが偏差である。ナルト疾風伝のアニメに男性が使う女性語は大蛇丸である。

B. 問題の定式化

背景によると、問題は :

1. ナルト疾風伝のアニメで大蛇丸のキャラクターにどんな女性語を使うのか。
2. どうして大蛇丸のキャラクターは女性語を使うのか。

第2章 理論的基礎

A. 社会言語学

町田にとって社会言語学は「社会的属性と言葉の関係、場面と言葉の関係、言語接触によって生じるいろいろな現象、言葉に対する意識などを主な研究課題とする」と言った(Fransiska と Teguh, 2015:11)。社会には人は個人ではなく、社会的に見られている。言語と使用者に影響を与える言語的要因のは音韻学、形態学、構文、それにセマンティックである。言語に影響を及ぼす社会的要因は、社会的状況、教育水準、年齢、性別などである。

1. 社会言語学の問題

カリフォルニア大学にある初社会言語学会議で、Chaer と Agustina の意見で社会言語学の問題は7つがある。

- a. 話し手の社会アイデンティティ
- b. 聴者の社会アイデンティティ
- c. 話す場所の社会環境
- d. 社会の発音からのシンクロとジアクロニックに分析
- e. 発話の形式で聴者が違う社会の価値観。
- f. 言語学種とバリエーションのレベル、そして。
- g. 社会言語学の研究からの単純な実装。

上からの7つ問題の以外に、Nababan にとって他の問題が上の問題に似るもある。その問題は:

- a. 言語、方言、個人語と多様な言語。
- b. レポートリーの言語。
- c. 社会言語。
- d. バイリンガル性と二重性。
- e. 社会言語学のプロフィールと社会言語機能。
- f. 言語の使用。
- g. 言語の態度。
- h. 言語計画。
- i. 社会言語学の対応、そして
- j. 文化と言語。

上からの社会言語学の意味によると、研究者は簡単に日本の男性語と女性語の違いを研究する。そして、ナルトのアニメに言語品種の偏差だけでなく、日本の生活にもいる。研究者は男性語と女性語を、アニメナルト疾風伝における大蛇丸のキャラクターにある男性が使う女性語の偏差を研究する。

B. 言語品種

この世界には各国に言語が違う。Hudson にとって「*devine a variety of language as a set of linguistic items with similar social distribution*」と言った。会話するとき、言語の使用者はいくつかの方言に話せる。なぜなら、話し手は社会的集団に時間や場所やがいる。Chaer と Agustina にとって、多様な言語を比べているのは：

- a. 話し手の的に。
- b. 使用的に。
- c. 形式的に。
- d. 手段的に。

1. 日本語の言語品種

日本にはいろいろな言語品種がある。例えば子供の言語と老人語と若語などがある。話し手のジェンダーによると、日本語の言語品種はふつがある。それは女性語と男性語がある。その2つの言語品種差下の「今日は暑いです」の例文に書く。

- a. 今日は暑いな(あ)。
- b. 今日は暑いわ(あ)。
- c. 今日は暑いよ(う)。
- d. 今日は暑いぞ(お)。
- e. 今日は暑いぜ(え)。
- f. 今日は暑いわね(え)。

その(a), (d), と(e)の例文は男性の言語品種、そして(b), (c), (f)の例文は女性の言語品種。その2人の言語品種はもちろん正式な出来事があまり聞いていない。が、日本人の日常生活には2つの品種はよく使える。日本人にとっては、2つの品種が普通である。でも、初めて会ってはもちろんこの品種を使えない。お互いによく知られていたらその2つの品種が使える。

C. 男性語

男性語と言うのは男性がよく使う言語。松村によると、男性語は男性語特有の言葉、あるいは表現、「俺」、「お前」、「僕」、「君」、終助詞の「ぜ、ぞ」、感動詞「おい、こら」など類。男性語は、正式ではない時に使う。相手は友人や同僚や部下に使える。男性語のステレオタイプは競争力、毅然、素敵、傲慢、計算、拘束、財政、積極的、そして利己的である。

1. 人称代名詞

代名詞と言うのは場所、方向、物、人の名前を直接言葉を表す。人称代名詞には3つの部分があって自称、対称、それに他称である。

a. 自称

自称と言うのは自分で相手に表す。男性も女性も「わたし」と「わたくし」の自称を使う。その2つの自称は中性の自称である。が、「わたくし」は正式の時に使う。

例文：

これはわたしの友達です。

わたくしは山田と申します。

その以外に他の男性の自称をよく使うのは：

1.) 僕

例文：僕もあなたが好きだ。

2.) 俺

例文：俺は絶対負けないんだ！

3.) わし

例文：わしは1929年に生まれた。

4.) 我

例文：我々は生まれた落ちた瞬間から、何かを奪い透ける。

b. 対称

対称は相手に呼びかけや表す。普通は「あなた」と「あんた」の対称が男性も女性も使える。同様や部下に表す。

例文 :

あなたはどこへ行きますか。

あんた、何がたべたい？

その以外に、男性が「君」、「お前」、「テマエ」と「きさま」の呼びかけをらせる。それに、名前を読んでも使う。が、～さんと呼んでいる。

例文 :

君、お湯を準備してください。

お前、もう食べたか。

きさまはいったい、この戦いに何の意味がある？

亜門さんはアカデ出身なんですよ。

c. 他称

他称は他の人と物を呼びかけのとして表す。日本語で、他の人に丁寧な呼びかけは「この、その、あのかた」である。「彼」と「彼女」は一般的に使用される。それで、無礼なのは「コイツ、ソイツ、アイツ」である。

例文 :

彼は私の小学校の友達です。

彼女は誰ですか。

アイツいったい誰だ？

2. 感動詞

鈴木にとって、感動詞と言うのは呼びかけ、受け答え、挨拶、叫び、掛け声、などをそのままに表し主として、そのような意味もうぐるな一語分と

なったり、また分の中でそのような意味の独立語になったりする品詞である。

a. おい、おおい

例文 : おい お前は、私のことを聞いてのか。

b. くそ

例文 : お前は何やってんだよ、くそ女。

c. こら

例文 : こら金木、お前どんなだけ休んでるんだよ。

d. おお

例文 :

ヒデ : 先輩のうちですか。

ニシオ : おお。

3. 終助詞

なおはしにとって、終助詞は分の終末に位置する助詞である。次のは男性語の終助詞である。

a. ぜ

例文 : あそこまで追い詰めたんだぜ。

b. ぞ

例文 : ウサギは寂しいと死んじゃうだぞ！

c. かな

例文 : ウカちゃん。明日金木君のマスク作り合ってくれないかな。

d. さ

例文 : 子供にだってできるさ。

e. な

例文 : 久しぶりだな。

f. い

例文 :

それ、まさかキリンかい。

g. ね、ねえ

例文 : 俺は被害者だと思うけどね。

h. よ

例文 : 什造、私はお前が死んだら、悲しいよ。

D. 女性語

女性語と言うのは女の言葉と女性がよく使う言語。女性語のステレオタイプは感情的、柔軟性、協調的、屈辱的、関連性があり、本能的、表現力豊か、動詞的、受動的、注意深い傾向がある。

1. 人称代名詞

a. 自称

女性がよく使う自称は:

1.) あたし

例文 : せっかく休日なのに、何であたしがわざわざこのヤツと。

2.) あたい

例文 : これはあたいのお金わよ。

b. 対称

男性語のように、女性語の呼びかけは「あなた」と名前を使う。

例文 : あなたのおかげで、私はこれまで頑張ります。

c. 他称

だいたい日本の女性は「かれ」と「彼女」を使える。

例文 : まさか、彼のことが好き？

彼女はこの秘密がしってる？

2. 感動詞

a. あら

例文 : あら、君はあれが本当にただの事項だとおもっておるのかね。

b. まあ

例文 : あら、永久やりゼだって、きのうまたから生まれ来たわけじゃないんだ。

c. ちょっと

例文 : ちょっとあなた、何か感じがして。

3. 終助詞

a. わ

例文 : あたし、益々出木杉さんのことが好きにだったわ。

b. の

例文 : これが普通の事故じゃないの。

のび太さん、なにをしてるの？

c. て

例文 : 雛実、逃げて。先にあんていくに帰ってて。

d. かしら

例文 : じゃ、今のお掃除もお願いしちゃうかしら。

e. こと

例文 : この花の色の美しいこと。

f. ね、ねえ

例文 : のび太さんはちっとも変わらないわね。

g. よ

例文 : 楽しいわよ。

のび太、早く起きなさい。もう朝ご飯食べれる時間ないわよ。

E. 言語品種の偏差

日本には最近そんなに珍しいではない。なぜなら、特別な状態と時機に女性は男性語を使われている。女性が社会言語として友達に話す。男性も女性語を使う。どうしてかどうかわからない、これは特定の目的のために使用。

第3章

研究方法

研究は研究者に問題を解決の計器である。研究を行う研究者が研究事実を補強するためのメソッドが必要です。というのは、研究方法が研究の過程で利用される。

研究者は、この研究を行うに行った手順は次の通りである。

1. 本研究ではで問題に関連材料や書籍や収集する。
2. ナルト疾風伝をダウンロードして、大蛇丸のキャラクターに言った文章を。
3. データの分析。
4. 推論する。

この研究の対象はナルト疾風伝のアニメで大蛇丸のキャラクターに男性が使う女性語である。研究者はこのアニメがもう見ている。が、大蛇丸が女性語を使うのは初めて知っていた。

第4章

データ分析

A. 大蛇丸が使う女性語を使用の分析

500 エピソードのナルト疾風伝のアニメで 47 エピソードが大蛇丸のキャラクターがいる。その 47 エピソードには、228 データを集めている。大蛇丸のキャラクターに男性が使う女性語は感動詞と終助詞をよく使える。終助詞は 214 のデータで、感動詞は 14 のデータである。

1. [エピソード 39, 16:14]

文脈：天地橋に、第7班はカブトがサソリに会う予定が、大蛇丸は突然現れた。

所記：大蛇丸は「～わ」の終助詞を使う。これは偏差である。大蛇丸は「～よ」の男性語の終助詞を使ったほうがいい。

2. [エピソード 90, 13:18]

文脈：大蛇丸はカブトから紅蓮に任務をあげる。

所記：このエピソードに大蛇丸は女性語の「～わね」の終助詞を使う。

でも、これは偏差である。大蛇丸は男性語の「～な」の終助詞を使ったほうがいい。

3. [エピソード 43, 19:22]

文脈：ナルトの九尾モードの後、サイは大蛇丸に会う。

所記：このエピソードには大蛇丸は女性語の「～わよ」の終助詞を使う。

理由は酷くて、惨い感じをする。

でも、これは偏差である。大蛇丸は男性語の「～ぞ」の終助詞を使ったほうがいい。

4. [エピソード 456, 19:11]

文脈：大蛇丸は暁に入る。イタチとパートナーになる。大蛇丸はイタチの体が欲しい。

所記：このエピソードには大蛇丸は女性語の「～の」の終助詞を使う。でもこれは偏差。大蛇丸は男性語の「～ぜ」の終助詞を使ったほうがいい。

5. [エピソード]

文脈：大蛇丸はサスケを呼ぶ。大蛇丸はサスケの力を試す。

所記：大蛇丸は女性語の「～のね」の終助詞を使う。が、これは偏差。男性語の「～よね」の終助詞を使ったほうがいい。

6. [エピソード 138, 13:16]

文脈：サスケはイタチを戦う。でも、サスケは負けた。サスケの中にある大蛇丸を出て来た。

所記：大蛇丸は女性語の「～のよ」の終助詞を使う。理由は酷くて、惨い感じをする。でも、これは偏差である。男性語の「～ぞ」の終助詞を使ったほうがいい。

7. [エピソード 92, 15:43]

文脈：サスケと授業した後、紅蓮が来た。

所記：このエピソードには大蛇丸が女性語の「～かしら」を使う。でも、これは偏差。大蛇丸は男性語の「～かな」の終助詞を使ったほうがいい。

8. [エピソード 457, 10:37]

文脈：サソリとデイダラは大蛇丸のアジトへ行く。

所記：このエピソードには大蛇丸が女性語の「おやまあ」の感動詞を使う。
でも、これは偏差。大蛇丸は男性語の「くそ」を使ったほうが
いい。

9. [エピソード 455, 19:30]

文脈：大蛇丸は暁を付ける。イタチも暁に入る。大蛇丸はびっくりした。

所記：大蛇丸はびっくりしたから、女性語の「あら」の感動詞を使う。

でもこれは偏差。男性語の「おお」の感動詞を使ったほうがいい。

B. 大蛇丸のキャラクターに女性語を使うの理由

大蛇丸は初めて出てくるのは、女性として中忍試験を受ける。なぜなら、その時は大蛇丸が木ノ葉崩しするつもり。それに大蛇丸は女性語を使ったら酷くて、惨い感じを持つ。

第5章

結論と提案

A. 結論

500 エピソードのナルト疾風伝のアニメで 47 エピソードが大蛇丸のキャラクターがいる。その 47 エピソードには、228 データを集めている。大蛇丸のキャラクターに男性が使う女性語は感動詞と終助詞をよく使える。終助詞は 214 のデータで、感動詞は 14 のデータである。

大蛇丸は初めて出てくるのは、女性として中忍試験を受ける。なぜなら、その時は大蛇丸が木ノ葉崩しするつもり。それに大蛇丸は女性語を使ったら酷くて、惨いを感じる。

B. 提案

1. 図書館に女性語と男性語の本たくさんに買ってください。
2. 男性語と女性語の偏差はないように、先生はもっと学生に女性語と男性語を教えてください。

Kata Pengantar

Puji syukur saya panjatkan kepada Tuhan Yang Maha Esa yang telah memberikan berkat-Nya sehingga peneliti bisa menyelesaikan skripsi “Analisis penggunaan *joseigo* oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime Naruto Shippuuden karya Masashi Kishimoto” dengan baik. Tujuan penulisan skripsi ini untuk memenuhi salah satu syarat menempuh ujian sarjana pada jurusan Bahasa dan Sastra Jepang STBA JIA.

Peneliti menyadari dalam segala proses pembuatan skripsi ini mengalami berbagai macam kendala. Namun berkat bantuan dan bimbingan dari berbagai pihak akhirnya skripsi ini dapat terselesaikan. Oleh karena itu, pada kesempatan kali ini peneliti mengucapkan terima kasih yang sebesar-besarnya kepada:

1. Drs. H. Sudjianto, M.Hum, selaku ketua STBA JIA dan Pembimbing I;
2. Dr. Rainhard Oliver S.S, M.Pd, selaku ketua Program Studi Bahasa Jepang STBA JIA;
3. Anggiarini Arianto, S.S., M.Hum, selaku Pembimbing II;
4. Yusnida Eka Putri, S.S., M.Si selaku Wakil Ketua I Bidang Akademik STBA JIA;
5. Segenap dosen STBA JIA atas ilmu dan bimbingannya selama ini;
6. Bapak Bambang dan Bapak Iwan selaku staff perpustakaan STBA JIA yang telah membantu menyediakan prasarana dan fasilitas penunjang penelitian ini;
7. Mama saya tercinta yang selalu mensupport dan mendoakan saya;
8. Teman-teman satu angkatan terutama kelas B Pagi;

9. Grup *Anbu* yang beranggotakan (Nur Atiqoh, Wisnu Pratama P, Utari Setianingrum, Nuria Khilda, Suastu Intan C, dan Reisha Zulviah) yang selalu memberi support;
10. Grup *Wagelaseh* yang beranggotakan (Wisnu Pratama P, Jenius Aspan, Arif Septanto N, Utari Setianingrum, dan Nuria Khilda) yang telah memberi hiburan ditengah penatnya mengerjakan penelitian ini;
11. Seluruh staff STBA JIA Bekasi yang tidak bisa saya sebutkan satu per satu;
12. Seluruh pihak yang selalu membantu dalam kelancaran penyusunan skripsi ini yang tidak bisa saya sebutkan satu per satu

Peneliti telah berusaha semaksimal mungkin menyelesaikan skripsi ini.

Bekasi, 01 Agustus 2018

Fransisca Aprillia

Daftar Isi

Lembar Judul	i
Lembar Persetujuan	ii
Lembar Pernyataan Keaslian Skripsi	iii
Lembar Pengesahan	iv
Surat Keterangan Layak Uji Sidang (Dospem I)	v
Surat Keterangan Layak Uji Sidang (Dospem II)	vi
Motto dan Persembahan	vii
Abstaksi	viii
Yoshi	ix
Gaiyo	x
Kata Pengantar	xxiv
Daftar Isi	xxvi
Daftar Tabel	xxvi
a. Tabel Penggunaan Shuujoshi ~wa	74
b. Tabel Penggunaan Shuujoshi ~wane	78
c. Tabel Penggunaan Shuujoshi ~wayo	80
d. Tabel Penggunaan Shuujoshi ~no	81
e. Tabel Penggunaan Shuujoshi ~none	82
f. Tabel Penggunaan Shuujoshi ~noyo	83
g. Tabel Penggunaan Shuujoshi ~kashira	86
h. Tabel Penggunaan Kandoushi ~maa	88
i. Tabel Penggunaan Kandoushi ~ara	89

BAB I PENDAHULUAN

A. Latar Belakang Masalah.....	1
B. Rumusan Masalah dan Batasan Masalah.....	5
1. Rumusan Masalah.....	5
2. Batasan Masalah.....	5
C. Tujuan Penelitian dan Manfaat Penelitian.....	6
1. Tujuan Penelitian.....	6
2. Manfaat Penelitian.....	6
D. Definisi Operasional.....	7
E. Sistematika Penulisan.....	8

BAB II LANDASAN TEORETIS

A. Kajian Sociolinguistik.....	10
1. Masalah – Masalah Sociolinguistik.....	12
B. Ragam Bahasa.....	14
1. Ragam Bahasa Jepang.....	22
C. Ragam Bahasa Pria (<i>danseigo</i>).....	27
1. Pronomina Persona (<i>Ninshou Daimeishi</i>).....	29
2. Interjeksi (<i>Kandoushi</i>).....	36
3. Partikel Akhir (<i>Shuujoshi</i>).....	41
D. Ragam Bahasa Wanita (<i>Joseigo</i>).....	47
1. Pronomina Persona (<i>Ninshou Daimeishi</i>).....	48
2. Interjeksi (<i>Kandoushi</i>).....	51
3. Partikel Akhir (<i>Shuujoshi</i>).....	53
E. Penyimpangan Ragam Bahasa.....	57
F. Penelitian yang Relevan.....	58

BAB III METODOLOGI PENELITIAN

A. Metode Penelitian.....	60
B. Metode Penelitian Deskriptif.....	61

C. Teknik Pengumpulan Data.....	62
D. Proses Penelitian	63
1. Tahap Perencanaan	63
2. Proses Pelaksanaan	63
3. Penyelesaian.....	65
E. Objek Penelitian.....	66
F. Sumber Data.....	66
BAB IV ANALISIS DATA	
A. Gambaran Umum Latar Penelitian	67
1. Serial Naruto	67
2. Karakter Orochimaru	69
a. Latar Belakang Kehidupan Orochimaru	69
B. Paparan Data <i>Joseigo</i> yang Dipakai Oleh Pria Pada Karakter Orochimaru	73
1. Partikel Akhir (<i>Shuujoshi</i>)	74
2. Interjeksi (<i>Kandoushi</i>)	88
C. Analisis Data	89
D. Pembahasan Penyebab Penggunaan <i>Joseigo</i> Oleh Pria Pada Karakter Orochimaru	125
a. Kepribadian Orochimaru.....	125
b. Penampilan Orochimaru	129
E. Interpretasi Data.....	130
BAB V KESIMPULAN DAN SARAN	
A. Kesimpulan	132
B. Saran	135
Daftar Acuan	136

Lampiran

Daftar Riwayat Hidup

BAB I

PENDAHULUAN

A. Latar Belakang Masalah

Bahasa adalah sistem lambang bunyi yang dipergunakan oleh anggota suatu masyarakat untuk bekerja sama, berinteraksi, dan mengidentifikasikan diri (Kridalaksana, 2009:24). Rumusan yang hampir sama dinyatakan oleh Lyons, bahwa bahasa adalah *most of them here takes the views that languages are system of symbols, designed, as it were, for the purpose of communications*. Berdasarkan pendapat Lyons, dapat dikatakan bahwa bahasa sistem yang berwujud simbol yang kita lihat dan kita dengar dalam lambang serta bahasa digunakan oleh masyarakat dalam berkomunikasi.

Bahasa dapat menggantikan peristiwa atau kegiatan yang seharusnya dilakukan oleh individu atau kelompok lain untuk melakukan suatu pekerjaan. Kalimat yang diucapkan oleh seorang individu kepada individu lain bersifat individual. Setelah sebuah kalimat lahir dan didengar oleh individu lain, lalu individu tersebut akan melakukan pekerjaan yang diminta. Dapat dikatakan bahwa bahasa bersifat kooperatif. Disamping bahasa bersifat kooperatif, bahasa juga digunakan sebagai alat komunikasi.

Penggunaan bahasa sebagai alat komunikasi dipengaruhi oleh banyak faktor. Faktor tersebut adalah faktor sosial dan faktor situasional. Bahasa tidaklah statis melainkan dinamis. Bahasa selalu berubah-ubah dari waktu ke waktu sejalan

dengan perubahan yang terjadi di dalam masyarakat, kebudayaan, dan bahasa terjalin hubungan yang sangat erat dan saling mempengaruhi. Bahasa merupakan alat yang digunakan bagi setiap makhluk hidup untuk berkomunikasi antara satu dengan yang lain. Dengan bahasa, kita bisa mengetahui informasi apa yang ingin disampaikan komunikator kepada komunikan.

Di beberapa negara, bahasa memiliki ciri tertentu untuk membedakan gender antara pria dan wanita, demikian pula di Jepang. Bahasa Jepang memiliki ragam bahasa yang biasa digunakan oleh kaum wanita dan kaum pria. Bahkan ada pula ragam bahasa anak-anak yang biasa digunakan sehari-hari oleh anak-anak. Pemakaian kedua ragam bahasa ini tidak begitu tampak pada situasi-situasi resmi. Namun pada percakapan sehari-hari yang tidak resmi sering terdengar perbedaan kedua ragam bahasa ini.

Menurut Jordan (dalam Sudjianto dan Ahmad 2014:204), bahasa wanita (*feminine language*) adalah sebuah variasi bahasa Jepang, yang biasa disebut *joseigo* atau *onna kotoba*, yang secara khusus dipakai oleh kaum wanita sebagai suatu refleksi feminitas mereka. Sedangkan bahasa pria (*danseigo*) adalah bahasa yang kuat sekali kecenderungannya dipakai oleh penutur pria. Dalam kalimat bahasa Jepang, terdapat partikel-partikel yang biasa dipakai pada bagian akhir kalimat (*shuujoshi*), interjeksi (*kandoushi*), dan promina persona (*niishoo daimeishi*). Umumnya, *shuujoshi* dalam bahasa Jepang, terbagi atas dua jenis, yaitu *shuujoshi* yang biasa dipakai oleh penutur pria dan *shuujoshi* yang biasa dipakai oleh penutur wanita. *Shuujoshi* yang biasa dipakai oleh penutur pria adalah *na, sa, zo, ze*. Sedangkan *shuujoshi* yang biasa dipakai oleh penutur wanita

antara lain *wa, no, kana, kashiira, koto*. Lalu ada *shuujoshi* yang umumnya bisa dipakai baik oleh penutur wanita dan penutur pria, yaitu *yo*.

Namun, terkadang ada pula dimana perempuan menggunakan ragam bahasa pria yang terlihat maskulin. Hal ini bukan merupakan hal yang aneh di Jepang karena memang ada pula wanita yang dalam keadaan dan waktu tertentu, menggunakan ragam bahasa yang biasa diucapkan oleh pria, misalkan sebagai “bahasa pertemanan” atau “bahasa pergaulan” yang dilakukan terhadap teman sebaya atau teman kelas yang sangat akrab dalam situasi bermain.

Namun di dalam Anime Naruto, hal yang tidak biasa dimunculkan, dimana seorang pria menggunakan ragam bahasa wanita yang biasa digunakan sehari-hari oleh wanita dan menambah kesan *feminim* ketika diucapkan. Hal ini dianggap sebagai suatu penyimpangan. Yang dimaksud penyimpangan (*deviance*) disini adalah nama umum untuk ujaran yang tidak sesuai dengan norma-norma gramatikal, semantis, atau sosial (Sudjianto, 2014:210). Sebagai contoh *shuujoshi* yang biasa dipakai oleh wanita namun dipakai oleh pria dalam karakter Orochimaru adalah:

1. カブト、この子のことを後で説明してあげるわ。

Kabuto, kono ko no koto wo atode setsumeishite ageruwa.

Kabuto, Aku akan menceritakan tentangnya padamu nanti.

2. 少し遊んであげましようわね。

Sukoshi asonde agemashouwane.

Kita bisa bermain-main sebentar.

3. それで君が見張り役に選ばれたのね。

Sorede kimi ga mihariyakuni erabaretanone.

Jadi, ternyata oleh karena itu kamu dipilih sebagai penjaganya.

Pada contoh kalimat di atas, terjadi penyimpangan ragam bahasa dari segi aspek *shuujoshi*. Partikel *wa*, *wa ne*, *no ne* sebenarnya lebih pas dipakai oleh penutur wanita. Biasanya, akhiran-akhiran tersebut diucapkan dalam situasi yang non-formal dimana antar sesama wanita yang umurnya sebaya atau diucapkan kepada orang yang lebih muda dari penutur. Hal ini juga relevan karena Orochimaru memang berkata seperti itu kepada orang yang lebih muda darinya. Hanya saja dalam konteks gender, Orochimaru merupakan seorang pria. Penyimpangan ini juga bukan dari aspek *shuujoshi* saja yang ditemukan oleh peneliti. Dalam beberapa kalimat, peneliti juga menemukan dari aspek *kandoushi* (interjeksi). Oleh karena seringnya karakter Orochimaru menggunakan bahasa wanita dan mengetahui itu merupakan suatu penyimpangan, peneliti tertarik untuk meneliti lebih dalam mengenai pemakaian ragam bahasa wanita oleh pria. Penelitian ini menggunakan kajian sosiolinguistik karena gaya bahasa yang digunakan oleh wanita dan pria berkaitan dengan faktor sosial masyarakat.

Dengan dilatarbelakangi oleh hal-hal yang telah dipaparkan sebelumnya, maka peneliti mengambil judul penelitian “Analisis Penggunaan *Joseigo* yang

dipakai Oleh Pria pada Karakter Orochimaru dalam Anime *Naruto Shippuuden* Karya Kishimoto Masashi”.

B. Rumusan Masalah dan Batasan Masalah

1. Rumusan Masalah

Berdasarkan latar belakang masalah yang sudah dipaparkan sebelumnya, maka peneliti menuliskan rumusan masalah sebagai berikut:

- a. Bagaimanakah bentuk-bentuk ragam bahasa wanita oleh pria yang muncul dalam anime *Naruto Shippuuden* pada karakter Orochimaru?
- b. Apa penyebab penggunaan *joseigo* oleh tokoh utama pria dalam anime *Naruto Shippuuden* pada karakter Orochimaru?

2. Batasan Masalah

Agar penelitian ini lebih fokus dan tidak meluas dari pembahasan yang dimaksud, dalam skripsi ini peneliti merumuskan bagaimana bentuk ragam bahasa wanita oleh pria yang muncul hanya dalam anime *Naruto Shippuuden* pada karakter Orochimaru dan apa yang mendorong seorang pria menggunakan ragam bahasa wanita yang diaplikasikan pada kehidupan bermasyarakat Jepang.

C. Tujuan Penelitian dan Manfaat Penelitian

1. Tujuan Penelitian

Tujuan diadakannya penelitian ini, adalah untuk mengetahui ragam bahasa wanita apa sajakah yang muncul dalam anime *Naruto Shippuuden* pada karakter Orochimaru beserta faktor apa saja yang mendorong seorang pria menggunakan ragam bahasa wanita.

2. Manfaat Penelitian

Dalam penelitian ini peneliti berharap agar hasil dari penulisan ini dapat bermanfaat untuk berbagai pihak. Berikut adalah manfaat dari penelitian ini, antara lain:

a. Manfaat Teoritis

Peneliti berharap agar penelitian ini dapat menambah perkembangan kemajuan ilmu pengetahuan di bidang *sosiolinguistik* dalam berbahasa Jepang sehingga dapat digunakan dalam memecahkan permasalahan bahasa Jepang.

b. Manfaat Praktis

Secara praktis, penelitian ini diharapkan dapat bermanfaat untuk berbagai kalangan, diantaranya:

- 1.) Menambah wawasan dan ilmu baik bagi peneliti maupun pembelajar bahasa Jepang lainnya sebagai bahan pembelajaran

bahasa Jepang dalam penggunaan *Joseigo* dan *Danseigo* secara tepat.

- 2.) Sebagai bahan referensi maupun koleksi di lembaga tempat peneliti belajar, sehingga dapat menjadi sarana dan prasarana untuk penelitian mahasiswa. Dapat juga dijadikan sebagai bahan acuan penelitian selanjutnya.

D. Definisi Operasional

Definisi operasional dimaksudkan untuk menghindari kesalahan pemahaman dan perbedaan penafsiran yang berkaitan dengan istilah-istilah dalam judul skripsi. Sesuai dengan judul penelitian yaitu “Analisis Penggunaan *Joseigo* Oleh Pria Pada Karakter Orochimaru Dalam *Anime* *Naruto Shippuuden* (Karya Kishimoto Masashi), maka definisi operasional yang perlu dijelaskan adalah:

1. *Joseigo* : merupakan variasi bahasa Jepang, yang biasa disebut *joseigo* atau *onna kotoba*, yang secara khusus dipakai oleh kaum wanita sebagai suatu refleksi feminitas mereka (Sudjianto dan Ahmad, 2014:204). Menurut Jordan (dalam Sudjianto dan Ahmad, 2014:204) keberadaan gaya bahasa yang secara tegas membedakan jenis kelamin tersebut merupakan karakteristik Jepang.
2. *Naruto* : Kata *naruto* bisa berarti "Badai Guntur", dan *naruto* juga bisa berarti potongan *Narutomaki* dengan bentuk pusaran di tengah yang biasanya ada di ramen. Namun *naruto* yang dimaksud peneliti adalah sebuah karakter dalam *manga* yang diciptakan oleh seorang *mangaka* bernama Kishimoto Masashi yang kemudian dari *manga* tersebut

diciptakanlah Anime. Naruto ini menceritakan seorang ninja yang ceria, hiperaktif, kikuk, dan idealis dimana didalam dirinya terdapat monster ekor sembilan (*Kyuubi*) yang disegel oleh hokage ke empat Minato Namikaze, yang merupakan ayahnya sendiri. Dia juga sebenarnya tidak memiliki ilmu yang tinggi dan sering bertindak gegabah. Namun, dibalik kecerobohnya itu, dia memiliki tekad yang kuat untuk menjadi seorang *Hokage*.

3. Orochimaru : Orochimaru merupakan karakter yang dibuat oleh seorang *mangaka* bernama Kishimoto Masashi dalam Anime maupun Manga *Naruto*. Dalam cerita *Naruto*, Orochimaru merupakan salah satu *Sannin* legendaris Konohagakure yang sangat terobsesi dengan rahasia dunia. Orochimaru merupakan seorang peneliti yang mencari keabadian yang bisa membuatnya untuk hidup selama-lamanya.

E. Sistematika Penulisan

Untuk memberikan gambaran pembahasan yang sistematis, serta mudah dipahami, maka diperlukan suatu susunan yang baik yang terbagi dalam beberapa bab dan sub bab. Maka, sistematika pembahasan dalam skripsi adalah sebagai berikut:

Bab I Pendahuluan : pada bab ini peneliti menjelaskan tentang latar belakang masalah, rumusan dan batasan masalah, tujuan dan manfaat penelitian, definisi operasional, dan sistematika penulisan. Bab II Landasan Teoritis: pada bab ini peneliti menguraikan teori yang dijadikan sebagai landasan atau dasar dalam membahas penelitian. Bab III Metodologi Penelitian: pada bab ini berisi tentang

metode penelitian yang digunakan disertai penjabaran mengenai alasan dipilihnya metode tersebut. Bab IV Analisis Data: Pada bab ini akan diuraikan penelitian mengenai siapakah Orochimaru itu dan macam-macam ragam bahasa wanita yang diucapkan oleh karakter Orochimaru dalam Anime Naruto karya Kishimoto Masashi serta hal-hal yang mendorong seorang pria menggunakan ragam bahasa wanita. Bab V Kesimpulan dan Saran: pada bab ini akan dipaparkan mengenai kesimpulan dari hasil analisis data yang telah dilakukan, sedangkan saran berisi tentang rekomendasi dan implikasi peneliti terhadap hasil penelitian yang telah dilakukan.

BAB II

LANDASAN TEORETIS

Pada bab ini, peneliti mengambil beberapa teori dari para ahli yang relevan di bidangnya dengan segala jenis definisi dan jenis-jenisnya yang digunakan sebagai landasan dalam menganalisis data yang sesuai dengan tema. Teori ini bertujuan agar peneliti dapat mempermudah dalam menjawab dan mengungkapkan rumusan permasalahan yang peneliti kemukakan.

A. Kajian Sociolinguistik

Kata sociolinguistik merupakan gabungan dari kata *sosiologi* dan *linguistik*. Sosio adalah kajian yang objektif dan ilmiah mengenai manusia dalam masyarakat dan mengenai lembaga-lembaga serta proses sosial yang ada di dalam masyarakat (Chaer dan Agustina 2010:3). Linguistik adalah ilmu bahasa atau bidang yang mengambil bahasa sebagai objek kajiannya. Dengan demikian, sociolinguistik merupakan bidang ilmu antardisiplin yang mempelajari bahasa dalam masyarakat. Janet Holmes mengatakan *sociolinguistic study the relationship between language and society, they are interested in explaining why we speak differently in different social context, and they are concerned with identifying the social functions of language and the ways it is used to convey social meaning*. Hudson pun berpendapat demikian dimana *sociolinguistics is the study of language in relation to society* yang berarti ilmu yang mempelajari kebahasaan dalam interaksi kemasyarakatan. Menurut P.Trudgill (dalam Shōji, 2001:84) menyatakan bahwa *the single most consistent finding to emerge from sociolinguistic studies over the*

past 20 years yang berarti bahwa penemuan ilmu sosiolinguistik sudah berlangsung selama 20 tahun lebih. Selanjutnya, menurut Machida (dalam Fransiska dan Teguh, 2015:11) mengemukakan bahwa:

社会言語学は社会的属性と言葉の関係、場面と言葉の関係、言語接触によって生じるいろいろな現象、言葉に対する意識などを主な研究課題とする。

‘Shakaigengogaku wa shakaitekizokusei to kotoba no kankei, bamen to kotoba no kankei, gengosesshoku ni yotte shojiru iroiro na genshō, kotoba ni taisuru ishiki nado wo omona kenkyūkadai to suru.’

“Sosiolinguistik adalah ilmu yang meneliti sesuatu yang berkaitan dengan bahasa dan macam-macam fenomena yang timbul oleh penggunaan bahasa tersebut, hubungan bahasa dengan situasinya, dan hubungan bahasa dengan masyarakat penutur.”

Di dalam masyarakat, seseorang tidak lagi dipandang sebagai individu yang terpisah, tetapi sebagai anggota dan kelompok sosial. Oleh karena itu, bahasa dan pemakaiannya tidak diamati secara individual, tetapi dihubungkan dengan kegiatan di dalam masyarakat atau dipandang secara sosial. Faktor linguistik yang mempengaruhi bahasa dan pemakaiannya terdiri dari fonologi, morfologi, sintaksis, dan semantik. Faktor sosial yang mempengaruhi bahasa terdiri dari status sosial, tingkat pendidikan, umur, jenis kelamin, dan lain sebagainya.

1. Masalah-masalah Sociolinguistik

Masalah sociolinguistik adalah hal-hal yang merupakan topik yang dikaji dalam sociolinguistik. Menurut pendapat Chaer dan Agustina dalam konferensi sociolinguistik pertama di University of California, terdapat tujuh masalah dalam sociolinguistik. Ketujuh masalah tersebut adalah

- a. Identitas sosial penutur;
- b. Identitas sosial dari pendengar yang terlibat;
- c. Lingkungan sosial tempat peristiwa tutur;
- d. Analisis sinkronik dan diakronik dari dialek-dialek sosial;
- e. Penilaian sosial yang berbeda oleh penutur terhadap perilaku bentuk-bentuk ujaran;
- f. Tingkatan variasi dan ragam linguistik; dan
- g. Penerapan praktis dari penelitian sociolinguistik.

Selain tujuh masalah di atas, menurut pendapat Nababan ada masalah lain yang hampir sama dengan masalah tersebut. Adapun masalah tersebut adalah

- a. Bahasa, dialek, idiolek, dan ragam bahasa;
- b. *Repertoire* bahasa;
- c. Masyarakat bahasa;
- d. Kedwibahasaan dan kegandaan;
- e. Fungsi masyarakat bahasa dan profil sociolinguistik;
- f. Penggunaan bahasa/etnografi berbahasa;
- g. Sikap bahasa;

- h. Perencanaan bahasa;
- i. Interaksi sosiolinguistik; dan terakhir
- j. Bahasa dan kebudayaan.

Berdasarkan masalah yang sudah disebutkan di atas, peneliti akan mengangkat tema ragam bahasa. Berbeda dengan Indonesia yang tidak memiliki ciri khusus dalam ragam bahasa, di Jepang terdapat ragam bahasa khusus untuk wanita dan ragam bahasa khusus untuk pria. Dalam menganalisis bahasa wanita dan bahasa pria ini, sangat besar pengaruhnya terhadap ilmu sosiolinguistik, karena merupakan cabang linguistik yang meneliti bentuk bahasa serta pemakaiannya sehubungan dengan pelafalan kosakata, gramatika, cara-cara pengungkapan. Selain itu mencakup juga faktor usia, kelas sosial, hubungan manusia dan lainnya.

Dari definisi sosiolinguistik tersebut, peneliti dengan mudah untuk meneliti perbedaan penggunaan bahasa wanita dan pria Jepang pada umumnya, dan penyimpangan ragam bahasa yang terjadi tidak hanya dalam anime Naruto saja, namun juga dalam kehidupan sehari-hari masyarakat Jepang. Peneliti lebih memfokuskan untuk membahas ragam bahasa wanita dan pria serta penyimpangan penggunaan ragam bahasa wanita oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime Naruto Shippuuden.

B. Ragam Bahasa

Bahasa di dunia tidaklah sama. Baik dari segi intonasinya maupun pola kalimat yang digunakan. Di Indonesia kita mengenal adanya bahasa nasional (bahasa persatuan, bahasa resmi, bahasa negara, bahasa pengantar, bahasa kebudayaan, dan juga bahasa daerah.) (Pateda, 1987:52). Ragam bahasa merupakan variasi bahasa menurut pemakaian, yang berbeda-beda menurut topik yang dibicarakan, menurut hubungan pembicara, kawan bicara, dan orang yang dibicarakan, serta menurut medium pembicaraan (Kridalaksana, 2009:206). Hudson berpendapat dalam bukunya bahwa *devine a variety of language as a set of linguistic items with similar social distribution* (Hudson, 1996:22) yang berarti bahwa definisi dari ragam bahasa merupakan satu kesatuan dari linguistik yang berdistribusi pada sosial.

Dalam proses komunikasi yang sebenarnya, setiap penutur bahasa tidak pernah setia dengan satu ragam/dialek tertentu saja. Karena setiap penutur pasti mempunyai kelompok sosial dan hidup dalam tempat dan waktu tertentu. Ada hal yang membedakan variasi-variasi bahasa antara lain (Chaer dan Agustina, 2010:62-72):

- a. Segi Penutur,
- b. Segi Pemakaian,
- c. Segi Keformalan, dan
- d. Segi Sarana.

Berikut ini pemaparannya secara terperinci.

a. Variasi Bahasa dari Segi Penutur

Variasi bahasa pertama yang kita lihat berdasarkan penuturnya adalah variasi bahasa yang disebut *idiolek*, atau bahasa yang bersifat individu atau perseorangan. Variasi ini berhubungan dengan warna suara, pilihan kata, gaya bahasa, susunan kalimat, dan sebagainya. Jadi meskipun bahasanya sama, akan sangat berbeda dari segi aksen, intonasi, dan sebagainya. Meskipun dua orang kembar sekalipun, warna suara, yang menandai idioleknya, masih dapat dibedakan.

Variasi bahasa kedua berdasarkan penuturnya adalah disebut dialek, yakni variasi bahasa dari sekelompok penutur yang jumlahnya relatif, yang berada pada satu tempat, wilayah, atau area tertentu. Karena memang dialek ini didasarkan pada wilayah atau area tertentu. Penggunaan istilah dialek dan bahasa dalam masyarakat umum memang bersifat ambigu. Secara linguistik bila masyarakat tutur masih mengerti, maka alat komunikasinya adalah dua dialek dari bahasa yang sama. Contohnya, bahasa Indonesia dan bahasa Malaysia, yang secara linguistik adalah sebuah bahasa, namun secara politis dianggap sebagai dua bahasa yang berbeda.

Variasi bahasa ketiga berdasarkan penutur adalah *kronolek* atau *dialek temporal*, yaitu variasi bahasa yang digunakan oleh kelompok sosial pada masa tertentu. Sebagai contoh, variasi bahasa Indonesia pada masa tahun tiga puluhan, variasi yang digunakan tahun lima puluhan, dan variasi yang digunakan masa kini. Variasi bahasa pada ketiga zaman itu tentunya berbeda, baik dari segi lafal, ejaan,

morfologi, maupun sintaksis. Dalam bahasa Inggris, kita bisa melihat bedanya variasi bahasa Inggris zaman sebelum Shakespeare, zaman Shakespeare, dan zaman sekarang.

Variasi bahasa yang keempat berdasarkan penuturnya adalah apa yang disebut *sosiolek* atau *dialek sosial*, yakni variasi bahasa yang berkenaan dengan status, golongan, dan kelas sosial para penuturnya. Dalam sociolinguistik biasanya variasi inilah yang paling banyak dibicarakan dan paling banyak menyita waktu untuk membicarakannya, karena variasi ini menyangkut semua masalah pribadi para penuturnya, seperti usia, pendidikan, seks, pekerjaan, tingkat kebangsawanan, keadaan sosial ekonomi, dan sebagainya. Berdasarkan seks (jenis kelamin) penutur dapat pula disaksikan adanya dua jenis variasi bahasa. Sebagai contoh, dengarkanlah percakapan sekelompok ibu-ibu atau mahasiswi dan percakapan sekelompok bapak-bapak atau mahasiswa. Pasti akan terlihat perbedaan variasi keduanya. Dalam hal ini dapat juga dicatat adanya variasi bahasa yang digunakan oleh para *waria* atau kaum *gay*, dua kelompok manusia yang mempunyai penyimpangan seks.

Sehubungan dengan variasi bahasa berkenaan dengan tingkat, golongan, status, dan kelas sosial para penuturnya, biasanya dikemukakan orang variasi bahasa yang disebut *akrolek*, *basilek*, *vulgar*, *slang*, *kolokial*, *jargon*, *argot* dan *ken*. Ada juga yang menambahkan dengan yang disebut bahasa *prokem*. Yang dimaksud *aklorek* adalah variasi sosial yang dianggap lebih tinggi atau lebih bergengsi daripada variasi sosial lainnya. Sebagai contoh, bahasa Perancis dialek

kota Paris dianggap lebih tinggi derajatnya daripada dialek-dialek Perancis lainnya.

Kemudian yang dimaksud dengan *basilek* adalah variasi sosial yang dianggap kurang bergengsi, atau bahkan dianggap dipandang rendah. Semisal bahasa Inggris yang dipakai oleh para *cowboy* dan kuli tambang dapat dikatakan sebagai *basilek*. Lalu yang dimaksud dengan *vulgar* adalah variasi sosial yang ciri-cirinya tampak pemakaian bahasa oleh mereka yang kurang terpelajar, atau dari kalangan mereka yang tidak berpendidikan. Yang dimaksud dengan *slang* adalah variasi sosial yang bersifat khusus dan rahasia. Artinya, variasi ini digunakan oleh kalangan tertentu yang sangat terbatas, dan tidak boleh diketahui oleh kalangan luar kelompok itu. Oleh karena itu, kosakata yang digunakan dalam *slang* selalu berubah-ubah. Karena bersifat rahasia, maka timbul kesan bahwa *slang* ini adalah bahasa rahasianya para pencoleng atau pejabat; padahal tidak demikian.

Yang dimaksud dengan *kolokial* adalah variasi sosial yang digunakan dalam percakapan sehari-hari. Kata *kolokial* berasal dari kata *colloquium* (percakapan, konversasi). Jadi *kolokial* berarti bahasa percakapan, bukan bahasa tulis. Dalam bahasa Indonesia percakapan banyak digunakan bentuk-bentuk *kolokial*, seperti *dok*(dokter), *prof*(profesor), *let*(letnan), *sus*(suster), *trusah*(tidak usah), dan sebagainya. Dalam percakapan atau tulisan formal ungkapan-ungkapan seperti contoh di atas harus dihindarkan. Lalu yang dimaksud dengan *argot* adalah variasi sosial yang digunakan secara terbatas para profesi tertentu dan bersifat rahasia. Sebagai contoh dalam dunia kejahatan pernah digunakan ungkapan

seperti *kacamata* dalam arti 'polisi', *daun* dalam arti 'uang', *gemuk* dalam arti 'mangsa besar'.

Lalu yang terakhir, yang dimaksud dengan *ken* (Inggris = *can't*) adalah variasi sosial tertentu bernada 'memelas', dibuat merengek-rengok, penuh dengan kepura-puraan. Biasanya digunakan oleh para pengemis, seperti tercermin dalam ungkapan *the can't of beggar* (bahasa pengemis).

b. Variasi dari Segi Pemakaian

Variasi bahasa berkenaan dengan penggunaannya, pemakaiannya, atau fungsinya disebut fungsiolek, ragam, atau register. Variasi bahasa berdasarkan bidang kegiatan ini yang paling tampak cirinya adalah dalam kegiatan kosakata. Setiap bidang kegiatan ini biasanya mempunyai sejumlah kosakata khusus atau tertentu yang tidak digunakan dalam bidang lain. Namun demikian, variasi berdasarkan bidang kegiatan ini tampak pula dalam tataran morfologi dan sintaksis. Struktur morfologi dan sintaksis yang normatif seringkali dikorbankan dan dihindarkan untuk mencapai efek keuforiaan dan kedaayaan yang tepat atau paling tepat. Ragam bahasa jurnalistik juga mempunyai ciri tertentu, yakni bersifat sederhana, komunikatif, dan ringkas. Sederhana karena harus dipahami dengan mudah; komunikatif karena jurnalistik harus menyampaikan berita secara tepat; dan ringkas karena keterbatasan ruang (dalam media cetak), dan keterbatasan waktu (dalam media elektronik). Sebagai contoh kalimat "Gubernur tinjau daerah banjir" (dalam bahasa baku berbunyi, "Gubernur meninjau daerah banjir").

Ragam bahasa militer dikenal dengan cirinya yang ringkas dan bersifat tegas, sesuai dengan tugas dan kehidupan kemiliteran yang penuh dengan disiplin dan instruksi. Ragam militer di Indonesia dikenal dengan cirinya yang memerlukan keringkas dan ketegasan yang dipenuhi dengan berbagai singkatan dan akronim. Bagi orang di luar kalangan militer, singkatan dan akronim itu memang seringkali sukar dipahami, tetapi bagi kalangan militer itu sendiri tidak menjadi persoalan.

Ragam bahasa ilmiah yang juga dikenal dengan cirinya yang lugas, jelas, dan bebas dari keambiguan, serta segala macam metafora dan idiom. Bebas dari segala keambiguan karena bahasa ilmiah harus memberikan informasi keilmuan secara jelas, tanpa keraguan akan makna, dan terbebas dari kemungkinan tafsiran makna yang berbeda. Oleh karena itulah juga bahasa ilmiah tidak menggunakan segala macam metafora dan idiom.

Variasi bahasa berdasarkan fungsi ini lazim disebut *register*. Dalam pembicaraan tentang register ini biasanya dikaitkan dengan masalah dialek. Kalau dialek berkenaan dengan bahasa itu digunakan oleh siapa, di mana, dan kapan, maka register berkenaan dengan masalah bahasa itu digunakan untuk kegiatan apa. Dalam kehidupan modern pun ada kemungkinan adanya seseorang yang hanya mengenal satu dialek; namun, pada umumnya dalam masyarakat modern orang hidup dengan lebih dari satu dialek (regional maupun sosial) dan menggeluti sejumlah register, sebab dalam masyarakat modern orang sudah pasti berurusan dengan sejumlah kegiatan yang berbeda.

c. Variasi dari Segi Keformalan

Berdasarkan tingkat keformalan, Martin Joos (dalam Chaer dan Agustina, 2010:70) dalam bukunya *The Five Clock* membagi variasi bahasa atas lima macam gaya (*Inggris Style*), yaitu gaya atau ragam beku (*frozen*), gaya atau ragam resmi (*formal*), gaya atau ragam usaha (*konsultatif*), gaya atau ragam santai (*casual*), dan gaya atau ragam akrab (*intimate*).

Ragam beku adalah variasi bahasa yang paling formal, yang digunakan dalam situasi-situasi khidmat, dan upacara-upacara resmi, misalnya, dalam upacara kenegaraan, khotbah di mesjid, tata cara pengambilan sumpah,; kitab undang-undang, akte notaris, dan surat-surat keputusan. Disebut demikian karena pola dan kaidahnya sudah ditetapkan secara mantap, tidak boleh diubah. Ragam resmi atau formal adalah variasi bahasa yang digunakan dalam pidato kenegaraan, rapat dinas, surat-menyurat dinas, ceramah keagamaan, buku-buku pelajaran, dan sebagainya. Pola dan kaidah ragam resmi sudah ditetapkan secara mantap sebagai suatu standar. Jadi percakapan antarteman yang sudah karib atau percakapan dalam keluarga tidak menggunakan ragam resmi ini. Tetapi pembicaraan dalam acara peminangan, pembicaraan dengan seorang dekan di kantornya, atau diskusi dalam ruang kuliah adalah menggunakan ragam resmi ini.

Ragam usaha atau *ragam konsultatif* adalah variasi bahasa yang lazim digunakan dalam pembicaraan biasa di sekolah, dan rapat-rapat atau pembicaraan yang berorientasi kepada hasil atau produksi. Jadi, dapat dikatakan ragam usaha ini adalah ragam bahasa yang paling operasional. Wujud ragam usaha ini berada

di antara ragam formal dan ragam informal atau ragam santai. *Ragam santai* atau *ragam kasual* adalah variasi bahasa yang digunakan dalam situasi tidak resmi untuk berbincang-bincang dengan keluarga atau teman karib pada waktu beristirahat, berolah raga, berekreasi, dan sebagainya. Ragam santai ini banyak menggunakan bentuk *alegro*, yakni bentuk kata atau ujaran yang dipendekkan. Kosakatanya banyak dipenuhi unsur leksikal dialek dan unsur bahasa daerah. Seringkali struktur morfologi dan sintaksis yang normatif tidak digunakan. *Ragam akrab* atau *ragam intimi* adalah variasi bahasa yang biasa digunakan oleh para penutur yang hubungannya sudah akrab, seperti antaranggota keluarga, atau antarteman yang sudah karib. Ragam ini ditandai dengan artikulasi yang seringkali tidak jelas. Hal ini terjadi karena di antara partisipan sudah saling pengertian dan memiliki pengetahuan yang sama. Perhatikan ketiga kalimat contoh berikut.

- (a) Saudara boleh mengambil buku-buku ini yang Saudara sukai.
- (b) Ambillah yang kamu sukai.
- (c) Kalau mau ambil aja.

Tingkat keformalan kalimat (a) lebih tinggi daripada kalimat (b); dan kalimat (b) lebih tinggi daripada kalimat (c). Kalimat (a) termasuk kedalam kalimat usaha, sebab kurang lebih bentuk kalimat seperti itulah yang biasa kita gunakan. Kalimat (b) termasuk ragam santai; sedangkan kalimat (c) termasuk dalam ragam akrab, sebab hanya kepada teman kariblah bentuk ujaran seperti itu yang kita gunakan.

d. Variasi dari Segi Sarana

Variasi bahasa dapat pula dilihat dari segi sarana atau jalur yang digunakan. Dalam hal ini dapat disebut adanya ragam bahasa lisan dan ragam tulis, atau juga ragam dalam berbahasa dengan menggunakan sarana atau alat tertentu, yakni dalam bertelepon dan bertelegraf. Ragam bahasa bertelepon sebenarnya termasuk ragam bahasa lisan dan ragam bahasa dalam telegraf sebenarnya termasuk dalam ragam bahasa tulis; tetapi kedua macam sarana komunikasi itu mempunyai ciri-ciri dan keterbatasannya sendiri-sendiri, menyebabkan kita tidak dapat menggunakan ragam lisan dan ragam tulis semau kita. Ragam bahasa dalam bertelepon dan bertelegraf menuntut persyaratan tertentu, sehingga menyebabkan dikenal adanya ragam bahasa telepon dan ragam bahasa telegraf, yang berbeda dengan ragam-ragam bahasa lainnya.

1. Ragam Bahasa Jepang

Seperti yang sudah diketahui, dalam kehidupan masyarakat Jepang, terdapat berbagai macam ragam bahasa yang bisa kita temukan. Ada ragam bahasa anak, ragam bahasa orang tua, ragam bahasa anak muda dan sebagainya. Menurut Subandi dalam jurnalnya (2006:90) faktor pembeda bahasa yang tidak selalu dimiliki oleh setiap bahasa adalah faktor gender atau faktor jenis kelamin. Beberapa rumpun bahasa menunjukkan cara khusus berupa perbedaan ragam bahasa pria dengan ragam bahasa wanita yang menjadi identitas tersendiri sebagai pembeda dengan rumpun bahasa yang lain. Berdasarkan gender penuturnya, ragam bahasa Jepang terbagi atas dua macam yakni ragam bahasa wanita (*joseigo*)

dan ragam bahasa pria (*danseigo*). Menurut Susumu (dalam Fransiska dan Teguh, 2015:59), orang Jepang memang merasa ada perbedaan dalam ragam bahasa pria dan wanita. Perbedaan penggunaan tersebut dapat dilihat dalam contoh kalimat ‘Hari ini panas ya’

- a. 今日は暑いな (あ)。

Kyou wa atsui na (a).

- b. 今日は暑いわ (あ)。

Kyou wa atsui wa (a).

- c. 今日は暑いよ (う)。

Kyou wa atsui yo (u).

- d. 今日は暑いぞ (お)。

Kyou wa atsui zo (o).

- e. 今日は暑いぜ (え)。

Kyou wa atsui ze (e).

- f. 今日は暑いわね (え)。

Kyou wa atsui wa ne (e).

Dalam contoh (a), (d), dan (e), merupakan contoh kalimat ragam bahasa yang biasa digunakan oleh pria, kemudian contoh (b), (c), dan (f) merupakan contoh kalimat ragam bahasa yang biasa digunakan oleh wanita. Selain diatas, terdapat perbedaan kosakata untuk mengungkapkan bahasa yang berhubungan dengan ragam bahasa pria dan wanita seperti berikut:

- a. Terdapat perbedaan urutan dalam kosakata

Contoh:

男女

Danjo (Pria dan Wanita)

- b. Terdapat penggunaan kata yang hanya dipakai oleh wanita

Contoh:

清純な女性

Seijun na josei (Wanita yang polos).

- c. Terdapat penanda yang hanya dipakai oleh wanita

Contoh:

店員

Ten'in (Karyawan toko pria).

女店員

Joten'in (Karyawan toko wanita).

Mungkin pada acara-acara formal di Jepang, kita jarang mendengar pemakaian *danseigo* dan *joseigo* karena akan menggunakan pola kalimat baku seperti *masu* dan *desu*. Pemakaian kedua ragam ini akan sangat kontras didengar dalam kehidupan sehari-hari masyarakat Jepang. Tidak jarang juga kedua ragam bahasa ini dipakai di dalam siaran radio, drama, anime, film, atau acara-acara lainnya. Dalam kehidupan sehari-hari pria lebih banyak berbicara ragam bahasa pria kepada sesama gender, namun ketika mereka berbicara kepada wanita,

mereka mengubah kalimatnya menjadi sama seperti ragam wanita (Osamu dan Nobuko, 1990:124).

Contoh:

Pria kepada Pria

めし、食いに 行こうか。

Meshi, kui ni ikou ka.

Mau pergi makan siang?

Pria kepada Wanita

お昼、食べに 行かない?

Ohiru, tabe ni ikanai?

Mau pergi makan siang?

Bagi orang Jepang hal ini sudah biasa mendengar *danseigo* dan *joseigo*. Berbeda dengan bahasa Indonesia, tidak ada ciri khusus yang digunakan untuk membedakan antara ragam bahasa wanita dan bahasa pria, sehingga bahasa Indonesia dipakai secara universal oleh semua gender. Sehingga bagi orang Indonesia akan sangat sulit untuk membedakan bahkan terkadang akan salah menafsirkan ketika pertama kali belajar bahasa Jepang. Memang pada saat pertemuan pertama kali bertemu akan memakai bahasa resmi atau bahasa standar yang dipakai seperti *masu* dan *desu*. Namun ketika hubungan sudah menjadi akrab,

di dalam pembicaraan di antara mereka akan tampak jelas perubahan variasi bahasanya (Sudjianto dan Ahmad, 2014:204).

Adanya kedua ragam bahasa ini tidak bisa dilepas dari sejarah awal mula ragam bahasa wanita dan ragam bahasa pria ditemukan. Menurut Reiichi (dalam Fransiska dan Teguh, 2015:67), bahasa wanita dalam bahasa Jepang berkembang dari *nyooboo kotoba* yang pada mulanya dipakai oleh sesama wanita petugas istana yang mulai dipakai oleh para wanita yang bertugas di *dairi* dan di *sendoo gosho* yang ada di istana Kyoto. Bahasa itu dipakai dalam kehidupan sehari-hari para putri dan permaisuri istana kira-kira pada tahun 1420. Pada mulanya *nyooboo kotoba* yang pada mulanya memiliki jumlah kosakata yang terbatas, bersamaan dengan perkembangannya zaman, baik jumlah kata maupun ruang lingkup pemakaiannya semakin meluas tidak terbatas pada lingkungan istana.

Lalu setelah zaman Edo akhirnya dicatat pada beberapa tulisan yang berhubungan dengan *jochuu kotoba* ‘bahasa yang dipakai di kalangan para pembantu rumah tangga’. Pada masa Genroku (abad 17 sampai permulaan abad 18) *gosho kotoba* ‘bahasa yang dipakai dalam lingkungan istana’ sudah dipakai juga oleh kelas bawah. Dipakainya *nyooboo kotoba* oleh para pembantu rumah tangga keluarga samurai pada zaman itu sebagai *oyashiki kotoba*. Sejak masa pertengahan hingga akhir zaman Edo, bahasa ini sudah dipakai secara luas oleh masyarakat umum. Zaman dulu di Jepang sangat jelas dibedakan posisi, peran laki-laki dan perempuan, maka dibentuk ragam bahasa pria dan wanita. Namun kedua ragam ini terus berubah seiring dengan perkembangan zaman. Asal bahasa pria yang sering dipakai sampai sekarang adalah bahasa Samurai Zaman Edo.

Samurai (侍 atau 士) adalah istilah untuk perwira militer kelas elit sebelum zaman industrialisasi di Jepang. Kata “samurai” berasal dari kata kerja “*samorau*” asal bahasa Jepang kuno, berubah menjadi “*saburau*” yang berarti “melayani”, dan akhirnya menjadi “samurai” yang bekerja sebagai pelayan bagi sang majikan. Ragam bahas pria menjadi bahasa Jepang yang sering dipakai oleh orang Jepang, baik pria maupun wanita zaman sekarang.

C. Ragam Bahasa Pria (*danseigo*)

Ragam bahasa pria merupakan bahasa yang kuat sekali kecenderungannya dipakai oleh penutur pria (Sudjianto dan Ahmad, 2014:204). Kata yang termasuk *danseigo* dalam bahasa Jepang adalah *ore*, *boku*, *kisama* dan partikel yang biasa dipakai pada akhir kalimat adalah *sa*, *zo*, *ze*, dan sebagainya. Sama halnya menurut Matsumura (dalam Fransiska dan Teguh, 2015:64) mendefinisikan *danseigo* sebagai berikut:

男性後特有の言葉、あるいは表現、「俺」、「お前」、「僕」、「君」、終助詞の「ぜ、ぞ」、感動詞「おい、こち」などの類。

Danseigotokuyū no kotoba aruiwa hyogen, [ore], [omae], [boku], [kimi], shūjōshi no [ze], [zo], kandōshi [oi], [kochi] nado no rui.

‘Ungkapan atau bahasa laki-laki seperti [ore], [omae], [boku], [kimi], partikel akhir [ze], [zo], interjeksi [oi], [kochi] dan lain sebagainya.’

Menurut Takamizawa, *danseigo* dipakai pada situasi tidak formal, seperti kepada teman atau rekan kerja yang sebaya dan dari atasan kepada bawahan. Sedangkan pada situasi formal hampir tidak ada perbedaan pria-wanita dalam pemakaian bahasa. Di dalam masyarakat penutur bahasa Jepang zaman sekarang pun sudah diperkenalkan tata cara kebahasaan yang membedakan gender kepada anak-anak. Contohnya terhadap pemakaian promina persona, anak laki-laki biasanya menggunakan personal promina ‘boku’ yang tidak dipakai oleh anak perempuan.

Menurut Susumu (dalam Fransiska dan Teguh, 2015:65) terdapat kosakata yang hanya dipakai oleh kaum pria saja, seperti 豪傑 *gōketsu* ‘pahlawan’, 女らしい *onnarashii* ‘banci’, 色魔 *shikima* ‘nafsu lelaki’, ジゴロ *jigoro* ‘gigolo’. Meski demikian, ada pula kosa kata yang bisa mewakili penggunaannya untuk pria maupun wanita, seperti 青年 *seinen* 少年 *shōnen* ‘remaja’. Pemakaian ragam bahasa pria dan wanita tidak bisa dihindarkan oleh penutur bahasa Jepang dimana akan sangat jelas terdengar entah di promina persona, partikel akhir, interjeksi. Dalam hal pemilihan bahasa, sebagian besar bahasa yang digunakan oleh pria tidak memiliki pembahasan bahasa tertentu seperti layaknya wanita. Pria bisa dengan bebas mengutarakan pendapat sesuai dengan perasaan hatinya pada saat itu juga tanpa harus memikirkan pilihan kata yang dianggap tabu bila diucapkan. Dapat diamati bila seorang pria berbicara baik secara intonasi maupun secara pemilihan bahasanya dapat dikatakan lebih keras, tegas, dan terkesan memiliki wibawa dan maskulinitas.

Stereotip karakter dari ragam bahasa pria yang maskulin yaitu bersifat rasional, pasti dan sungguh-sungguh, kompetitif, tegas, cenderung mendominasi, penuh perhitungan, menahan diri, fiskal, agresif, dan cenderung egois.

1. *Ninshou Daimeishi* (Pronomina Persona)

Daimeishi adalah kata-kata yang menunjukkan sesuatu secara langsung tanpa menyebutkan nama orang, benda, barang, perkara, arah, tempat, dan sebagainya. Kata-kata yang dipakai untuk menunjukkan orang disebut *ninshou daimeishi* (pronomina persona) (Sudjianto dan Ahmad, 2014:160). Dalam *Ninshou Daimeishi* pun terbagi atas beberapa jenis tergantung siapa subjek yang dituju, seperti *Jishou*(kata ganti orang pertama), *Taishou*(kata ganti orang kedua), dan *Tashou*(kata ganti orang ketiga).

a. Kata Ganti Orang Pertama (*Jishou*)

Jishou merupakan pronomina persona yang dipakai oleh pembicara pada saat menunjukkan diri sendiri atau sesuatu yang berhubungan dengan diri sendiri (Sudjianto dan Ahmad, 2014:161). Kata ganti orang pertama yang secara umum, baik pria maupun wanita pakai adalah *watakushi* dan *watashi*. Kata *watakushi* merupakan bentuk yang lebih halus daripada *watashi*. Namun demikian keduanya sama-sama memiliki arti yang sama yaitu ‘saya’ yang bisa dipakai kedua gender karena sifatnya yang netral, contoh:

これはわたしの友達です。

Kore wa watashi no tomodachi desu.

‘Ini adalah teman saya.’

わたくしは山田と申します。

Watakushi wa Yamada to mou shimasu.

‘Nama saya Yamada’

Selain kedua *Jishou* netral diatas, *Jishou Daimeishi* yang sering dipakai oleh kaum pria adalah:

1.) *Boku* (僕)

Boku merupakan kata yang populer digunakan oleh pria. Paling sering dipakai untuk bahasa puisi dan lirik lagu. *Boku* dapat berkesan sopan tetapi juga terkesan biasa dan ramah. Tidak dapat digunakan pada situasi resmi karena terkesan kurang formal. Dalam kehidupan sehari-hari, pemakaian kata *Boku* sering dipakai oleh pria yang sudah akrab, baik yang sederajat maupun yang statusnya lebih rendah dari pembicara. Dalam suatu data survey dengan koresponden pelajar SMP, sebanyak 51.7% laki-laki atau pria menggunakan kata *boku* dalam kehidupan sehari-hari (Shibamoto, 1985:57). Bisa dan sering juga digunakan oleh wanita khususnya jika ingin menunjukkan kesan tomboy. Pada lirik-lirik lagu yang dinyanyikan oleh wanita, *Boku* juga sering digunakan sebagai bentuk keuniversalan dalam lirik suatu lagu.

Contoh:

僕もあなたが好きだ。

Boku moanata ga suki da.

‘Aku juga menyukaimu..’

2.) *Ore* (俺)

Ore merupakan kata yang populer digunakan oleh pria. Konteks pemakaian *Ore* lebih rendah dibandingkan dengan *Boku* dan jarang sekali dipakai oleh pria dengan kedudukan yang tinggi atau oleh orang yang lebih tua. Umumnya, ketika kita menggunakan *Ore* kepada lawan bicara, maka kita mengirimkan kesan yang keras namun pembicaraannya santai, tidak resmi dan mencerminkan kedekatan personal. Sebanyak 21.8% pria di Jepang menggunakan kata *ore* sebagai kata tunjuk diri sendiri atau untuk menunjukkan ‘saya’. Bagi sebagian pria yang ingin terkesan garang, *Ore* dapat diucapkan dengan menekan ‘R’ dan ‘E’ seperti *Orree*. Hindari menggunakan kata ini situasi formal atau kepada lawan bicara yang lebih senior, termasuk kepada orang yang kita hormati, kecuali saat kita ingin menunjukkan bahwa kita sedang marah.

Contoh:

俺は絶対負けないんだ!

Ore wa zettai makenainda!

Aku tidak akan kalah!

3.) *Washi* (わし)

Washi merupakan kata yang mengungkapkan ‘saya’ yang menjelaskan bahwa yang memakai kata itu adalah orang tua di umur pertengahan dan dipakai hanya oleh pria. Pemakaian kata *washi* menunjukkan kesombongan, keangkuhan atau kecongkakan penuturnya. Dalam logat kansai biasa disingkat: *Wai*

Contoh:

わしは1929年に生まれた。

Washi wa 1929 nen ni umareta.

‘Saya lahir tahun 1929.’

4.) *Ware* (我)

Ware merupakan kata yang mengungkapkan ‘saya’ yang menjelaskan bahwa pemakainya adalah orang tua, sama seperti ‘*washi*’. Sering dipakai oleh penutur pria dengan bentuk jamak *ware ware* atau *warera* yang berarti ‘kami’. Terkesan bijaksana saat menggunakan *Ware*. Kata ini juga mempunyai makna yang ambigu, tergantung dengan bagaimana kita mengucapkannya dan dapat juga bermakna: kepemilikannya atau bahkan pada masa lalu (bahasa Jepang kuno) dapat bermakna: kamu.

Contoh:

我々は生れ落ちた瞬間から、何かを奪い透ける。

Wareware wa umare ochita shunkan kara, nanika wo ubai sukeru.

‘Semenjak kita dilahirkan, kita terus mengambil sesuatu dari lainnya.’

b. Kata Ganti Orang Kedua (*Taishou*)

Taishou merupakan pronomina persona yang dipakai oleh pembicara pada saat menunjukkan lawan bicara atau sesuatu yang berhubungan dengan lawan bicara. (Sudjianto dan Ahmad, 2014:161). Kata ganti orang kedua yang secara umum, baik pria maupun wanita pakai adalah *anata* atau *anta*. Kata *anata* digunakan untuk menyatakan orang yang diajak berbicara yang derajat atau umur yang sama atau lebih muda dari penutur. Dalam lingkungan keluarga kadang kala diucapkan sebagai sapaan/panggilan oleh seorang isteri kepada suaminya. Namun demikian keduanya sama-sama memiliki arti yang sama yaitu ‘kamu’ atau ‘anda’ yang bisa dipakai kedua gender karena sifatnya yang netral, contoh:

あなたはどこへ行きますか。

Anata wa doko e ikimasu ka?

‘Kamu mau pergi kemana?’

あんた、何が食べたい？

Anta, nani ka tabetai?

‘Sayang, mau makan apa?’

Selain *Taishou* netral diatas, *Taishou Daimeishi* yang sering dipakai oleh kaum pria adalah *kimi*, *omae*, *temae* dan *kisama*. Tingkat kesopanan dari keempat *taishou* pun berbeda. *Kimi* dan *omae* biasa digunakan oleh pria sebaya atau terhadap bawahan dalam percakapan sehari-hari dirasakan lebih akrab dan tidak kaku. Kata *omae* akan terdengar kasar, namun dalam suasana yang akrab pemakaian kata ini tidak akan terdengar kasar. Berbeda dengan *kimi* dan *omae*, *kisama* dan *temae* lebih sering dipakai saat pembicara sedang marah untuk menunjukkan cacian atau makian terhadap lawan bicara. Namun, tidak sedikit juga pria yang memanggil nama yang diikuti kata *san* kepada lawan bicara, dan *kun* bila lawan bicaranya berusia lebih muda dari penutur. Untuk panggilan *san* kepada lawan jenis, bisa digunakan kepada lawan jenis maupun sejenis yang berumur sederajat atau lebih muda dari penutur.

Contoh :

君、お湯を準備してください。

Kimi, oyu wo junbi shite kudasai.

‘Kamu, tolong siapkan air panasnya.’

お前、もう食べたか。

Omae, mou tabetaka?

‘Kamu sudah makan?’

きさまはいつたい、この戦いに何の意味がある？

Kisama wa ittai, kono tatakai ni nan no imi ga aru?

‘Kamu ini, apa maksud dari pertarungan ini?’

亜門さんはアカデ出身なんですよ。

Amon san wa akademi shusshin nan desu yo ne.

‘Amon-san, kamu lulusan dari Akademi, ya?’

c. Kata Ganti Orang Ketiga (*Tashou*)

Tashou merupakan pronomina persona yang dipakai oleh pembicara pada saat menunjukkan benda atau orang lain selain pembicara dan lawan bicara. (Sudjianto dan Ahmad, 2014:161). Dalam bahasa Jepang, bentuk formal dari kata ganti orang ketiga adalah *kono kata*, *sono kata*, dan *ano kata*. Ketiga bentuk ini merupakan bentuk halus dari *kono hito*, *sono hito*, dan *ano hito* dimana ketiga ini juga merupakan bentuk yang lebih halus dibandingkan dengan *koitsu*, *soitsu*, dan *aitsu*. Selain itu juga terdapat *kanojo* dan *kare* dimana lebih netral bisa dipakai oleh wanita maupun pria. Keduanya dapat digunakan hanya ketika kita tidak perlu menunjukkan rasa hormat kepada seseorang dan biasa digunakan oleh orang yang sederajat atau lebih rendah kedudukan dan umurnya. Tentunya, sangat tidak dianjurkan juga untuk memanggil atasan dengan sebutan *kanojo* dan *kare*. Untuk menunjuk atasan, akan lebih sopan bila menggunakan *ano kata*. *Koitsu*, *soitsu*, dan *aitsu* merupakan bentuk yang sangat kasar. Dalam kehidupan sehari-hari remaja Jepang, *koitsu*, *soitsu*, dan *aitsu* biasa digunakan oleh kaum pria yang sebaya atau

kedudukan lawan bicaranya lebih rendah. Namun ada kesan ‘meremehkan’ dalam konteks kata ini.

Contoh:

彼は私の小学校の友達です。

Kare wa watashi no shougakkou no tomodachi desu.

‘Dia adalah teman SD saya’

彼女は誰ですか。

Kanojo wa dare desu ka.

‘Siapa dia?’

あいついったい誰だ。

Aitsu ittai dare da.

‘Siapa sebenarnya dia.’

2. *Kandoushi* (Interjeksi)

Kandoushi merupakan salah satu kelas kata yang termasuk *jiritsugo* atau kata yang dapat berdiri sendiri yang tidak dapat berubah bentuknya, tidak dapat menjadi subjek, tidak dapat menjadi keterangan, dan tidak dapat menjadi konjungsi (Sudjianto dan Ahmad, 2014:169). Menurut Shimizu Yoshiaki, sesuai dengan huruf yang dipakai untuk menuliskannya, di dalam *kandoushi* terkandung

kata-kata yang mengungkapkan perasaan seperti rasa terkejut dan rasa gembira, namun selain itu di dalamnya terkandung kata-kata yang menyatakan panggilan atau jawaban terhadap orang lain. *Kandoushi* dalam ragam Bahasa pria, akan terdengar terkesan tegas, keras, dan cenderung kasar.

Menurut Suzuki (dalam Fransiska dan Teguh, 2015:106), yang dimaksud dengan *kandoushi* adalah:

感動詞とは、呼び掛け、受け答え、挨拶、叫び、掛け声、などをそのままに表し主として、そのような意味のもうぐるな一語分となったり、また分の中でそのような意味の独立語になったりする品心である。

Kandoushi to wa, yobikake, ukekotae, aisatsu, sakebi, kakegoe, nado wo sono mama ni arawashi shu toshite, sono youna imi no mouguruna ichi go bun to nattari, mata bun no naka de sono youna imi no dokuritsugo ni nattari suru hinshi de aru.

‘Kata seru merupakan panggilan, jawaban, salam, seruan, seruan dan teriakan secara utuh. Kata seru sebagian besar berbentuk kalimat yang berhubungan dengan perasaan, dengan maksud seperti diatas, juga kata seru merupakan kata yang mandiri dengan kalimat dan maknanya tersebut diatas.’

Menurut Takano juga, *kandoushi* terbagi atas 4 jenis, yaitu:

a. *Kandou* (Impresi)

Merupakan *kandoushi* yang mengungkapkan impresi atau emosi. Seperti rasa senang, marah, sedih, rasa kaget, atau terkejut, takut, kecewa, rasa khawatir, dan sebagainya.

b. *Yobikake* (Panggilan)

Merupakan kata-kata yang menyatakan panggilan, ajakan dan imbauan. Selain itu, dapat juga berarti sebagai peringatan yang ditujukan kepada orang lain.

c. *Outou* (Jawaban)

Merupakan *kandoushi* yang menyatakan jawaban dan tanggapan atau reaksi terhadap pendapat atau tuturan orang lain.

d. *Aisatsugo* (Ungkapan persalaman)

Merupakan kalimat minor berupa klausa atau pun bukan, bentuknya tetap yang biasa dipakai dalam pertemuan antar pembicara untuk memulai percakapan, mohon diri, perpisahan dan sebagainya.

Menurut Iwabuchi (dalam Sudjianto dan Ahmad, 2014:169), karena banyaknya *kandoushi* yang secara langsung menyatakan perasaan pembicara, maka kelas kata ini sering dipakai dalam ragam bahasa lisan. *Kandoushi* di dalam bahasa Jepang modern terdiri dari tiga macam, yakni:

- *Kandoushi* yang menyatakan rasa haru (*aa, ara, oyaoya, chikushou, hatena, ore, dore*);

- *Kandoushi* yang menyatakan panggilan (*moshi, kora, kore, nee, saa, hora*);
- *Kandoushi* yang menyatakan jawaban (*hai, iie, un*).

Berikut ini merupakan *kandoushi* yang biasa dipakai dan dijumpai dalam percakapan ragam bahasa pria.

a.) おい、おおい(Oi atau Ooi)

Menurut Matsumura, *kandoushi* [oi] adalah bahasa yang digunakan oleh laki-laki pada saat memanggil terhadap lawan bicara yang memiliki hubungan dekat atau lebih rendah. Bila di padankan dengan bahasa Indonesia, bisa berarti: Hei, Hai, Halo, dan Wahai.

Contoh :

おいお前は、私のことを聞いているのか。

Oi omae wa, watashi no koto wo kite no ka?

‘Hei kau, dengar ucapanku tidak?’

b.) くそ (*Kuso*)

Kata ini merupakan kata yang biasa digunakan oleh pria bila sedang mencaci atau sedang memaki sesuatu atau seseorang. Biasa menggunakan kata *kuso* atau *chikusou*.

Contoh:

お前は何やってんだよ、くそ女。

Omae wa nani yatten dayo, kuso onna.

‘Apa yang kau lakukan, wanita sialan?’

c.) こら (*Kora*)

Kata ini merupakan kata yang dikeluarkan pada saat memanggil untuk memberhentikan atau menyalahkan lawan tutur.

Contoh:

こら金木、お前どんなだけ休んでるんだよ。

Kora Kaneki, omae wa donna dake yasunderun dayo.

‘Hei Kaneki! Sampai kapan kamu dirumah terus?’

d.) おお (*Oo*)

Kata ini merupakan kata yang dikeluarkan ketika menyetujui sesuatu, pengakuan, atau pengertian. Dalam bahasa Indonesia bisa berarti ‘ya’ dan biasa dipakai oleh pria.

Contoh:

ニシオ : 永近さん、お前今から通りに行こうよ。

ヒデ : 先輩のうちにですか。

ニシオ : おお。

Nishio : Nagachika san, omae ima kara toori ni ikou yo.

(Nagachika, ayo ikut dengan ku pergi.)

Hide : *Senpai no uchi ni desuka.*
(Maksudnya, ke rumahmu?)

Nishio : *Oo*
(Iya.)

Selain dari pada *Kandoushi* yang ada diatas, menurut Iwabuchi (dalam Sudjianto dan Ahmad, 2014:170), ada juga pendapat yang mengatakan jenis ungkapan-ungkapan persalaman seperti *ohayou*, *konnichiwa*, dan *sayounara* juga termasuk kedalam kelas *kandoushi*.

3. *Shuujoshi* (Partikel Akhir)

Shuujoshi merupakan berbagai macam kata pada bagian akhir kalimat untuk menyatakan suatu pertanyaan, larangan, seruan, rasa haru, dan sebagainya. *Joshi* yang termasuk kelompok ini misalnya *ka*, *kashira*, *na*, *naa*, *zo*, *tomo*, *yo*, *ne*, *wa*, *no*, dan *sa* (Sudjianto dan Ahmad, 2014:182). Dari partikel akhir inilah yang akhirnya bisa membedakan yang manakah termasuk ragam bahasa pria, dan yang mana yang termasuk ragam bahasa wanita. *Shuujoshi* ini paling sering dijumpai dalam ragam lisan dan biasanya ragam lisan tidak resmi atau ragam lisan tidak formal. Beberapa partikel akhir biasa digunakan oleh wanita, dan beberapa lagi digunakan oleh pria, dan ada juga kategori ke tiga yang dipakai oleh keduanya, baik pria dan wanita namun dengan kata kerja dan partikel yang berbeda (Shibamoto, 1985:61). Menurut Naohashi (dalam Fransiska dan Teguh, 2015:89) pengertian *shuujoshi* adalah:

終助詞は文の終末に位置する助詞である。

Shuujoshi wa bun no shuumatsu ni ichi suru joshi de aru.

‘Shuujoshi adalah joshi yang terletak di akhir kalimat’.

Berikut ini adalah *Shuujoshi* yang biasa dipakai oleh pria, di antaranya adalah:

a.) ぜ (*Ze*)

Partikel *ze* dapat dipakai pada akhir kalimat yang mendukung ajakan, ungkapan atau kata-kata yang diucapkan untuk menarik perhatian lawan bicara terhadap hal-hal yang diucapkan, menyatakan suatu ungkapan remeh terhadap lawan bicara, dan untuk menyatakan ajakan.

Contoh:

あそこまで追い詰めたんだぜ。

Asoko made oitsumetan daze.

‘Kita sudah mengejarnya hingga sejauh itu.’

b.) ぞ (*Zo*)

Partikel *zo* bisa dipakai saat berbicara sendiri (menyatakan sesuatu terhadap dirinya) untuk menyatakan keputusan atau ketidakpastian hati pembicara. Partikel ini sama dengan *ze* yang bisa dipakai untuk menyatakan ketegasan

pembicara sebagai usaha untuk menarik perhatian lawan bicara. Namun penggunaan *zo* lebih tegas dibanding dengan *ze*.

Contoh:

ウサギは寂しいと死んじゃうだぞ！

Usagi wa sabishii to shinjau da zo!

‘Saat kelinci sendirian, mereka bisa mati!’

c.) *かな(Kana)*

Partikel *kana* digunakan untuk menyatakan ketidakpastian pada diri sendiri, menyatakan arti bertanya kepada lawan bicara, ungkapan harapan kepada lawan bicara dan menyatakan suatu pertanyaan kepada lawan bicara. Pada hakikatnya, digunakan oleh kaum pria Jepang.

Contoh:

董香ちゃん。明日金木君のマスク作りに付き合ってくれないかな。

Touka chan. Ashita Kaneki kun no masuku dzukuri ni tsukiatte kurenai kana.

‘Touka. Maukah kau untuk mengantar Kaneki membuat Masker besok?’

d.) さ(*Sa*)

Partikel *sa* bisa dipakai setelah kalimat atau setelah bagian kalimat tersebut sebagai cara untuk menarik perhatian lawan bicara dan untuk memperhalus suatu penegasan dan sebagai bentuk keakraban yang biasa dipakai oleh kaum pria. Bila digunakan secara bersamaan dengan kalimat pertanyaan, maka menyatakan perasaan seperti penegasan dan perlawanan terhadap lawan bicara yang mengandung makna tidak puas atau mencela.

Contoh:

子供にだってできるさ。

Kodomo ni datte dekiru sa.

‘Anak kecil saja bisa loh.’

e.) な(*Na*)

Partikel *na* bisa dipakai pada akhir kalimat atau setelah bagian kalimat tersebut sebagai cara untuk menarik lawan bicara. Partikel ini juga digunakan untuk menyatakan larangan. Cara penggunaannya sama seperti *sa*. Partikel ini digunakan untuk menunjukkan keinginan, meminta agar lawan bicara setuju, dan memperhalus suatu permintaan dan pernyataan dan biasa dipakai oleh pria (Chino, 2005:170).

Contoh:

久しぶりだな。

Hisashiburi da na.

‘Lama tidak berjumpa.’

f.) い(I)

Partikel *i* digunakan untuk memperkuat penekanan suatu kalimat. Partikel ini menunjukkan ungkapan tanya dengan menggunakan bentuk ‘...kai’ dan ‘...dai’ dan ungkapan yang mengandung perasaan merendahkan dalam keadaan berlawanan dengan lawan bicara.

Contoh:

それ、まさかキリンかい。

Sore, masaka kirin kai?

‘Apakah itu seekor jerapah?’

g.) ね、ねえ(*Ne* atau *Nee*)

Partikel *ne* atau *nee* digunakan untuk menunjukkan perasaan kecewa, kagum, dan terkejut. Partikel ini juga bisa menyatakan pembicara yang meminta persetujuan dari pendengar, memastikan benar atau tidaknya suatu hal kepada lawan bicara. Partikel ini merupakan partikel netral dimana bisa digunakan oleh

pria dan wanita dimana pria menggunakannya sebagai bentuk sopan untuk penghubung kata kerja dan kata sifat.

Contoh:

俺は被害者だと思うけどね。

Ore wa higaisha da to omou kedo ne.

‘Aku lebih menganggapnya sebagai seorang korban.’

h.) よ(*Yo*)

Partikel *yo* digunakan untuk memberi nasehat secara halus, untuk mengajak seseorang, menyatakan larangan yang dapat digunakan bersamaan dengan kosa kata pertanyaan, dan untuk memberi penegasan pendapat sendiri terhadap lawan bicara. Sama halnya dengan *ne* atau *nee*, partikel ini merupakan partikel netral yang bisa digunakan oleh pria maupun wanita.

Contoh:

什造、私はお前が死んだら、悲しいよ。

Juuzo, watashi wa omae ga shindara, kanashii yo

‘Juza jika kau sampai mati, aku pasti akan sedih.’

D. Ragam Bahasa Wanita (*Joseigo*)

Menurut Jorden (dalam Sudjianto dan Ahmad, 2014:204) bahasa wanita (*feminine language*) adalah sebuah variasi bahasa Jepang, yang biasa disebut *joseigo* atau *onna kotoba*, yang secara khusus dipakai oleh kaum wanita sebagai suatu refleksi feminitas mereka. Keberadaan gaya bahasa yang secara tegas membedakan jenis kelamin tersebut merupakan karakteristik bahasa Jepang. Menurut Mizutani (dalam Fransiska dan Teguh, 2015:66), perbedaan nuansa *danseigo* dan *joseigo* tercermin dalam aspek pengucapan dan pelafalan, termasuk intonasi dan aksen wanita dalam mengeluarkan nada suara naik dan turun dalam jarak yang lebih besar dibanding pria pada saat mengungkapkan perasaannya. Namun menurut Susumu, terdapat penggunaan kosa kata yang khusus dipakai oleh wanita saja seperti *seijun shitoyaka* ‘polos dan anggun’, *kawai Kochan* ‘imut, manis’ dan terdapat kosakata yang terdiri dari gabungan dua kanji yang hanya dipakai oleh wanita yakni 魔女 *majo* ‘penyihir’ yang secara harfiah tidak bisa digantikan dengan kata 魔男 *madan*.

Stereotip karakter dari ragam bahasa wanita yang feminim adalah bersifat emosional, fleksibel dan plin – plan, kooperatif, mengalah, cenderung berelasi, instingtif, ekspresif, verbal, pasif, peduli, dan perhatian. Ragam bahasa wanita dalam bahasa Jepang modern ditandai dengan beberapa aspek di antaranya dengan pemakaian *shuujoshi* atau *bunmatsu hyouge*, dengan aspek leksikal seperti pemakaian pronomina persona pertama dan pemakaian interjeksi, dan ditandai juga dengan pemakaian ragam bahasa hormat (*keigo*).

1. *Ninshoo Daimeishi* (Pronomina Persona)

Ninshoo Daimeishi terbagi atas beberapa jenis tergantung siapa subjek yang dituju, seperti *Jishou*(kata ganti orang pertama), *Taishou*(kata ganti orang kedua), dan *Tashou*(kata ganti orang ketiga).

a. Kata Ganti Orang Pertama (*Jishou*)

Seperti yang sudah dipaparkan juga sebelumnya di atas, Kata ganti orang pertama yang secara umum, baik pria maupun wanita pakai adalah *watakushi* dan *watashi*. Akan tetapi, *watashi* lebih dominan dipakai oleh wanita, khususnya gadis muda sebanyak 57.8% (Shibamoto, 1985:57). Selain kedua *Jishou* netral diatas, *Jishou Daimeishi* yang sering dipakai oleh kaum wanita adalah:

1.) あたし(*Atashi*)

Atashi merupakan kata yang populer digunakan oleh gadis dan wanita dewasa yang menunjukkan kefeminimannya. Menurut suatu survey dengan responden pelajar, penggunaan *atashi* mencapai 32.5%, kedua terbesar setelah *watashi* (Shibamoto, 1985:57). Bentuk lain dari *atashi* adalah *atakushi*, perubahan dari *watakushi*. *Atashi* biasa digunakan untuk menunjukkan keakraban.

Contoh:

せっかく休日なのに、何であたしがわざわざこのやつと。

Sekkaku kyujitsu na no ni, nande atashi ga waza-waza kono yatsu to.

‘Padahal besok libur, kenapa juga aku yang repot-repot mengantar dia.’

2.) あたい (*Atai*)

Atai merupakan singkatan dari *atashi* namun terkesan agak kasar. Kata ini hanya diucapkan oleh wanita dimana berawal dari para wanita penghibur di daerah Tokyo.

Contoh:

これはあたいのお金わよ。

Kore wa atai no okane wa yo.

‘Uang ini punya gue!’

b. Kata Ganti Orang Kedua (*Taishou*)

Taishou yang biasa dipakai oleh wanita ada 2 macam, yakni *anata* dan *anta*. Biasanya, untuk ragam lisan yang lebih formal, wanita lebih sering memanggil dengan sebutan nama, diikuti dengan kata *san* atau *kun*. Karena dengan menyebut nama dan ditambah *san* atau *kun*, akan menambah kesan lebih sopan. Kata *anata* dan *anta* biasa dipakai oleh orang yang sebaya atau yang sudah akrab, atau umurnya lebih muda dibanding dengan penutur. Dalam kehidupan keluarga Jepang, kata *anata* lebih sering digunakan oleh seorang isteri untuk memanggil suami. Bila dipadankan dengan dengan bahasa Indonesia artinya adalah ‘sayang’.

Contoh:

あなたのおかげで、私はこれまで頑張ります。

Anata no okage de, watashi wa kore made ganbarimasu.

‘Berkat dirimu, aku bisa berjuang hingga sejauh ini.’

レイ、あんたシズクの葬式来なかったね。

Rei, anta Shizuku no soushiki konakatta ne.

‘Rei, kau tidak datang ke pemakaman Shizuku , ya?’

c. Kata Ganti Orang Ketiga (*Tashou*)

Tashou dalam ragam bahasa wanita bahasa Jepang tidak begitu banyak ditonjolkan. Kebanyakan gadis dan wanita dewasa lebih sering menggunakan kata *kare* atau *kanojo*. Ada pula yang menggunakan *kono yatsu*, *sono yatsu*, *ano yatsu*. Namun ketiga kata ini dipakai untuk orang yang sudah akrab saja. Pemakaian kata ini juga bisa dibilang kasar, karena terkesan merendahkan seseorang. Namun dalam pergaulan, kata ini dipakai untuk mengakrabkan dan pembicaraan yang dilakukan terkesan tidak kaku.

Contoh:

まさか、彼のことが好き？

Masaka, kare no koto ga suki?

‘Jangan-jangan, kamu suka dia, ya?’

彼女はこの秘密がしってる？

Kanojo wa kono himitsu ga shitteru?

‘Apa dia tau soal rahasia ini?’

2. *Kandoushi* (Interjeksi)

Menurut Shibamoto (1985) Berikut ini merupakan *kandoushi* yang biasa dipakai dan dijumpai dalam percakapan ragam bahasa wanita.

a.) あら (*Ara*)

Kata ini biasa digunakan untuk mengungkapkan terkejut, gembira, ratapan atau heran akan sesuatu hal.

Contoh:

あら、君はあれが本当にただの事項だと思っておるのかね。

Ara, kimi wa are ga hontou ni tada no jikou da to omotte oru no ka ne.

‘Apa kau percaya kalau itu hanyalah sebuah kecelakaan biasa?’

b.) まあ (*Maa*)

Kata *maa* merupakan *kandoushi* yang biasa di gunakan oleh perempuan untuk mengungkapkan perasaan kaget, terkejut, dan heran.

Contoh:

まあ、永久やりゼだって、きのうまたから生まれて来たわけじゃないんだ。

Maa, towa ya Rize datte, kinou mata kara umarete kita wake jyanain da.

‘Tapi meski begitu, bukan hal yang jarang Rize muncul seperti itu.’

c.) ちょっと (*Chotto*)

Kata ini merupakan *kandoushi* yang menyatakan panggilan juga. Sesuai dengan fungsinya, digunakan untuk memanggil. Dalam suatu kalimat juga bisa untuk penolakan.

Contoh:

ちょっとあなた、何か感じがして。

Chotto anata, nan ka kanji ga shite.

‘Hey tunggu! Kamu sudah salah paham!’

3. *Shuujoshi* (Partikel Akhir)

Seperti yang sudah di jelaskan sebelumnya, *shuujoshi* paling sering dijumpai dalam ragam lisan dan biasanya ragam lisan tidak resmi atau ragam lisan tidak formal. Beberapa partikel akhir biasa digunakan oleh wanita, dan beberapa lagi digunakan oleh pria, dan ada juga kategori ke tiga yang dipakai oleh keduanya, baik pria dan wanita namun dengan kata kerja dan partikel yang berbeda (Shibamoto, 1985:61). Berikut ini merupakan *shuujoshi* yang biasa dipakai oleh wanita dalam kehidupan sehari-hari.

a.) わ(*Wa*)

Partikel *wa* ini merupakan *shuujoshi* yang paling sering digunakan dimana mempunyai tekanan yang lembut sehingga memberi kesan feminim, ramah, dan mengungkapkan perasaan yang halus. Digunakan pada saat memberi kesan kagum, sedikit terkejut mengenai suatu hal yang menarik perhatian, kemauan, dan mengungkapkan suatu pendapat atau pemikiran sendiri.

Contoh:

あたし、益々出木杉さんのことが好きにだったわ。

Atashi, masumasu Dekisugi san no koto ga suki ni datta wa.

‘Aku makin menyukai Dekisugi dari sebelumnya.’

b.) の(*No*)

Partikel *No* ini digunakan sebagai pengganti kata tanya *ka*. Sehingga untuk memperjelas suatu konteks kalimat apakah kalimat tanya atau bukan, pada akhir kalimat kata *no* harus diucapkan dengan intonasi tinggi. Partikel ini juga

digunakan saat menunjukkan perasaan mengerti karena telah mengetahui alasannya, menyampaikan berita secara lembut, dan bisa untuk memberi perintah halus. Bila konteksnya bukan kalimat tanya, intonasi kata *no* diucapkan rendah.

Contoh:

のび太さん、何してるの？

Nobita san, nani wo shiteru no?

Nobita, kau sedang apa?

これが普通の事故じゃないの。

Kore ga futsuu no jiko jyanai no.

‘Ini bukanlah kecelakaan biasa.’

c.) て(*Te*)

Partikel *te* ini biasa digunakan oleh wanita sebagai ungkapan untuk bertanya, dan untuk memberi perintah juga.

Contoh:

雛実、逃げて。先にあんていくに帰ってて。

Hinami, nigete. Saki ni Anteiku ni kaette te.

‘Hinami, larilah. Pergilah ke Anteiku duluan.’

Selain tiga partikel di atas menurut Shibamono, partikel *shuujoshi* lain yang biasa digunakan oleh wanita dalam percakapan sehari-hari adalah:

d.) かしら (*Kashira*)

Partikel *Kashira* ini digunakan untuk menunjukkan perasaan bertanya-tanya dan mengandung unsur keragu-raguan pada diri sendiri. Sama seperti *kana* dalam ragam bahasa pria. Partikel ini juga untuk bertanya secara langsung kepada lawan bicara.

Contoh:

じゃ、今のお掃除もお願いしちゃうかしら。

Jya, ima no osouji mo onegaishichau kashira.

‘Maukah kau membersihkan ruang tamu sekarang?’

最近調子がいいわね。ドラちゃんがおかげかしら。

Saikin choushi ga ii wa ne. Dora chan ga okage kashira.

‘Akhir-akhir ini kamu baik ya. Apa ini semua berkat Doraemon?’

e.) こと (*Koto*)

Partikel *koto* digunakan oleh wanita untuk menunjukkan perasaan, saran atau sebagai undangan

Contoh:

この花の色の美しいこと。

Kono hana no iro no utsukushii koto.

‘Sungguh indah warna bunga ini.’

f.) ね、ねえ (*Ne* atau *Nee*)

Partikel *ne* atau *nee* digunakan untuk menunjukkan perasaan kecewa, kagum, dan terkejut. Partikel ini juga bisa menyatakan pembicara yang meminta persetujuan dari pendengar, memastikan benar atau tidaknya suatu hal kepada

lawan bicara (Chino, 2005:172). Partikel ini merupakan partikel netral, bisa digunakan oleh pria dan wanita. Pria menggunakannya sebagai bentuk sopan untuk penghubung kata kerja dan kata sifat. Sedangkan wanita terbatas pada kombinasi *wa* dan *no*

Contoh:

のび太さんはちっとも変わらないわね。

Nobita san wa chitto mo kawaranai wa ne.

‘Nobita san tidak pernah berubah sedikitpun ya.’

g.) よ(*Yo*)

Partikel *yo* digunakan untuk memberi nasehat secara halus, untuk mengajak seseorang, menyatakan larangan yang dapat digunakan bersamaan dengan kosa kata pertanyaan, dan untuk memberi penegasan pendapat sendiri terhadap lawan bicara. Sama halnya dengan *ne* atau *nee*, partikel ini merupakan partikel netral yang bisa digunakan oleh pria maupun wanita. Wanita pun menggabungkan dengan akhiran *wa* dan *no*

Contoh:

楽しいわよ。

Tanoshii wa yo.

‘Ini menyenangkan!’

のび太、早く起きなさい。もう朝ごはん食べてる時間ないわよ！

Nobita, hayaku okinasai. Mou asa gohan tabeteru jikan nai wa yo!

'Nobita, cepat bangun! Nanti kamu tak sempat sarapan , loh!'

E. Penyimpangan Ragam Bahasa

Bahasa tidak statis namun dinamis yang selalu berubah-ubah dari waktu ke waktu. Dewasa kini tidak jarang melihat fenomena pemakaian *danseigo* dan *joseigo* oleh penutur yang berbeda. Penutur wanita menggunakan *danseigo* sementara penutur pria menggunakan *joseigo*. Para era modern seperti saat ini ternyata penggunaan bahasa pada wanita dan pria yang “terbalik”, sudah bukan lagi hal yang aneh. Hal ini dianggap lumrah karena pemakaian kedua ragam bahasa ini tidak dapat dipaksakan. Sebaliknya, akan menjadi suatu penyimpangan bila masyarakat tidak menghendaki perilaku kebahasaan yang tidak sesuai dengan norma-norma gramatikal, semantis, atau sosial (Sudjianto dan Ahmad, 2014:210). Penyimpangan ini dilakukan untuk tujuan-tujuan tertentu dan dalam situasi tertentu. Penggunaan *danseigo* oleh wanita hanya sebagai ”bahasa pertemanan” atau “bahasa pergaulan” yang digunakan terhadap teman sebaya atau teman sekelas yang sudah akrab dalam situasi nonformal. Pada saat marah pun terkadang wanita menggunakan bahasa pria sebagai bentuk penekanan. Bila memasuki situasi tertentu terutama bila usia mereka sudah dewasa, maka akan kembali kepada pemakaian bahasa yang sewajarnya, kecuali wanita yang menyerupai pria atau yang disebut tomboy.

Sebaliknya demikian juga *joseigo* oleh penutur pria. Hal ini dilakukan untuk tujuan tertentu, misalkan untuk menarik minat para pelanggan yang menjadi lawan bicaranya yang kebetulan sebagian besar kaum wanita, atau disebabkan karena mereka masih belum cukup umur dan masih menggunakan bahasa ibu mereka, biasanya bila sudah besar, mereka akan merubah tatanan bahasa mereka yang sewajarnya, kecuali pada pria yang menyerupai wanita atau banci.

F. Penelitian Yang Relevan

Untuk meneliti tentang penyimpangan ragam bahasa wanita oleh penutur pria, peneliti menemukan data dari penelitian terdahulu yang juga meneliti tentang ragam bahasa, antara lain:

1. Rainhard Oliver Hofman Wungkana (2006) dimana dalam skripsi yang berjudul “Analisis Pemakaian Bahasa Laki-laki dan Bahasa Perempuan Dalam Komik Shinkan Volume 10” membahas Ragam Bahasa Perempuan dan Laki-laki secara detail dengan objek yang digunakannya adalah komik Shinkan. Peneliti sebelumnya menggunakan metode penelitian deskriptif dan mengambil komik atau manga sebagai objek penelitian. Hasil dari penelitian ini menyatakan bahwa bahasa perempuan lebih halus dibanding dengan bahasa laki-laki. Perbedaan penelitian peneliti dengan penelitian tersebut adalah penelitian terdahulu hanya membahas Ragam Bahasa Laki-laki dan Perempuan saja dan tidak membahas penyimpangan ragam bahasa.

Sedangkan peneliti meneliti Penggunaan Ragam Bahasa Wanita oleh Penutur Pria dengan menggunakan objek penelitian Anime Naruto.

2. Selain itu peneliti juga menemukan skripsi lain yang mengambil tema yang sama dengan peneliti, yakni milik Arina Kurniati (2014) yang berjudul “Penggunaan *Danseigo* Oleh Tokoh Utama Wanita Pada Serial Drama Gokusen I Episode I Tahun 2002”. Peneliti sebelumnya juga menggunakan metode penelitian deskriptif dan mengambil drama sebagai objek penelitian dan melakukan pendekatan semiotika. Perbedaan penelitian peneliti dengan penelitian tersebut terletak dari objek yang diangkat dan masalah penyimpangan yang diangkat. Penelitian sebelumnya membahas ragam bahasa pria yang dipakai oleh wanita. Hasil dari penelitian ini adalah penyimpangan bahasa laki-laki oleh penutur perempuan terjadi akibat dari pengaruh keadaan sosial di sekitarnya dan termasuk ke dalam kajian sosiolinguistik. Sedangkan peneliti membahas ragam bahasa wanita yang dipakai oleh penutur pria. Penelitian sebelumnya mengambil objek drama dimana yang menjadi pelaku penggunaan ragam bahasa prianya adalah tokoh utama. Sedangkan peneliti mengambil objek dari Anime dimana yang menjadi pelaku penggunaan ragam bahasa wanita adalah tokoh pendukung, yakni Orochimaru.

BAB III

METODOLOGI PENELITIAN

Pada bab III ini, peneliti akan tahapan peneliti membuat skripsi ini dalam memecahkan masalah penggunaan *joseigo* yang digunakan oleh pria pada karakter Orochimaru dalam Anime Naruto. Peneliti akan memaparkan langkah-langkah atau metode yang digunakan guna menjawab rumusan masalah pada bab sebelumnya.

A. Metode Penelitian

Metode dalam penelitian merupakan suatu alat untuk membantu peneliti dalam menjawab masalah yang dikemukakan. Dalam melakukan penelitian, peneliti memerlukan metode-metode untuk memperkuat fakta yang diteliti. Dengan menggunakan metode yang tepat, dapat mengarahkan pada suatu kesimpulan yang valid. Drs. Mardalis dalam bukunya yang berjudul Metode Penelitian (2014:24) menjelaskan bahwa *metode* diartikan sebagai suatu cara atau teknis yang dilakukan dalam proses penelitian, sedangkan *penelitian*, diartikan sebagai upaya dalam bidang ilmu pengetahuan yang dijalankan untuk memperoleh fakta-fakta dan prinsip dengan sabar, hati-hati dan sistematis untuk mewujudkan kebenaran. Maka dapat disimpulkan bahwa metode penelitian merupakan cara yang digunakan dalam proses penelitian dalam proses pengumpulan data.

B. Metode Penelitian Deskriptif

Untuk menyusun skripsi ini, metode yang digunakan peneliti adalah metode deskriptif karena penelitian yang dilakukan bukan eksperimen dan tidak memerlukan administrasi maupun pengontrolan terhadap sesuatu perlakuan melainkan hanya menggambarkan tentang sesuatu variable, gejala, atau keadaan dengan apa adanya. Penelitian deskriptif ini juga merupakan penelitian yang memaparkan keadaan objek yang diselidiki (seseorang, lembaga, masyarakat, pabrik, dan lainnya) sebagaimana adanya berdasarkan fakta-fakta aktual pada saat sekarang (Sudaryono, 2017:82).

Tujuan dari penelitian deskriptif adalah untuk membuat pencandraan secara sistematis, faktual, dan akurat mengenai fakta-fakta dan sifat-sifat populasi atau daerah tertentu (Suryabrata, 2014:75) Metode penelitian deskriptif ini mempunyai sifat-sifat tertentu yang dipandang sebagai ciri-ciri deskriptif yaitu:

1. Memusatkan diri pada pemecahan masalah yang ada pada masalah aktual;
2. Data yang dikumpulkan mula-mula disusun, dijelaskan dan kemudian dianalisis.

Dengan demikian, peneliti mengumpulkan data-data yang berhubungan dengan penggunaan *joseigo* oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime *Naruto*, mengklasifikasikannya dan kemudian menganalisis masalah yang telah dirumuskan.

C. Teknik Pengumpulan Data

Untuk memperoleh data yang akurat dan relevan dengan objek yang sedang diteliti, peneliti menggunakan teknik pengumpulan data yang sederhana agar peneliti dapat mencari dan memperoleh data yang akurat. Peneliti melakukan studi kepustakaan untuk mencari dan mengetahui teori yang sesuai dengan apa yang diteliti peneliti. Teori tersebut kemudian yang menjadi dasar peneliti untuk menentukan mana saja yang termasuk ke dalam *joseigo* dan mana yang bukan termasuk kedalam *joseigo*. Tahapan selanjutnya yang dilakukan peneliti guna memperoleh data adalah dengan menggunakan metode simak dimana peneliti dengan seksama mendengar setiap ucapan apa saja yang termasuk kedalam penyimpangan penggunaan *joseigo* yang digunakan oleh pria pada karakter Orochimaru.

Setelah melakukan metode simak, kemudian adalah teknik catat. Dalam tahap ini peneliti mencatat data yang sudah diperoleh dari objek penelitian yang merupakan pola kalimat *joseigo* yang diucapkan oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime Naruto. Kemudian data itu dianalisis sehingga menemukan jawaban dari permasalahan yang diangkat oleh peneliti.

D. Proses Penelitian

Dalam menyelesaikan skripsi ini peneliti melakukan langkah-langkah untuk mendapatkan hasil atau data yang akurat. Dalam proses ini, peneliti membuat beberapa langkah proses penelitian, yaitu:

1. Tahap Perencanaan

Yang berisikan pemilihan judul skripsi, penyusunan latar belakang masalah, identifikasi masalah, merumuskan hipotesis, menetapkan metodologi penelitian, menyusun sistematika penulisan.

Pada tahap ini peneliti melakukan bimbingan atau bertanya dengan dosen pembimbing kemudian mengajukan proposal rancangan tersebut untuk mendapat pengesahan dan persetujuan dari dosen pembimbing tersebut.

2. Proses Pelaksanaan

Pada tahap ini, peneliti melakukan beberapa langkah, yaitu:

a. Pengumpulan buku untuk dijadikan sumber teori.

Peneliti mencari sumber teori yang berkaitan dengan tema yang diangkat oleh peneliti dengan mencari buku referensi di berbagai perpustakaan.

b. Pengumpulan data untuk dijadikan sumber penelitian.

Setelah peneliti mencari sumber dari literatur yang ada, peneliti kemudian mengumpulkan data dari objek penelitian, yaitu anime

dengan cara mendownload anime tersebut. Peneliti mencatat setiap kalimat yang diucapkan Orochimaru dalam anime Naruto;

c. Mengolah data yang terkumpul.

Setelah mengumpulkan data, peneliti kemudian mengklasifikasi data yang sudah terkumpul. Peneliti mengklasifikasi dalam 2 kategori yaitu, *Shuujoishi*, dan *Kandoushi*;

d. Menganalisis data.

Setelah peneliti mengklasifikasi data yang sudah ada, peneliti kemudian menganalisis data yang sudah terkumpul dan masuk ke tahap akhir yaitu;

e. Menafsirkan hasil data.

Setelah peneliti menganalisis data, peneliti kemudian menafsirkan hasil data yang akan dijadikan jawaban dari rumusan masalah dan memberi kesimpulan akhir.

Sebelum mengumpulkan data, peneliti mencari buku teori yang sesuai dengan tema penelitian. Kemudian peneliti mencari data dari objek dimana terdapat bentuk-bentuk *joseigo* yang digunakan oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime Naruto dan diterjemahkan ke dalam bahasa Indonesia. Kemudian data yang berupa pola kalimat kemudian dibedah untuk melihat konteks dialog dan teori para ahli untuk menemukan identifikasi dan klasifikasi serta penyebab penggunaan *joseigo* oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime Naruto. Lalu tahap selanjutnya adalah peneliti kemudian mendiskusikan hasil penelitian ini kepada dosen pembimbing untuk dilakukan suatu perbaikan atau revisi.

3. Penyelesaian

Tahap akhir dalam proses pelaksanaan penulisan skripsi sangat penting. Setelah peneliti menganalisis dengan berpedoman pada tahapan-tahapan diatas, peneliti membuat kesimpulan dari hasil yang diperoleh dari kegiatan analisis. Guna mendapatkan hasil akhir yang baik, maka peneliti mencoba memperhatikan beberapa hal berikut:

a. Isi dan bentuk

Agar lebih mudah untuk dibaca dan dipahami oleh pembaca, perlu memperhatikan beberapa hal berikut ini:

- 1.) Skripsi penelitian ini ditulis secara deskriptif atau penjabaran;
- 2.) Peneliti melakukan penulisan dengan sistematis, berisi, dan jelas;
- 3.) Isi diperinci dengan menggunakan bab dan sub bab agar mempermudah pembaca mencari bagian tertentu.

b. Pembaca

Penelitian ditujukan bagi pembelajar bahasa Jepang maupun masyarakat umum yang ingin mengerti dan memahami isi penelitian tersebut, untuk menambah pengetahuan mengenai macam-macam *joseigo* yang digunakan oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime Naruto.

Dalam penulisan pun peneliti tidak hanya mencantumkan huruf-huruf Jepang pada contoh kalimat, namun peneliti juga mencantumkan huruf romawi dan arti sebagai pengantar bagi pembaca yang bukan pembelajar bahasa Jepang agar lebih mudah memahami setiap konteks kalimat.

E. Objek Penelitian

Objek penelitian yang akan ditulis peneliti adalah *joseigo* dalam anime Naruto baik anime Naruto series, maupun anime Naruto Shippuuden dimana tokoh Orochimaru muncul. Peneliti menjadikan *joseigo* sebagai objek penelitian karena peneliti baru mengetahui penggunaan *joseigo* yang tidak hanya dipakai oleh wanita, namun ada juga yang digunakan oleh pria yang termasuk ke dalam kajian sociolinguistik.

F. Sumber Data

Sumber data yang digunakan peneliti adalah anime *Naruto Shippuuden* dimana karakter Orochimaru muncul. Peneliti sudah menonton berbagai macam anime, ternyata peneliti menyadari bahwa dalam anime Naruto khususnya karakter Orochimaru menggunakan *joseigo*.

BAB IV

ANALISIS DATA

Pada bab ini akan dibahas gambaran umum latar penelitian, paparan data bentuk-bentuk ragam bahasa wanita yang muncul pada karakter Orochimaru, analisis data, pembahasan kepribadian Orochimaru dan interpretasi data. Data diambil dari episode-episode anime *Naruto Shippuuden*. Berdasarkan hasil pengumpulan data, ditemukan beberapa kategori ragam bahasa wanita yang sering digunakan oleh karakter Orochimaru dan faktor yang melatarbelakangi penggunaan joseigo oleh tokoh pria.

A. Gambaran Umum Latar Penelitian

1. Serial Naruto

Anime Naruto ini bercerita tentang kehidupan tokoh utamanya, Uzumaki Naruto, seorang ninja yang hiperaktif, periang, dan berambisius untuk mendapatkan gelar Hokage, pemimpin dan ninja terkuat di desanya. Cerita awal bermula ketika seekor monster rubah ekor sembilan atau disebut kyuubi menyerang Konoha, sebuah desa shinobi yang terletak di negara Api. Kekacauan terjadi di desa Konoha dan korban banyak berjatuhan. Akhirnya, ada seseorang yang berhasil melenyapkan Kyuubi dengan menyegel sebagian chakra Kyuubi itu ke dalam tubuhnya sendiri dan sisanya ke dalam tubuh Naruto, orang yang berhasil menyegel monster itu adalah Yondaime Hokage, Hokage ke-4 atau Namikaze Minato yang merupakan ayah dari Naruto itu sendiri.

Dua belas tahun kemudian, diceritakan seorang anak bernama Uzumaki Naruto yang sering membuat onar di desa Konoha. Naruto melakukan hal tersebut untuk menarik perhatian dari penduduk desa yang menjauhinya karena rubah di tubuhnya atau disebut sebagai wadah monster berekor atau Jinchuuriki. Naruto tidak mengetahui hal itu, karena Hokage ke-3 melarang penduduk desa Konoha menceritakan serangan Kyuubi tersebut. Kehidupan Naruto sebagai Genin dimulai dengan terbentuknya Tim 7 yang beranggotakan Naruto, Uchiha Sasuke, dan Haruno Sakura dengan Hatake Kakashi sebagai guru mereka. Saat menjalankan tes dengan Kakashi, Naruto, Sasuke, dan Sakura nyaris tidak lulus. Karena melihat kekompakan tim antara Naruto dan Sasuke maka Kakashi pun meluluskan mereka, dengan alasan yang pernah dikatakan temannya yaitu Uchiha Obito, “Orang yang tidak taat pada peraturan adalah sampah, tetapi orang yang membiarkan temannya menderita lebih hina daripada sampah!”

Hokage ke-3 memanggil para Jounin Konoha untuk mendiskusikan mengenai ujian Chuunin antara Konoha dan Sunagakure. Para Jounin sepakat untuk mengadakan ujian dan mengirim ninja-ninja pilihan mereka. Saat pendaftaran ujian Naruto, Sasuke dan Sakura bertemu dengan banyak saingan baru yang kuat antara lain, Gaara, Kankuro, Temari, Rock Lee, Hyuga Neji dan lainnya. Ujian awal dimulai dengan tes tertulis, berkat semangat Naruto sebagian peserta dapat lulus. Ujian kedua berupa babak hidup mati berebut gulungan rahasia di Hutan Kematian Konoha. Di luar dugaan, tim 7 ini diserang oleh salah satu Sannin Legendaris, Orochimaru yang menyamar menjadi peserta.

2. Karakter Orochimaru

Orochimaru (大蛇丸) merupakan salah satu Sannin legendaris dari Konohagakure. Dengan hidup untuk ambisi mempelajari semua rahasia dunia dan mendapat semua jutsu, Orochimaru mencari keabadian sehingga ia bisa hidup abadi yang diperlukan untuk menyelesaikan tugasnya. Dia membelot dari Konoha dari pada disiksa karena ambisinya, dan selama bertahun-tahun berusaha untuk menghancurkan desa dalam rangka untuk membalas dendam dan menunjukkan apa yang telah ia pelajari. Setelah beberapa kematian dalam mengejar tujuannya, Orochimaru menyadari pendekatannya buruk melalui Yakushi Kabuto dan mulai memantau pilihan dan tindakan mantan rekannya, Uchiha Sasuke.

a. Latar Belakang Kehidupan Orochimaru

Orochimaru adalah seorang yatim piatu, dan menjadi murid dari Sarutobi Hiruzen bersama dengan Jiraiya dan Tsunade. Berbeda dengan Jiraiya yang tampak santai, Orochimaru menunjukkan dirinya yang jenius yang dibanjiri dengan kemampuan yang hebat yang dianggap oleh Hiruzen hanya muncul satu kali dalam satu generasi, sehingga ia beranggapan bahwa Orochimaru akan meneruskan cita-citanya dan kekuatan Hiruzen. Menurut Tsunade, Orochimaru memiliki kepribadian yang bengkok bahkan sejak kecil. Sikap sadisnya muncul karena kematian kedua orang tuanya. Setelah kehilangan orang tuanya, Orochimaru bertemu dengan ular putih di dekat makam kedua orang tuanya, dengan penjelasan Hiruzen itu mewakili keberuntungan dan lahirnya kembali inspirasi Orochimaru untuk belajar *kinjutsu* dan memperoleh pengetahuan tentang

semua teknik. Jiraiya berpendapat, apa yang dilakukan Orochimaru adalah upaya untuk melupakan ingatannya yang menyakitkan.

Selama perang dunia Shinobi ke dua, Orochimaru bersama dengan Jiraiya dan Tsunade berperang melawan Hanzo dan memberi julukan kepada mereka “Sannin Legendaris” dari Konoha (伝説の三忍) sebagai penghargaan karena bisa bertahan dalam berperang melawan Hanzo, sementara sisa kelompok mereka sudah dibantai. Saat perjalanan pulang kembali ke Konoha, mereka bertemu dengan tiga anak yatim piatu dari Amegakure, Orochimaru ingin membunuh mereka dengan belas kasihan sebelum Jiraiya memutuskan untuk melatih mereka sebagai gantinya.

Setelah tim Hiruzen dibubarkan, Orochimaru kemudian menjadi anggota Anbu dan bergabung dalam Root dibawah kepemimpinan Shimura Danzo dan menjadi mentor Mitarashi Anko. Pada saat itulah Orochimaru bertemu dengan Yakushi Kabuto saat menemani Danzo memaksa Nono ke dalam sebuah misi. Orochimaru berambisi untuk menjadi Hokage ke empat dan menggunakan jabatannya untuk melancarkan agendanya. Meskipun Hiruzen mengetahui maksud jahat mantan muridnya hanya dari matanya yg penuh dengan kebencian dan ambisi tersembunyi, dia berharap untuk menyadarkan Orochimaru bahwa dia berada di luar bantuan semua orang. Ketika Hiruzen menetapkan Namikaze Minato sebagai penggantinya, Orochimaru melihat tidak ada alasan bagi dia untuk tinggal di Konoha dan mulai kurang bijaksana dalam setiap tindakannya. Alasan Hiruzen memilih Minato sebagai Yondaime dan bukan Orochimaru adalah karena

penyimpangan yang dilakukan Orochimaru. Dia memulai eksperimennya pada DNA Senju Hashirama dengan enam puluh anak yang dia culik untuk menciptakan kekuatan kayu pertama dengan bantuan Danzo. Sadar bahwa ia telah gagal, Orochimaru tidak menyadari bahwa ada satu anak yang selamat dari eksperimen DNA Hashiramanya. Dia kemudian menyempurnakan proses tersebut dengan menyuntikkan sel-sel Hashirama ke lengan kanan Sharingan yang diinfus dari Uchiha Shin yang dia tanam ke Danzo.

Orochimaru melakukan berbagai eksperimen pada tahanannya, beberapa diantaranya adalah sesama shinobi Konoha yang diculiknya. Dia menggunakan mereka sebagai kelinci percobaan untuk mengembangkan teknik yang akan memberikannya keabadian, hasil akhirnya adalah Edo Tensei no Jutsu (Reinkarnasi Jenazah Hidup). Beberapa waktu kemudian, Orochimaru berada di pinggir kota Kirigakure ketika ia menemukan Kimimaro, satu-satunya anak yang selamat dari klan Kaguya. Berkat Kimimaro, penelitian Orochimaru tentang sumber kekuatan Jugo membawanya untuk menemukan Gua Ryuuchi dan guru senjutsu. Karena tidak dapat memasuki Mode Sage karena kerapuhan tubuh inangnya, Orochimaru malah mengembangkan metode alternatif memanfaatkan chakra senjutsu melalui segel terkutuk yang ia uji coba pada Anko dan beberapa orang lain sebelum akhirnya menggunakan versi akhir pada Kimimaro dan Yoninshuu. Dalam anime, Orochimaru menemukan klan Iburi yang hidup di bawah tanah dekat Konoha. Orochimaru tertarik dengan kemampuan mereka untuk menjadi asap, ia memanfaatkan klan Iburi dari ketakutan transformasi mereka yang tidak sempurna dan berpotensi fatal. Orochimaru mengatakan

kepada ketua klan bahwa ia membutuhkan lebih banyak penelitian untuk menyempurnakan prosesnya, dengan senang hati mereka memberi subjek tes ke Orochimaru.

Karena subjek tesnya mulai mati, Orochimaru tertangkap basah oleh Hiruzen. Meskipun tau akan tugasnya, Hiruzen tidak memiliki keinginan untuk membunuh mantan muridnya dan membiarkan Orochimaru melarikan diri. Selama pelarian, Orochimaru bertemu dengan Hatake Kakashi. Terlepas dari usaha Kakashi, Orochimaru dengan mudah mengalahkannya. Orochimaru terluka akibat peledak yang disembunyikan di mulut ular. Ia mengutuk Hiruzen dan kembali mendapat ketenangannya dan melanjutkan perjalanannya meskipun terluka dan meninggalkan Kakashi yang membeku karena ketakutan akan tatapan jahat Orochimaru. Orochimaru mengunjungi gua tempat klan Iburi hidup dan membunuh mereka semua. Ia mendapatkan sampel darah Yukimi, anggota klan Iburi termuda dan berniat untuk menyuntikkannya darah itu ke dalam dirinya untuk sementara mendapat kemampuannya dan menyelip keluar perbatasan. Namun ia diserang sebelum ia dapat mencapainya dan dengan cepat melarikan diri. Orochimaru berhasil menghancurkan sebagian besar fasilitas penelitiannya dan mengambil sisanya.

Orochimaru akhirnya melarikan diri dari Konoha. Jiraiya mencoba untuk menahan Orochimaru namun tidak digubris dan akhirnya pergi dari desa. Orochimaru segera menjadi anggota afiliasi kriminal elit bernama Akatsuki. Orochimaru kemudian bermitra dengan Sasori, dan menjalankan misi dari organisasi. Dia kemudian menyaksikan dengan takjub ketika Uchiha Itachi

bergabung dengan organisasi. Orochimaru berniat untuk mencuri tubuh dan mata Sharingan Itachi sebelum akhirnya Itachi menggunakan Sharingan untuk menghentikannya melakukan itu. Orochimaru kemudian memotong tangan kirinya dan mematahkan genjutsu itu dan meninggalkan Akatsuki untuk mendapatkan wadah baru. Sasori menaruh dendam terhadapnya dan menggunakan Kabuto, yang telah Orochimaru kirim untuk melayani Sasori sebagai mata-matanya di dalam Akatsuki. Ketika diberi petunjuk oleh Kabuto bahwa Sasori sedang dalam perjalanan untuk memburunya, ia memilih untuk menggunakan ini sebagai kesempatan untuk menguji perkebangan hasil penelitian terhadap Edo Tensei no Jutsunya dan memanggil Kazekage ketiga.

Orochimaru juga telah melakukan pencarian seumur hidup untuk pedang Totsuka, sebuah pedang halus. Tetapi ia tidak menyadari bahwa itu milik Susanoo Itachi. Dalam anime, Orochimaru menyaksikan Mizuki membunuh seorang kawan selama misi. Dia berpura-pura memberi hadiah untuk tindakan berani Mizuki, Orochimaru memberi segel terkutuk khusus. Sebenarnya, segel itu adalah alat eksperimen yang tidak lengkap yang akan menghancurkan siapapun yang menggunakannya, yang di inginkan Orochimaru adalah bagaimana efek yang akan terjadi pada Mizuki setelah mendapat segel tersebut.

B. Paparan Data *Joseigo* Yang Dipakai Oleh Pria Pada Karakter Orochimaru

Berdasarkan hasil pengumpulan data dari 500 episode Naruto Shippuuden karya Masashi Kishimoto, ditemukan sebanyak 47 episode munculnya

Orochimaru. Dari 47 episode tersebut, ditemukan 228 data Orochimaru menggunakan *joseigo* ditinjau dari pemakaian *kandoushi* dan *shuujoshi*. Berikut ini hasil pemaparan datanya.

1. Shuujoshi (Partikel Akhir)

Dari data yang sudah dikumpulkan peneliti, yang paling sering digunakan Orochimaru pada saat berbicara adalah pemakaian *shuujoshi*. Peneliti menemukan 214 data penggunaan *shuujoshi* yang digunakan Orochimaru. *Shuujoshi* yang sering diucapkan oleh Orochimaru meliputi *shuujoshi wa*, *wane*, *wayo*, *no*, *none*, *noyo* dan *kashira*.

a. わ(Wa)

Shuujoshi wa merupakan *shuujoshi* yang biasa digunakan oleh wanita yang digunakan oleh Orochimaru dalam anime *Naruto* dan digunakan paling banyak. Sebanyak 62 data Orochimaru menggunakan *shuujoshi* ini. Berikut ini paparan datanya.

Tabel 1

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	39	16:14	何？少し例を言おうと思っ てね。あなたが送り込んで くれた、この子すごく重宝 したわ。	
2.		18:20	いいえ。違うわ。	
3.		19:17	カブト。この子のことは後 で説明してあげるわ。	
4.		20:02	サスケ君とどっちが強くな ってるかみてあげるわ。	
5.	40	12:57	木ノ葉にはもう少し感謝し	

			てもらいたい <u>わ</u> 。ねえ、私のかわいい実験さん。	
6.		13:53	バダバダ死んでいった <u>わ</u> 。	
7.		04:36	いい <u>わ</u> 。聞きましょう。	
8.	44	13:05	カブト、その子を放してやりなさい。その子も一緒に連れていく <u>わ</u> 。	
9.	47	07:08	じゃあ 私も行く <u>わ</u> 。カブト、これでビンゴブックを作っておきなさい。	
10.		16:34	ナルト君、キミはまだ生かしといてあげる <u>わ</u> 。	
11.	50	16:48	それより私はサイほうに用があるから。これで失礼する <u>わ</u> 。	
12.	89	14:21	それは楽しみだ <u>わ</u> 。	
13.	90	13:35	サスケ君が必要なスキルを手に入れさえすれば、転生の時機も近い <u>わ</u> 。	
14.	91	00:18	行きなさい、カブト。あなたの帰り楽しみに待っている <u>わ</u> 。	
15.		14:24	久しぶりね、紅蓮。よく来た <u>わ</u> 。	
16.	92	14:48	初めて会ったときは驚いた <u>わ</u> 。	
17.		15:13	あなたの力、興味がある <u>わ</u> 。	
18.	104	20:46	おそらく紅蓮は私の命令を忘れて裏切る <u>わ</u> 。	
19.	112	12:26	まあ、いい <u>わ</u> 。	
20.		01:26	あの子が私に向けた幼写輪眼はとて素晴らしい目をしていた <u>わ</u> 。	
21.	113	03:10	そのひと言につきる <u>わ</u> 。	
22.		08:32	転生を前にして私の気分はとて素晴らしい <u>わ</u> 。	
23.		13:30	始める <u>わ</u> 。	
24.	114	17:38	バカな。ここは私の作り出した異空間よ。ありえない	

			ありえない！ありえない <u>わ</u> 。	
25.	138	10:55	あげる <u>わ</u> 。 私が力を貸してあげる <u>わ</u> 。	
26.		13:20	あなたのお陰で、サスケ君の抑えのチャクラ消えてくれた <u>わ</u> 。	
27.	341	08:31	そんなこといちいち説明しなくてもいい <u>わ</u> 。 アンコの中でずっと見てたから。	
28.		08:50	ただそれについて1つ言っておく <u>わ</u> 、水月。私この戦争には興味ないから。	
29.		12:16	いい <u>わ</u> 。協力してあげる。ついてきなさい。	
30.	355	09:09	子供じゃ体力もなく耐えきれない <u>わ</u> 。	
31.		09:26	細胞の移植には他の方法もいろいろある <u>わ</u> 。	
32.	365	15:30	あった <u>わ</u> 。	
33.		17:00	フッ そうね。でも1つ違ってる <u>わ</u> 。	
34.		18:40	戻った <u>わ</u> 。	
35.	366	07:38	二代目。あなたの作ったうちは警務部に端を発してるとも言える <u>わ</u> 。	
36.	370	19:23	ちょうどいい <u>わ</u> 。あなたも協力なさい。	
37.	374	11:29	カツユ。私は五影の処置をしにここへ来た。敵じゃない <u>わ</u> 。	
38.		11:41	怪しい行動をしたと思うなら、酸で今度こそ本当に殺すといい <u>わ</u> 。	
39.		15:35	昔は自らが風となり風車を回りしたいと思ってた <u>わ</u> 。	
40.		17:11	自来也を連れて、彼らから脱出することはできない <u>わ</u> 。	
41.		17:43	いい <u>わ</u> 。私が自来也	

			を。。。	
42.		20:46	じゃあ、私たちはもう行くわ。	
43.	376-377	02:27	フフ.... これで、もともとたいしている暁にひと泡吹かせてやるわ。	
44.		02:57	ハハハ..... いいわ 最高よ！	
45.		29:57	さあ！九尾を奪いなさい。サスケ君と九尾を得ることができたら、この世界に恐れるものなんてないわ。	
46.		31:25	いずれあの形になって出てくるわ。	
47.	382	14:48	サスケ君の須佐能乎が、同じように重吾のチャクラに適応しても何ら不思議じゃないわ。	
48.	383	13:10	この戦争に興味はないわ。	
49.	442	17:24	私はやるべきことはやった。だから、契約は果たしてもらおうわ。	
50.		18:02	ええ。お願いするわ。	
51.	446	06:42	あなたがサスケ君ね？待ってたわ。	
52.	451	14:16	死んだ者を嘆き悲しんでも、何の意味もないわ。	
53.	455	19:40	噂は聞いたわ。	
54.	456	17:11	待って。イタチ君とは私が組むわ。	
55.	457	09:35	あなたたちも死んだ後、同じように蘇らせてあげるわ。	
56.	485	08:29	死の商人なんて呼ばれていたわ。	
57.		08:58	そうね、どこにいるかわからないけど。おびき寄せることはできるわ。	
58.		09:20	クク。。風を感じるわ。	
59.		10:51	準備が整ったわ。行きましょうか。	

60.		15:22	コロシムと呼ばれてる <u>わ</u> 。	
61.		19:41	どこにいるかはわからない <u>わ</u> 。	
62.	486	05:54	間違いない <u>わ</u> 。	

b. わね(Wane)

Sebanyak 35 data Orochimaru menggunakan shuujioshi ini. Berikut ini paparan datanya.

Tabel 2

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	39	16:07	その装束懐かしい <u>わね</u> 、サソリ。	
2.	40	11:11	人柱力らしくなっちゃってる <u>わね</u> 、ナルト君。	
3.		15:15	そんなことより、今は私のサスケ君がどれくらい強くなってるか、ためしに目の前のナルト君とやらせてみたい <u>わね</u> 。	
4.	41	15:51	この感じ。今までと違う <u>わね</u> 。	
5.	42	14:32	あれはやばい <u>わね</u> 。	
6.		14:48	さすがにあれだけ高密度のチャクラをくらったら、死ぬ <u>わね</u> 。	
7.	45	06:22	わかっている。つけられてる <u>わね</u> 。	
8.		16:57	追跡は止まった <u>わね</u> 。	
9.	89	13:47	悪くない <u>わね</u> 。	
10.	90	13:18	カブトは紅蓮が嫌いだった <u>わね</u> 。	
11.	92	11:48	しびれる <u>わね</u> 。千人を前に顔色1つ変わらないその表情。	
12.		13:21	全員にとどめはさしてない	

			<u>わね。</u>	
13.		13:53	返り血を1滴も、この子を見てると、天才と呼ばれていた自分が惨めに思えてくる <u>わね。</u>	
14.	113	13:29	やっぱりそう来た <u>わね。</u>	
15.		14:52	言う <u>わね</u> 、うちのはのヒヨッコが！	
16.	114	03:34	縄樹、気負ってる <u>わね。</u>	
17.		05:16	そうね。死者の復活は難しい <u>わね。</u>	
18.		05:36	あなたにもいずれ、その力分けてあげる <u>わね。</u>	
19.		11:45	フフッ... 来た <u>わね。</u>	
20.	341	11:46	今のあなた、悪くない <u>わね。</u>	
21.	351	17:44	それはまずい <u>わね。</u> いずれここの秘密もばれてしまうかもしれない。	
22.	354	10:14	まずい <u>わね。</u> やっぱりダメなものはダメ。そうよ。あなたの血じゃないと。	
23.	355	09:12	ここはもう閉鎖するしかない <u>わね。</u>	
24.	365	18:54	知ってる <u>わね</u> ？	
25.	383	13:25	容認はできそうにない <u>わね。</u>	
26.	442	17:45	次の時機には もう藁が立ってしまう <u>わね。</u>	
27.	466	06:57	フフッ... 頼もしいことを言う <u>わね。</u>	
28.	466	11:17	すごい <u>わね</u> 、サスケ君。もう体に力が馴染んでくる。	
29.		20:33	なかなかおもしろい見せ物だった <u>わね。</u>	
30.	485	08:44	探すとなると難しいかもしれない <u>わね。</u>	
31.		09:13	らしくない <u>わね。</u>	
32.		13:48	私もあなたもそしてカブト	

			も常識で対処できないことが起きたときのための保険かもしれないわね。	
33.		14:34	さて、見えてきたわね。	
34.	486	02:48	面倒くさいわね。	
35.		04:22	御屋城には会えそうにないわね。	

c. わよ(wayo)

Sebanyak 27 data Orochimaru menggunakan shuujoshi ini. Berikut ini paparan datanya.

Tabel 3

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	43	19:22	その前に、私への言葉は慎重選びなさい。でないと、死ぬわよ！	
2.	46	17:47	行くわよ。	
3.	47	05:58	あまりサスケ君をおちゃくらないほうがいいわよ。	
4.	53	06:00	行くわよ。	
5.	92	11:32	サスケ君。これまでの修業の成果、見せてもらうわよ。	
6.		13:33	非情にならなければ、イタチには勝てないわよ。	
7.		16:05	そうしたら、もう一度考えてみてもいいわよ。私の器に1番ふさわしいのは誰か.....	
8.	100	06:07	あなた、後悔するわよ。	
9.	114	10:33	さあ。その体いただくわよ！。	
10.		12:56	さあ。いただくわよ！	
11.	354	11:30	いやじゃない。あなたの血をいただくわよ。	
12.		12:12	手間をかけさせるんじゃないわよ。	

13.	355	09:24	心配しなくていい <u>わよ</u> 。	
14.	365	17:37	なら、始める <u>わよ</u> 。少し離れてなさい。	
15.		20:18	水月、重吾。残り2体を任せる <u>わよ</u> 。	
16.		20:40	さあ。来る <u>わよ</u> ！	
17.	374	11:07	まずは綱手ね。行く <u>わよ</u> 。	
18.		14:21	さもないと、私の蛇で縛り上げ口から入り込んで体を乗っ取る <u>わよ</u> 。	
19.		16:06	そんなこともある <u>わよ</u> 。	
20.	414	06:50	香燐を援護する <u>わよ</u> 。	
21.		12:50	香燐！だからってそんなにとばすと、するバテる <u>わよ</u> ！	
22.	451	14:31	ない <u>わよ</u> 。あるとすれば、命が永遠である場合ね。	
23.	456	19:41	この借りは返す <u>わよ</u> ！必ず。	
24.	485	09:05	でも、それには面倒なことがあるかもしれない <u>わよ</u> 。	
25.		10:47	あなたたち。うるさい <u>わよ</u> 。	
26.		13:07	自由でははない <u>わよ</u> 。	
27.	486	11:51	さあ。ただ... 地獄谷に行けば、何かわかるかもしれない <u>わよ</u> 。	

d. の(no)

Sebanyak 14 data Orochimaru menggunakan shuujoshi ini. Berikut ini paparan datanya.

Tabel 4

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	40	14:00	そろそろ見切りをつけようと思っていた頃に、別の実験で足がいて木ノ葉を出ることになった <u>の</u> 。	

2.	90	13:21	でもああ見えても私の器の第一候補だったときもある <u>の</u> 。	
3.	114	04:29	人はなんて、壊れやすいものな <u>の</u> 。	
4.		05:22	でもね。再生のヒントなら掴んで <u>の</u> 。	
5.	365	18:50	もちろんそうなれば必要ものがある <u>の</u> 。	
6.	376-377	29:25	忍法蛇口縛り.... 大蛇の腹の中を口寄せした <u>の</u> 。	
7.	382	15:29	私の生涯をかけ、集めた情報から導き出せる私の勘がこう言う <u>の</u> 。	
8.	418	06:34	それがイザナミという術な <u>の</u> 。	
9.	456	18:17	私にもまだわからない。だから、新し肉体がある <u>の</u> 。	
10.		19:11	言ってくれるじゃない <u>の</u> ！	
11.	457	07:25	私が禁術を使って、蘇らせた <u>の</u> 。	
12.	485	11:16	正確に言えば海に浮かぶ孤島よ。その島に金持ちの娯楽所がある <u>の</u> 。	
13.		19:14	彼ね、血継限界コレクターな <u>の</u> 。	
14.		19:48	それがこのしきたりな <u>の</u> 。	

e. のね(*none*)

Shuujoshi ini digunakan oleh Orochimaru dalam anime Naruto. Sebanyak

10 data Orochimaru menggunakan shuujoshi ini. Berikut ini paparan datanya.

Tabel 5

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	40	12:42	それで、キミが見張り役に選ばれた <u>のね</u> 。私の実験も少しは役に立ったじゃない。	
2.	43	18:55	ダンゾウ、あのもうろくじ	

			じい。まだ生きてた <u>のね</u> 。	
3.	91	20:53	フ...動じない <u>のね</u> 。	
4.	92	14:36	あなたまだ諦めていない <u>のね</u> 。	
5.	354	12:48	フッ... この子を取り戻したきた <u>のね</u> 。だけど残念。	
6.	365	17:23	うちはこの南賀ノ神社は跡形もない <u>のね</u> 。	
7.	374	12:48	よく思い出してみても、ここまで弱った綱手を初めて見るから、そうなの <u>ね</u> 。	
8.	418	03:17	あなただった <u>のね</u> 、カブト。	
9.	440	12:25	一族のために望んで、その命を捧げたという <u>のね</u> 。	
10.	455	19:43	やっぱりあなたもこちら側の忍だった <u>のね</u> 。	

f. のよ(*noyo*)

Shuujoshi ini digunakan oleh Orochimaru dalam anime Naruto. Sebanyak 36 data Orochimaru menggunakan shuujoshi ini. Berikut ini paparan datanya.

Tabel 6

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	44	12:07	その子は、今日から私たちの部下になる <u>のよ</u> 。	
2.	90	13:59	今度の仕事は他の誰でもない。紅蓮でなければならない <u>のよ</u> 。	
3.	92	15:53	この仕事はね、どうしてもあなたにやってもらいたい <u>のよ</u> 。いいえ、あなたにしかできない仕事よ。	
4.	94	00:26	フフ...しかたない <u>のよ</u> 。これは紅蓮にしかできないことだから。	
5.		00:34	紅蓮と幽鬼丸の力が1つになって、初めてこの作戦は	

			実を結ぶ <u>のよ</u> 。	
6.	100	05:28	転生の儀式は始める <u>のよ</u> 。	
7.	105	18:43	初めて己ですら知りぬ本当の力を出すことができる <u>のよ</u> 。	
8.	113	01:40	いいえ、育てればイタチ以上の逸材になる。そう、私はあれで確信した <u>のよ</u> 。	
9.		05:20	いよいよ。あなたの体は私のものになる <u>のよ</u> 、サスケ君。	
10.	114	04:58	フフ...それはね、とっても珍しい再生と幸運のお守りな <u>のよ</u> 。	
11.		05:31	それと同時に再生力も高まる <u>のよ</u> 。	
12.		12:42	この大白蛇の体液は空気に触れると気化する痺れ薬な <u>のよ</u> 。	
13.		13:22	ここで転生の儀式を行う <u>のよ</u> 。	
14.	138	13:16	これよ！これを待っていた <u>のよ</u> ！	
15.	354	10:42	あなたがいけないから、こうなった <u>のよ</u> 。	
16.		16:17	あなたはねえ。まだまだ格下な <u>のよ</u> ！分をわきまえなさい。	
17.	365	16:17	感傷に浸り過去をなぞることで、己の決意を再確認する時間が必要な <u>のよ</u> 。	
18.		18:00	巻物に書かれてることをするには、まず死神の面が必要な <u>のよ</u> 。	
19.		19:02	フフ...それもいいけど、あんたなんかよりもっといいのがある <u>のよ</u> 。	
20.	366	02:14	今はなき一族の跡地や、散らばってしまった文献をずっと研究してた <u>のよ</u> 。術を	

			失ってからね。	
21.		08:10	あれがマダラ分子を助長させた <u>のよ</u> 。	
22.	374	20:21	もちろん、だからこうして協力してる <u>のよ</u> 、あなたに。	
23.	376-377	03:20	人柱力を超えた究極の存在となる <u>のよ</u> ！	
24.		03:28	何をする？私はあなたの創造主な <u>のよ</u> ！	
25.		29:35	さっきまで、一緒にいたのにフラれちゃった <u>のよ</u> 。	
26.		35:36	木ノ葉などクシャクシャになってしまえばいい <u>のよ</u> 。	
27.	382	15:21	私のどの実験体とも違って、まだまだこんな程度ではない。私にはわかる <u>のよ</u> 。	
28.	418	06:38	つまり、己自身を見つめ直し受け入れなければ、術が解けない仕組みな <u>のよ</u> 。	
29.	440	12:15	でもあなたの心に、この世に対する執着があったからでもある <u>のよ</u> 。	
30.	441	06:05	ああ.... これ新しい体を手に入れた <u>のよ</u> 。	
31.	446	11:36	フフ... サスケ君の望みを果たしてあげた <u>のよ</u> 。	
32.	457	06:45	ええ。私いいと思ったものは取り入れる主義だから、少しいただいた <u>のよ</u> 。	
33.		08:48	これも1つの永遠の命。死なない <u>のよ</u> 、死んでるけど。	
34.		10:08	永遠に私の手駒になる <u>のよ</u> 。	
35.	485	15:58	あの説明どおり、ここにいる金持ち連中はお抱えの忍を戦わせて、勝ったら相手の忍を手に入れることがで	

			きる <u>のよ</u> 。	
36.		17:12	さあ。でも御屋城エンはこ こくらいにしか姿を見せな い <u>のよ</u> 。	

g. かしら(*kashira*)

Dalam anime Naruto, Orochimaru menggunakan akhiran ini sebanyak 30 data. Berikut paparan datanya.

Tabel 7

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	39	15:10	おもしろそうな話ね。私も 会話混ぜてもらえる <u>かし ら</u> ？	
2.	42	15:32	そんな高密度なチャクラで 動きづらくして、どう私と 戦うと言うの <u>かしら</u> ね。	
3.	43	19:03	で... 話って何 <u>かしら</u> ？	
4.	44	13:21	サイとやら、じゃ行こう <u>か しら</u> 。	
5.	45	06:42	どちらにしても、1つ死 体が必要じゃない <u>かしら</u> 、 ねえカブト。	
6.		17:00	うまくいった <u>かしら</u> ？	
7.	46	09:57	カブト。あなた A 型だった <u>かしら</u> ？	
8.	50	11:26	さて、サイ。あなたはどち らの側につくの <u>かしら</u> ？	
9.		12:33	キミの執念はすごいけど、 そううまくいく <u>かしら</u> ね。	
10.	89	13:50	暁の連中もさすがに一度に 2人ものメンバーを失うと は、想定してなかったんじ ゃない <u>かしら</u> 。	
11.		14:10	例のあの子、どうなってる <u>かしら</u> ？	

12.		14:37	ねえカブト。あの女をここに連れてきてくれない <u>かしら</u> ？	
13.	92	15:43	私のために働いてもらえる <u>かしら</u> ？	
14.	100	05:59	本当にそう <u>かしら</u> 。	
15.	114	10:23	貴重な写輪眼を持つ者が自ら私の前に、なんてラッキーなの <u>かしら</u> 、私は。	
16.	374	12:44	そういうシステムだった <u>かしら</u> 。	
17.		20:39	今頃は新たなる三竦みがお披露目されてるんじゃない <u>かしら</u> ね。	
18.	376-377	05:44	あら、久しぶりの里に挨拶していかなくていいの <u>かしら</u> ？	
19.	382	14:56	つまり、仙術須佐能乎ってどこ <u>かしら</u> 。	
20.	414	12:39	彼の風はここまで <u>かしら</u> ね。	
21.	418	03:44	ちなみにイヤな感じがしたのって、私のチャクラがまだ残っていたから <u>かしら</u> ？	
22.	457	05:53	あら、できる <u>かしら</u> ？そちらの坊やは岩隠れの爆破部隊にいた子ね。	
23.		07:38	さて、あなたのその人傀儡と私の禁術どちらが上 <u>かしら</u> ね？	
24.		10:37	おやまあ。術が完全でなかったの <u>かしら</u> ？	
25.	485	08:00	それが人にもものを頼む態度 <u>かしら</u> ？	
26.		08:53	クク... 信頼されているの <u>かしら</u> ？	
27.		18:22	子供に見せるには刺激が強すぎた <u>かしら</u> ？	
28.	486	06:03	いつ以来 <u>かしら</u> ね？	
29.	488	17:43	計画どおりになったの <u>かしら</u>	

			ら？	
30.		18:42	彼を使って、娘を止めたってとこかしら。	

2. Kandoushi (Interjeksi)

Dari 228 data yang sudah dikumpulkan peneliti, sebanyak 14 data penggunaan kandoushi yang digunakan Orochimaru. Kandoushi yang digunakan oleh Orochimaru adalah maa dan ara.

a. まあ(Maa)

Dalam anime Naruto, Orochimaru menggunakan interjeksi ini sebanyak 9 data. Berikut paparan datanya.

Tabel 8

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	44	12:03	まあ... 落ち着きなさい、カブト。	
2.	112	12:26	まあ... いいわ。	
3.	113	02:18	まあ... どのみち木ノ葉を脅迫しようとは思っていたけどね。	
4.		03:36	まあね。あそこまで成長したなら、上出来。	
5.	374	12:47	まあ... よく思い出してみても、ここまで弱った綱手を初めて見るから、そうなのね。	
6.	456	15:53	おやまあ.... イタチ君と一緒にだったというのに。	
7.	457	10:37	おやまあ.... 術が完全でなかったのかしら？	
8.	485	13:19	まあ.... 第四次忍界大戦の戦犯の1人カブトだって今や孤児院の院長なんだけど	

			ね。	
9.		14:18	でも、 <u>まあ</u> 。あなたのお友達はそんな駆け引き一切頭がないでしょうけどね。	

b. あら(*ara*)

Sebanyak 5 data Orochimaru menggunakan kandoushi ini. Berikut ini paparan datanya.

Tabel 9

No	Episode	Menit	Kalimat	Keterangan
1.	90	13:05	<u>あら</u>帰っていたの？	
2.	455	19:30	<u>あら</u> 。イタチ君じゃないの。お久しぶり。	
3.	457	05:53	<u>あら</u> 、できるかしら？そちらの坊やは岩隠れの爆破部隊にいた子ね。	
4.	376-377	05:42	<u>あら</u> 、久しぶりの里に挨拶していかなくていいのかしら？	
5.	485	07:51	<u>あら</u> 。挨拶もなし。相変らず唐突ね。	

C. Analisis Data

Berdasarkan data yang sudah diperoleh oleh peneliti, maka berikut adalah analisis data dari pemakaian *joseigo* yang meliputi *shuujoishi* dan *kandoushi* yang dipakai oleh Orochimaru dalam anime *Naruto* karya Masashi Kishimoto. Peneliti

1.) (Episode 39, 16:14)

Konteks :

Terjadi pertemuan rahasia di jembatan Tenchi antara Sasori(Yamato yang sedang menyamar) dengan Kabuto (mata-mata Sasori dan anak buah Orochimaru). Saat itu Orochimaru muncul secara tiba-tiba dan Sasori beranggapan bahwa Orochimaru mengikuti Kabuto secara diam-diam.



1-1



1-2



1-3

サソリ : カブトをつけてきたのか?

大蛇丸 : 何? 少し礼を言おうと思っただけ。あなたが送り込んでくれたこの子、すごく重宝したわ。

Sasori : Kabuto wo tsukete kita noka?

Orochimaru : Nani? Sukoshi rei wo iou to omottene. Anata ga okurikonde kureta kono ko, sugoku chouchoushitawa.

Sasori : Apa kau mengikuti Kabuto?

Orochimaru : Apa? Aku hanya ingin mengucapkan terima kasih.

Anak yang kau kirimkan padaku ini merupakan
suatu berkah.

Shuujoshi *wa* biasa digunakan oleh wanita untuk memberi tekanan lembut dan memberi kesan feminim, ramah, dan mengungkapkan perasaan halus. Digunakan juga untuk memberi kesan kagum, terkejut mengenai suatu hal yang menarik perhatian, kemauan, dan ungkapan suatu pendapat atau pemikiran sendiri. Kalimat di atas, menunjukkan konteks kalimat informal, ditinjau dari pemakaian kalimat tanya *no ka* dan *shita* yang merupakan bentuk informal dari *shimashita*. Dari kalimat *chouhoushitawa* yang diucapkan oleh Orochimaru, menunjukkan ungkapan kagum akan kehebatan seorang anak yang bernama Kabuto dengan memberi kesan perasaan halus. Hal ini merupakan suatu penyimpangan karena akhiran ini khusus untuk wanita. Akan lebih baik bila Orochimaru tidak menambah kata *wa* atau mengganti akhirnya dengan *yo* menjadi “*chouhoushitadayo.*”

2.) (Episode 92, 15:13)

Konteks:

Tepat setelah Orochimaru melatih Sasuke, Guren datang menghadap Orochimaru untuk menerima misi rahasia dari Orochimaru. Saat berbincang, Guren teringat akan masa lalunya ketika Guren masih dikucilkan oleh penduduk desa karena memiliki kekuatan yang aneh, yaitu

jurus kristal. Orochimaru datang dan menghancurkan desanya lalu mengangkatnya sebagai anak buah.



2-1



2-2

大蛇丸 : あなたの力、興味があるわ。一緒にいらっしやい。

Orochimaru : *Anata no chikara, kyoumi ga aru wa. Issho ni irasshai.*

Orochimaru : Aku tertarik dengan kekuatanmu. Ikutlah denganku.

Dari kalimat *kyoumi ga aru wa* yang diucapkan oleh Orochimaru, menunjukkan ungkapan perasaan ketertarikan akan kekuatan yang dimiliki seorang anak yang bernama Guren dengan memberi kesan perasaan halus. Hal ini merupakan suatu penyimpangan karena akan lebih tepat bila laki-laki, terutama Orochimaru menggunakan kata *zo* menjadi “*anata no chikara, kyoumi ga aru zo.*” Begitu pula dengan data selanjutnya.

3.) (Episode 383, 13:10)

Konteks:

Ketika itu terjadinya perang dunia Shinobi ke empat yang di dalangi oleh Kabuto, Obito, dan Uchiha Madara. Kabuto yang terkena izanami dari Itachi pun tidak sadarkan diri. Sasuke pun berniat untuk membangkitkan

kebalikan Orochimaru untuk meminta bantuan. Setelah Sasuke membangkitkan kembali Orochimaru untuk mencari kebenaran dan mengetahui rahasia yang disimpan oleh para Hokage terdahulu, yaitu Senju Hashirama, Senju Tobirama, Sarutobi Hiruzen, dan Namikaze Minato. Team Sasuke pun turun ke jalur perang. Hiruzen yang melihat Orochimaru tidak melakukan apa-apa pun kemudian bertanya kepada mantan muridnya itu.



3-1



3-2

ヒルゼン : 大蛇丸。お前はただ傍観するだけか？

大蛇丸 : この戦争に興味はないわ。

Hiruzen : Orochimaru. Omae wa tada boukan suru dake ka?

Orochimaru : Kono sensou ni kyoumi wa nai wa.

Hiruzen : Orochimaru, apa kau hanya akan melihat saja?

Orochimaru : Aku tidak tertarik dengan perang ini.

Dari kalimat *kyoumi wa nai wa* yang diucapkan oleh Orochimaru, menunjukkan ungkapan perasaan dan pendapatnya yang tidak ingin terlibat kedalam perang dan memperhalus kalimat dengan menambahkan *wa* di

akhir kalimat. Hal ini merupakan suatu penyimpangan karena akan lebih tepat bila laki-laki, terutama Orochimaru tidak menggunakan akhiran *wa* pada akhir kalimat dan kembali kepada ragam bahasa yang semestinya, yaitu *danseigo*.

4.) (Episode 90, 13:18)

Konteks:

Orochimaru memberi misi kepada Guren melalui tangan kanannya, Kabuto. Saat itu Orochimaru sedang membaca di ruangnya. Kabuto pun masuk dan membawa obat untuk Orochimaru pun dan terjadilah perbincangan mengenai misi yang dijalankan Guren. Kabuto pun yang tidak begitu suka dengan sikap Guren pun bertanya kepada tuannya, mengapa Orochimaru memilih Guren.



4-1



4-2

大蛇丸 : 紅蓮はどう？

カブト : 相変わらずです。しかし わかりませんね。なぜ
大蛇丸様があのおんなにこだわるのか。

大蛇丸 : カブトは紅蓮が嫌いだったわね。

Orochimaru : Guren wa dou?

Kabuto : *Aikawarazu desu. Shikashi wakarimasen ne. Naze
Orochimaru-sama ga ano onna ni kodawareruno ka?*

Orochimaru : *Kabuto wa Guren ga kirai datta wane.*

Orochimaru : Bagaimana dengan Guren?

Kabuto : Sama seperti biasanya. Tetapi saya tidak mengerti
Mengapa anda begitu memerhatikannya?

Dari penggalan percakapan di atas, terlihat percakapan antara tuan dan bawahan. Terlihat jelas ketika Kabuto menggunakan ragam bahasa yang formal, meskipun ada sedikit rasa kekesalan di dalam pikirannya. Orochimaru pun menggunakan akhiran *wane* sebagai ungkapan memastikan benar atau tidaknya karena melihat dari sikap Kabuto yang terlihat membenci Guren. Hal ini merupakan suatu penyimpangan karena akan lebih tepat bila laki-laki, terutama Orochimaru menggunakan kata *na* menjadi “*Kabuto wa Guren ga kirai datta na.*”

5.) (Episode 114, 05:16)

Konteks:

Saat itu Orochimaru mulai menaruh perhatiannya kepada berbagai macam penelitian menuju keabadian. Orochimaru mempunyai murid yang bernama Anko yang saat itu masih anak-anak. Terjadilah percakapan antara Orochimaru dan Anko tentang penelitian tentang menghidupkan kembali orang mati (keabadian).



5-1



5-2



5-3

アンコ : でも、いくら大蛇丸先生が研究熱心だとしても、
死んじゃった人は生き返らないですよ。

大蛇丸 : そうね。死者の復活は難しいわね。

Anko : *Demo, ikura Orochimaru sensei ga kenyuu nesshin da toshitemo, shinjyatta hito wa ikikaeranai desuyone.*

Orochimaru : *Sou ne. Shisha no fukkatsu wa muzukashii wane.*

Anko : namun, berapa pun kerasnya usaha guru Orochimaru melakukan penelitian ini, kau tidak bisa menghidupkan kembali orang mati, bukan?

Orochimaru : Iya ya. Menghidupkan orang mati memang sulit ya.

Dari penggalan percakapan di atas, terjadi percakapan antara murid dan guru. Terlihat jelas ketika Anko menggunakan ragam bahasa yang formal kepada guru yang dihormatinya. Orochimaru pun menggunakan

akhirian *wane* sebagai ungkapan setuju akan pertanyaan muridnya. Hal ini merupakan suatu penyimpangan karena akan lebih tepat bila laki-laki, terutama Orochimaru menggunakan kata *ne* saja menjadi ragam netral menjadi “*Sou ne. Shisha no fukkatsu wa muzukashii ne.*”

6.) (Episode 365, 18:52)

Konteks:

Saat itu Sasuke menghidupkan kembali Orochimaru dengan menggunakan tanda kutukan yang berada di leher Anko. Setelah itu team Sasuke beserta dengan Orochimaru kembali ke Konoha dan mengunjungi tempat rahasia Uchiha dan menghidupkan kembali keempat hokage terdahulu. Untuk menghidupkan kembali, diperlukan ritual khusus. Pertama adalah mengembalikan tangan Orochimaru, lalu memerlukan hal yg khusus, yaitu tubuh orang yg hidup.



6-1



6-2

大蛇丸 :そして、私の両手の力が戻れば、穢土転生ができる。そう、あの4人を。もちろん
そうすれば必要ものがあるの。

知ってるわね？

水月 : あー！僕らを穢土転生のいけにえにする

気っすね！

Orochimaru : Soshite, watashi no ryoute no chikara ga modoreba, Edo Tensei ga dekiru. Sou, ano yon nin wo. Mochiron sou sureba hitsuyou mono ga aru no. Shitteru wane?

Suigetsu : A!! Bokura wo Edo Tensei no ikenie ni suru ki ssune!

Orochimaru : Lalu, setelah aku mendapatkan kekuatan yang ada di tanganku, aku bisa menggunakan Edo Tensei. Ya, aku bisa menghidupkan empat orang itu. Tentu saja dalam hal ini, diperlukan hal khusus, kau tau kan?

Suigetsu : Ah!! Jadi kau berusaha mengorbankan kami demi Edo Tensei kan!?

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan kalimat tanya dengan akhiran *wane* sebagai ungkapan halus untuk meminta jawaban yang sudah pasti kepada lawan bicara. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan dan akan lebih lantang bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *kai* yang akan menjadi “*shitteru kai?*”

7.) (Episode 43, 19:22)

Konteks:

Setelah bertarung melawan Naruto yang sudah berubah menjadi kyuubi kecil dengan ekor 4, Orochimaru memutuskan untuk mengakhiri pertarungan karena tubuh yang dipakainya sudah mencapai batas. Saat itu, Sai, anggota baru team Kakashi sekaligus anak buah Danzou dari Anbu Root muncul menghadap Orochimaru untuk memberi pesan dari Danzou



7-1



7-2



7-3

サイ : ダンゾウ様から大蛇丸様に伝言があります。

実は.....

大蛇丸 : その前に、私への言葉は 慎重に選びなさい。

でないと、死ぬわよ!

Sai : *Danzou-sama kara Orochimaru-sama ni dengon ga
Arimasu. Jitsu wa.....*

Orochimaru : *Sono mae ni, watashi e no kotoba wa shinchou ni
erabinasai. De nai to, shinu wayo!*

Sai : Aku punya pesan dari Danzou-sama untukmu,
Orochimaru-sama. Sebenarnya.....

Orochimaru : Sebelum itu, berhati-hatilah memilih kata saat berbicara
denganku. Atau aku akan membunuhmu!

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan kalimat penegasan kepada Sai dengan akhiran *wayo* sebagai ungkapan peringatan agar terlihat lebih kejam kepada lawan bicarannya. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan dan akan lebih lantang bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *zo* yang akan menjadi “*denai to, shinuzo!*”

8.) (Episode 53, 06:00)

Konteks:

Saat itu team Yamato yang terdiri atas Naruto, Sakura, Sai mencari keberadaan Sasuke di tempat persembunyian Orochimaru. Akhirnya mereka pun menemukan Sasuke dan mengajaknya untuk kembali ke Konoha. Sayangnya, Sasuke tidak tertarik dengan ajakan itu. Sasuke pun

hendak ingin membunuh mereka semua lalu tiba-tiba Orochimaru datang dan mencegah Sasuke untuk bertindak lalu mengajaknya untuk pergi.



8-1

大蛇丸 : 行くわよ。

Orochimaru : *Ikuwayo*

Orochimaru : Ayo pergi.



8-2

Pada kalimat di atas, Orochimaru menggunakan kalimat ajakan kepada Sasuke dengan akhiran *wayo* sebagai ungkapan rasa untuk menghentikan Orochimaru dan segera pergi. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan dan akan lebih lantang bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *zo* yang akan menjadi “*Ikuzo.*”

9.) (Episode 92, 13:33)

Konteks:

Saat itu, Orochimaru sedang melatih untuk melihat sejauh mana kemampuan Sasuke. Sasuke pun dengan rasa dendam kepada kakaknya terus mencari kekuatan dari Orochimaru. Orochimaru pun memberi 1000

pasukannya untuk menyerang Sasuke. Namun semua pasukannya tumbang, bukan dengan dibunuh tapi dibiarkan tumbang.



9-1



9-2



9-3

大蛇丸 : 全員にとどめはさしてないわね。まだまだ甘い。

サスケ : 殺したいヤツは他にいる。

大蛇丸 : 非情にならなければ、イタチには勝てないわよ。

Orochimaru : Zen'in ni todome wa sashite nai wane. Mada mada amai.

Sasuke : Koroshitai yatsu wa hoka ni iru.

Orochimaru : Hijou ni nara nakereba, Itachi ni wa kate nai wayo.

Orochimaru : Kau tidak membunuh mereka semua. Masih terlalu baik.

Sasuke : Ada orang lain yang ingin ku bunuh.

Orochimaru : Kalau kau masih memiliki hati, kau tidak akan bisa mengalahkan Itachi.

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan kalimat penegasan kepada Sasuke dengan akhiran *wayo* sebagai ungkapan saran yang mengancam agar terlihat lebih kejam dan meremehkan kepada lawan bicaranya. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan dan akan lebih lantang bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *ze* yang akan menjadi “*Hijou ni nara nakereba, Itachi ni wa kate nai ze!*”

10.) (Episode 276-277, 29:25)

Konteks:

Saat itu Orochimaru kembali membuat penemuan aneh untuk mendapatkan Kyuubi. Orochimaru membuat Mega Naruto, rupa seperti Naruto namun dilengkapi dengan senjata-senjata canggih. Naruto pun tersudut oleh Orochimaru dan Mega Naruto di dalam perut ular, jutsu milik Orochimaru.



10-1



10-2

ナルト : 大蛇丸！

大蛇丸 : フフフ... 忍法蛇口縛り。大蛇の腹の中を口寄せしたの。

Naruto : *Orochimaru!*

Orochimaru : *fufufu. Ninpou Hebikuchi Shibari. Daijya no hara no naka*

wo kuchiyose shita no.

Naruto : Orochimaru!

Orochimaru : fufufu... Ninpou Hebikuchi Shibari. Aku memanggil perut Ular raksasa.

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan akhiran yang lembut *no* di akhir kalimat kepada Naruto sebagai ungkapan memberi informasi kepada Naruto. Partikel *no* ini sama seperti partikel *wa* namun partikel *no* bisa menjadi partikel netral tergantung kondisi kalimat dari penutur. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan. Bila menggunakan padanan *da* atau menghilangkan kata *no* di akhir, maka akan menjadi ragam bahasa laki-laki yang semestinya Orochimaru pakai, menjadi “*kuchiyose shita / kuchiyose shitada.*”

11.) (Episode 418, 06:35)

Konteks:

Pada saat itu, Sasuke melawan Madara, namun siapa sangka Sasuke ditikam oleh Madara dan mati. Karin yang tidak bisa merasakan chakra Sasuke pun histeris dan segera berlari mendatangi Sasuke. Juugo, Suigetsu, dan Orochimaru pun mengikutinya. Karin merasakan ada orang lain yang di dekat Sasuke. Ia merasakan chakra yang tidak baik di dekat Sasuke. Setelah sampai, ternyata yang berada di dekat Sasuke adalah Kabuto, yang sudah terlepas dari jutsu milik Itachi dan mencoba menolong Sasuke. Sama seperti Orochimaru, Kabuto pun bertobat setelah terkena jutsu Itachi.



11-1



11-2

水月 : なんかさ、中身まで変わった？

大蛇丸 : それはイザナミという術なの。

Suigetsu : *Nanka sa, nakami made kawatta?*

Orochimaru : *Sore wa Izanami to iu jutsu na no.*

Suigetsu : Sepertinya dari dalam dirinya juga berubah?

Orochimaru : Itulah jurus yang dikenal sebagai Izanami.

Sama seperti data 10, pada penggalan percakapan di atas Orochimaru menggunakan akhiran yang lembut *no* di akhir kalimat kepada Suigetsu sebagai ungkapan memberi informasi. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan. Bila menggunakan padanan *da* atau menghilangkan kata *no* di akhir, maka akan menjadi ragam bahasa laki-laki yang semestinya Orochimaru pakai, menjadi “*~to iu jutsu da.*”

12.) (Episode 456, 19:11)

Konteks:

Orochimaru bergabung dengan Akatsuki. Ia pun satu tim dengan Itachi. Orochimaru menginginkan tubuh dan mata milik Itachi sebagai wadah keabadian selanjutnya. Namun siapa sangka, Orochimaru terperangkap ke dalam Genjutsu milik Itachi, dan mengharuskannya untuk memenggal tangannya sendiri supaya terlepas dari Genjutsu tersebut.



12-1



12-2



12-3

イタチ : 大蛇丸、お前のいかなる術もこの眼の前では
何の効力も持たない。

大蛇丸 : 言ってくれるじゃないの！

Itachi : *Orochimaru, omae no ikanaru jutsu mo kono me no mae*

de wa nan no kouryoku mo motanai.

Orochimaru : *Itte kureru jyanai no!*

Itachi : Orochimaru. Jutsu apapun yang kau gunakan, tidak akan berguna dihadapan matak.

Orochimaru : Tidak usah kau sombong.

Berbeda dengan data 10 dan 11, pada penggalan percakapan di atas Orochimaru menggunakan akhiran yang lembut *no* di akhir kalimat kepada Itachi sebagai ungkapan perintah secara halus. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan. Bila menggunakan padanan *ze* maka akan menjadi ragam bahasa laki-laki yang semestinya Orochimaru pakai, menjadi “*Itte kureru jyanai ze!*”

13.) (Episode 91, 20:53)

Konteks:

Ketika itu Orochimaru sedang berada di ruangnya dan memanggil Sasuke. Orochimaru berniat untuk melihat sejauh mana kemampuan Sasuke.



13-1



13-2



13-3



13-4

サスケ : 呼んだか。

大蛇丸 : あなたの力、どの程度まできたのか試しておこう
 と思ってね。

サスケ : そういうことか。

大蛇丸 : フフ... 動じないのね。

Sasuke : Yonda ka?

*Orochimaru : Anata no chikara, dono teido made kita no ka tame shite
 okou to omotte ne.*

Sasuke : Sou iu koto ka.

Orochimaru : fufu.... Douji nai no ne.

Sasuke : Kau memanggilku?

Orochimaru : Aku berniat untuk menguji seberapa jauh kemampuanmu.

Sasuke : Oh begitu.

Orochimaru : Sepertinya kau tidak terganggu.

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan akhiran *none*. Fungsi akhiran *none* hampir sama dengan *wane* yaitu untuk

menyatakan konfirmasi kepada lawan bicara, namun *wane* lebih tegas. Orochimaru menggunakan akhiran ini sebagai ungkapan respon mengerti akan sikap Sasuke. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan dan akan lebih lantang bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *yone* yang akan menjadi “*Douji nai yo ne.*”

14.) (Episode 92, 14:36)

Konteks:

Saat setelah Orochimaru memberi latihan kepada Sasuke, Guren kandidat wadah baru untuk Orochimaru datang menghampiri Orochimaru karena dipanggil oleh tuannya. Guren melihat Sasuke dari kejauhan dan terkagum namun tidak merasa terintimidasi.



14-1



14-2



14-3

大蛇丸 : 紅蓮、よく来たわ。そうよ、彼が次の私の器。

あなた まだあきらめていないのね。

*Orochimaru : Guren, yoku kita wa. Sou yo, kare ga tsugi no
watashi no utsuwa. Anata mada akiramete inai none.*

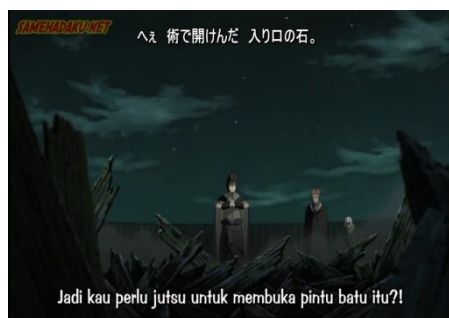
Orochimaru : Guren, aku senang kamu datang. Ya, dia adalah
wadahku selanjutnya. Kau pun masih belum menyerah,
kan?

Pada penggalan kalimat di atas, Orochimaru menggunakan akhiran *none* untuk memastikan kebenaran dari lawan bicaranya, Guren. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan dan akan lebih baik bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *yone* yang akan menjadi .
“*Anata mada akiramete inai yo ne*” sesuai dengan ragam bahasanya.

15.) (Episode 365, 17:23)

Konteks:

Ketika tim Sasuke sudah berada di Konoha, mereka menuju Kuil Nakano yang berada di kompleks Uchiha dan berniat untuk membangkitkan kembali keempat Hokage terdahulu.



15-1



15-2



15-3

- 水月 : へえ。術で開けんだ、入り口の石。
- 大蛇丸 : うちのはの南賀ノ神社は跡形もないのね。
- サスケ : うわべはいい。大事なのはその下だ。行くぞ。
- Suigetsu : Hee. Jutsu de akenda, iriguchi no ishi.*
- Orochimaru : Uchiha no Nakano Jinja wa atokata mo nai no ne.*
- Sasuke : Uwabe wa ii. Daiji na no wa sono shita da. Iku zo.*
- Suigetsu : Hee. Jadi perlu jutsu untuk membuka pintu batu itu!?
- Orochimaru : Tidak ada lagi yang tersisa di Kuil Nakano ini.
- Sasuke : Penampilan tidaklah penting. Yang paling penting dibawah sana. Ayo.

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan akhiran *none* sebagai menyatakan pendapat dari apa yang dilihatnya dan mengkonfirmasi itu kepada lawan bicara. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan dan akan lebih baik bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *yone* yang akan menjadi “*Uchiha no Nakano Jinja wa atokata mo nai yo ne*” sesuai dengan ragam bahasanya.

16.) (Episode 113, 05:20)

Konteks:

Orochimaru yang sedang berada di kamarnya menahan kesakitan karena tangannya yang sebelumnya tersegel oleh Hokage Ketiga misi menghancurkan Konoha ketika ujian Chuunin tiga tahun lalu. Ia pun berbicara sendiri betapa kejadian itu sungguh tidak terduga dan penantian panjangnya akhirnya terbayarkan setelah tiga tahun menunggu dengan adanya Sasuke sebagai wadah barunya.



16-1



16-2

大蛇丸 : 予期せぬアクシデントも、今となっては取るに
 足りない代償。いよいよ、あなたの体は私のもの
 になるのよ、サスケ君。

*Orochimaru : Yoki senu akushidento mo, ima to natte wa toru ni taranai
 Daishou. Iyo iyo, anata no karada wa watashi no mono ni
 naru noyo, Sasuke-kun*

Orochimaru : Kecelakaan yang tak terduga itu kini mendapat
 bayarannya. Akhirnya, tubuhmu akan menjadi milikku
 Sasuke.

Pada penggalan kalimat di atas, Orochimaru menggunakan akhiran *noyo*. fungsi *noyo* sama seperti *wayo*. Namun memang lebih tegas pemakaian *wayo*. Orochimaru menggunakan *noyo* sebagai ketegasan bahwa pasti Sasuke akan menjadi miliknya dengan kesan kejam dan yakin. Hal ini merupakan suatu penyimpangan karena *noyo* lebih sering dan akan lebih baik bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *zo* yang akan menjadi “*anata no karada wa watashi no mono ni naru zo*” sesuai dengan ragam bahasanya.

17.) (Episode 138, 13:16)

Konteks:

Saat Sasuke melawan kakaknya sendiri yaitu Itachi, ia dihadapkan dengan kenyataan bahwa kakaknya lebih kuat dari padanya. Keputusan ini akhirnya membuat Orochimaru yang berada didalam Sasuke untuk keluar untuk membantu Sasuke bertarung dan merupakan hal yang ditunggu-tunggu Orochimaru.



17-1



17-2



17-3

大蛇丸 : これよ.... これを待っていたのよ。あなたの
のお陰で、サスケ君の抑えのチャクラが
消えてくれたわ。

*Orochimaru : Kore yo. Kore wo matte ita noyo. Anata no okage
de, Sasuke-kun no osae no chakura ga kiete kureta wa.*

Orochimaru : Ini dia! Inilah yang kau tunggu! Berkat dirimu chakra
Sasuke untuk menekanku tidak cukup.

Pada penggalan kalimat di atas, Orochimaru menggunakan noyo untuk menyampaikan penegasan kepada diri sendiri secara kejam dan yakin. Hal ini merupakan suatu penyimpangan karena noyo lebih sering dan akan lebih baik bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran zo yang akan menjadi “*Kore yo. Kore wo matte ita zo.*” sesuai dengan ragam bahasanya.

18.) (Episode 446, 11:36)

Konteks:

Pada episode ini menceritakan tentang gulungan Jiraiya. Dalam cerita, Sasuke tetap mencari kekuatan dari Orochimaru dan Naruto tetap berusaha untuk menahannya.



18-1



18-2

ナルト : お前が 大蛇丸だな！サスケに..... サスケに
何をしたんだ！？

大蛇丸 : フフフ..... サスケ君の望みを果たしてあげたのよ。

*Naruto : Omae ga Orochimaru dana! Sasuke ni.... Sasuke ni
nani wo shitanda!?*

Orochimaru : fufufu... Sasuke -kun no nozomi wo hatashite ageta noyo.

Naruto : Kau pasti Orochimaru! Apa yang kau lakukan pada
Sasuke?

Orochimaru : Aku hanya mewujudkan keinginan Sasuke.

Pada penggalan kalimat di atas, Orochimaru menggunakan noyo untuk menyampaikan keputusan kepada lawan bicara secara kejam. Hal ini

merupakan suatu penyimpangan karena noyo lebih sering digunakan oleh wanita. Akan lebih baik bila menggunakan bahasa laki-laki dengan akhiran *sa* yang akan menjadi “*Sasuke –kun no nozomi wo hatashite ageta no sa*” sesuai dengan ragam bahasanya.

19.) (Episode 46, 09:57)

Konteks:

Setelah Orochimaru selesai bertarung melawan Naruto, ia beserta dengan Kabuto dan Sai pun pergi menuju tempat persembunyian. Namun Orochimaru sadar bahwa mereka telah diikuti oleh *bunshin* kayu milik Yamato dan mencoba untuk menghentikan pergerakan Yamato dengan menggantung koleksi mayat remaja yang dibuat mirip sai di pohon untuk mengelabui Yamato. Saat menuju ke tempat persembunyian, Kabuto meminta izin untuk istirahat sejenak sambil mencuci alat bedah miliknya di sungai. Lalu Kabuto meminta ‘mayat’ baru karena koleksinya telah digunakan untuk pengalihan sebelumnya



19-1



19-2



19-3



19-4

カブト : それより、大蛇丸様。帰ったら無傷の男の死体を早急に1ついただけますか。

大蛇丸 : まだストックは持ってるでしょ？

カブト : ええ。ただ、15-16歳の男のストックはさっきの無くなりましたから。巻物の中は常に年齢順にきちんと保存しておかないと、落ち着かなくて。

大蛇丸 : カブト、あなた A 型だったかしら？

カブト : いいえ。AB 型ですけど。

大蛇丸 : そう。意外ね。

Kabuto : Sore yori, Orochimaru-sama. Kaettara mukizu no otoko No shitai wo sakkyu ni hitotsu itadakemasuka?

Orochimaru : Mada sutokku wa motteru desho?

Kabuto : Ee. Tada 15-16 sai no otoko no sutokku wa sakki node nakunarimashita kara. Makimono no naka wa tsune ni nenreijun ni kichin to hozonshite okanai to, ochitsukanakute.

Orochimaru : Kabuto, anata A gata datta kashira?

Kabuto : Iie. AB gata desu kedo.

Orochimaru : *Sou. Igaine.*

Kabuto : Orochimaru-sama. Setelah kembali, bolehkah saya meminta mayat laki-laki yang utuh?

Orochimaru : Kau masih punya banyak stok, bukan?

Kabuto : Iya, tapi aku kehilangan stok yang berumur 15-16 tahun untuk pengalihan tadi. Membuatku bingung jika tidak tersusun berdasarkan umur.

Orochimaru : Kabuto, golongan darahmu A ya?

Kabuto : Tidak. Golongan darah saya AB.

Orochimaru : Oh. Sungguh mengejutkan.

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan akhiran *kashira* karena penasaran dengan golongan darah Kabuto karena Kabuto begitu teliti dan sistematis seperti orang yang memiliki golongan darah A. Hal ini merupakan suatu penyimpangan karena *kashira* lebih sering diutarakan oleh wanita. Akan lebih baik bila menggunakan bahasa laki-laki yang sepadan sesuai dengan ragam bahasanya., yaitu *kana* yang akan menjadi “*Kabuto, Anata A gata datta kana?*”

20.) (Episode 92, 15:43)

Konteks:

Setelah Sasuke meninggalkan tempat latihan dengan Orochimaru, tinggallah Guren dan Orochimaru berdua. Orochimaru menyampaikan sebuah misi yang tidak seorang pun selain Guren yang bisa menjalaninya.



20-1



20-2



20-3

大蛇丸 : あなたを呼んだのは他でもない。私のために働いてもらえるかしら？

紅蓮 : もちろんです。私はそのために大蛇丸様にお仕えしているのですから。

Orochimaru : Anata wo yonda no wa hoka de mo nai. Watashi no tame ni hataraitte moraeru kashira?

Guren : Mochiron desu. Watashi wa sono tame ni Orochimaru-sama ni otsukaeshite iru no desu kara.

Orochimaru : Ada alasan kenapa aku memanggilmu dan bukan yang lain. Maukah kamu melakukan satu hal untuku?

Guren : Tentu saja. Karena itulah aku melayanimu, Orochimaru-sama.

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan akhiran *kashira* bila di terjemahkan ke dalam bahasa Indonesia bisa berarti “Kira-kira”. Ada rasa keragu-raguan apakah Guren mau atau tidak untuk melakukan tugas ini. Namun hal ini merupakan suatu penyimpangan. Meskipun terkesan lembut, tapi *kashira* lebih sering diutarakan oleh wanita. Sama seperti data 19, akan lebih baik bila menggunakan bahasa laki-laki yang sepadan sesuai dengan ragam bahasanya., yaitu *kana* yang akan menjadi “*Watashi no tame ni hataraite moraeru kana?*”

21.) (Episode 374, 20:39)

Konteks:

Orochimaru berhasil menyelamatkan Tsunade dari masa kritis setelah menghadapi Madara. Orochimaru dan Tsunade pun bernostalgia akan masa ketika menghadapi masalah namun tidak pernah sependapat dan selalu bertentangan saat perang zaman dulu bersama dengan Jiraiya yang dikenal sebagai tiga jalan buntu, sama seperti sekarang yang dihadapi Naruto, Sakura dan Sasuke.



21-1



21-2

大蛇丸 : 今頃は新たなる三竦みがお披露目されてるん
じゃないかしらね。

綱手 : ん？

大蛇丸 : じゃあ。私たちはもう行くわ。あなたは影たちの
回復に集中することね。

*Orochimaru : Ima goro wa aratanaru sansukumi ga ohirome sareterun
Jyanai kashira ne.*

Tsunade : un?

*Orochimaru : Jyaa. Watashi tachi wa mou iku wa. Anata wa go kage
tachi no kaifuku ni shuuchuu suru koto ne.*

Orochimaru : Saat ini ada Tiga Jalan Buntu yang baru dan mungkin
meraka baru memulainya.

Tsunade : Apa?

Orochimaru : Baiklah. Kami pergi duluan. Kau fokuslah pada
Penyembuhan para lima kage.

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan
akhiran *kashira* karena ada rasa keragu-raguan pada diri sendiri. Tapi ini

merupakan suatu penyimpangan. Meskipun terkesan lembut, tapi *kashira* lebih sering diutarakan oleh wanita. Sama seperti data 19, akan lebih baik bila menggunakan bahasa laki-laki yang sepadan sesuai dengan ragam bahasanya., yaitu *kana* yang akan menjadi “*Ima goro wa aratanaru sansukumi ga ohirome sareterun jyanai kanaa?*”

22.) (Episode 457, 10:37)

Konteks:

Sasori dan Deidara mendatangi tempat persembunyian Orochimaru untuk mengambil salah satu cincin yang dimiliki Orochimaru sebelum ia keluar dari Akatsuki. Sasori yang merasa dikhianati pun marah dengan Orochimaru. Pertempuran pun terjadi antara boneka manusia Kazekage ke tiga milik Sasori melawan Edo Tensei Kazekage ke tiga milik Orochimaru. Namun siapa sangka, ternyata jutsu Edo Tensei yang dimiliki Orochimaru belum sempurna.



25-1



25-2



- 大蛇丸 : 永遠に私の手駒になるのよ。
- 三代目風影 : ふざけるな。俺は三代目風影だぞ。俺は
駒じゃねえ！
- 大蛇丸 : おやまあ.... 術が完全でなかったのかしら？
- Orochimaru* : *Ei'en ni watashi no tegoma ni naru noyo.*
- Sandaime Kazekage* : *Fuzakeruna. Ore wa sandaime kazekage dazo.*
Ore wa..... koma jyanee!
- Orochimaru* : *Oya maa. Jutsu ga kanzen denakatta no kashira?*
- Orochimaru : Jadilah bonekaku untuk selamanya!
- Sandaime Kazekage : Jangan konyol. Aku..... Kazekage ketiga...
Aku... bukanlah.... bonekamu!
- Orochimaru : Ya ampun. Apa jutsuku masih belum sempurna,
ya?

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan kandoushi Oya maa, atau maa sebagai bentuk perasaan terkejut. Tapi ini merupakan suatu penyimpangan karena ekspresi ini biasa digunakan oleh wanita. Akan lebih baik bila menggunakan ekspresi dalam ragam bahasa

laki-laki namun terlihat lebih kasar, yaitu *kuso*, menjadi “*Kuso. Jutsu ga kanzen de nakatta no kana?*”

23.) (Episode 455, 19:30)

Konteks:

Saat itu, Orochimaru sudah bergabung dengan Akatsuki. Dari dalam Akatsuki, terdengar kabar bahwa seorang dari Klan Uchiha menghabisi satu klan dan keluar dari Konoha sebagai seorang pembelot. Obito yang menyamar menjadi Madara alias Tobi pun mengajak Itachi masuk ke Akatsuki. Saat Itachi datang ke tempat Akatsuki, Orochimaru pun terkejut dengan kedatangan Itachi.



26-1



26-2

大蛇丸 : あら、イタチ君じゃないの。お久しぶり。

イタチ : 大蛇丸さん。

トビ : ああ.... そういえば、お2人は同郷でしたね。

懐かしの再会っすか。

Orochimaru : *Ara, Itachi-kun jyanai no. Ohisashiburi.*

Itachi : *Orochimaru-san.*

Tobi : *Aaa. Sou ieba, ofutari wa doukyou deshita ne.*

Natsukashi no saikaissu ne.

Orochimaru : Wah, ternyata Itachi. Lama tak berjumpa.

Itachi : Tuan Orochimaru.....

Tobi : Benar juga! Kalian dari negara yang sama. Sungguh reuni yang mengharukan, ya.

Pada penggalan percakapan di atas, Orochimaru menggunakan kandoushi *Ara* sebagai bentuk perasaan terkejut namun Orochimaru. Tapi ini merupakan suatu penyimpangan karena ekspresi ini biasa digunakan oleh wanita. Akan lebih baik bila menggunakan ekspresi dalam ragam bahasa laki-laki yaitu *Oo*, menjadi “*Oo.. Itachi-kun ka? Ohisashiburi.*”

D. Pembahasan Penyebab Penggunaan *Joseigo* Oleh Pria Pada Karakter

Orochimaru

a. Kepribadian Orochimaru

Orochimaru memiliki kepribadian yang kompleks, ia digambarkan sebagai seorang yang memiliki kepribadian bengkok atau buruk oleh kebanyakan orang, termasuk Tsunade. Jiraiya berspekulasi bahwa kematian orang tuanya saat masih muda yang membuatnya begitu banyak berubah, bersamaan dengan Tsunade yang kehilangan adiknya, Nawaki dan orang yang paling ia cintai, Dan. Orochimaru tumbuh untuk meremehkan kerapuhan hidup manusia yang hanya singkat dan bagaimana itu mempengaruhi mereka yang masih hidup, dan menuntunnya untuk

mencari keabadian. Untuk itulah ia melakukan banyak eksperimen guna untuk menguji dan memodifikasi tubuh manusia untuk bertahan dan memanfaatkan kemampuan unik subjek untuk dirinya sendiri. Setelah mencapai tujuannya, Orochimaru berharap untuk menjadi “makhluk terakhir”, tidak akan pernah mati dan mampu mencapai tujuan sekundernya untuk mempelajari setiap teknik ninja di dunia, yang biasanya membutuhkan banyak waktu untuk mendapatkannya.

Menurut Sasuke, menjadi seorang yang kejam dengan kebaikan yang ia miliki sebagai mantan anggota Tim Hiruzen, agenda Orochimaru membuatnya lebih menghargai dirinya sendiri. Meskipun Orochimaru menyukai adanya konflik untuk mengurangi kebosanannya, ia tidak tertarik pada perang yang dimulai oleh orang lain. Kharismanya yang menarik sejumlah pengikut, membuatnya untuk mengirim mereka pada misi bunuh diri hanya untuk kepentingan pribadinya dan mengungkapkan penyesalan bila pengikutnya tidak menyelesaikan misi dengan benar, tidak memiliki ketertarikan emosional terhadap para pengikutnya. Meskipun demikian, Orochimaru memiliki minat yang tulus untuk mengembangkan kemampuan bawahannya dan objek eksperimennya. Orochimaru pun mengambil Sasuke sebagai muridnya dan melihat Sasuke sebagai anak ajaib yang berpotensi sama seperti dirinya, Orochimaru ternyata memiliki maksud tersembunyi yaitu mengambil tubuh Sasuke untuk mendapat Sharingan untuk keabadian dan mempelajari setiap tekniknya. Tujuan ini pun menjadi berkembang hingga ke tahap obsesi. Namun, meskipun mengetahui bahwa Sasuke bersedia melakukan apa saja untuk membalas dendam, termasuk mengorbankan tubuhnya sendiri, Orochimaru mengantisipasi terjadinya pengkhianatan dari muridnya ini

dan hanya menunjukkan sedikit rasa terkejut ketika itu benar-benar terjadi. Apa yang membuat Orochimaru terkejut adalah Sasuke memilih untuk mengikuti jalannya sendiri untuk membela desanya yang awalnya dia bersumpah untuk menghancurkannya. Orochimaru pun terbuka akan keputusan Sasuke dan menanti hasil akhir dari keputusannya itu.

Kepribadian yang menonjol dari Orochimaru yang juga merupakan kelemahannya adalah kesombongannya sendiri. Dia percaya bahwa dia benar-benar abadi setiap waktu, menyerang dengan sembrono lawannya yang kuat seperti Hiruzen dan Uchiha Itachi. Ia lengah akan keduanya, pertama saat melawan mantan gurunya, tangannya menjadi lumpuh. Lalu saat melawan Itachi, ia juga kekurangan informasi untuk menghadapi lawannya. Terlepas dari kurangnya moral yang dimilikinya, Orochimaru tampaknya berpengalaman dalam peperangan psikologis dan menampilkan kebijaksanaannya ketika meremehkan Tobirama atas tindakan yang dihasilkan dari kebijakannya. Orochimaru juga memiliki kelemahan lain, yaitu serangga seperti yang terlihat selama pernikahan Naruto dan Hinata.

Setelah dihidupkan kembali oleh Sasuke, kepribadiannya berubah sedikit. Namun ia masih berharap bisa mendapatkan tubuh Sasuke, ia juga menyadari bahwa menjadi sama seperti orang lain adalah kesalahan dari pengamatannya tentang Kabuto. Orochimaru pun ingin melihat jalan yang diambil Sasuke untuk membela desanya, ia memilih untuk bertarung bersama Uchiha alih-alih mengabaikan perang Madara seperti yang direncanakannya, dan memprioritaskan untuk menyembuhkan Tsunade dan para Kage lainnya setelah kekalahan mereka

melawan Madara. Orochimaru juga tampaknya begitu peduli terhadap kebaikan Sasuke. Orochimaru juga menunjukkan tanda-tanda penyesalan, ia tampak sedih oleh kematian teman masa kecilnya, Jiraiya. Di anime, Orochimaru pun mengucapkan selamat kepada Naruto dan Hinata atas pernikahan mereka. Bertahun-tahun kemudian, ia tampaknya berada dalam kondisi bersahabat dengan Konoha dengan mengirim putranya, Mitsuki masuk Akademi ke desa. Ia juga merasa berhutang budi kepada Naruto sebagai Hokage untuk mengawasi Mitsuki. Sementara hubungannya dengan dunia masih diragukan, ia setidaknya telah mengembangkan hubungan yang cukup dipercaya antara atasan Konohagakure, bersedia membantu mereka dalam penelitian tentang hal-hal yang mendesak dan juga merasa cukup bertanggung jawab menebus kesalahannya di masa lalu.

Dari segi fisik meskipun ia laki-laki, tetapi suaranya seperti perempuan. Ini dilakukan agar membuatnya terlihat lebih kejam. Namun, untuk keadaan tertentu, Orochimaru akan menggunakan bahasa formal bila berbicara kepada orang yang ia hormati, contohnya Sarutobi Hiruzen. Pada series Naruto episode 68, meskipun Sarutobi Hiruzen adalah musuhnya, namun ia tidak menggunakan bahasa informal kepada musuhnya tersebut. Orochimaru masih menghormati gurunya dengan menggunakan bahasa formal *masu* dan *desu* dan tetap memanggil Hiruzen dengan kata 'sensei', contohnya: "*Sakki kara nemukute ne. Yatto me ga samemashita.*", "*donna mono nandesuka.*", "*kakugoshite kudasai, Sarutobi-sensei*" Tidak hanya itu, Orochimaru akan menggunakan bahasa laki-laki pada situasi tertentu. Misalnya pada saat penyerangan ke Konoha episode 68, untuk memberi penekanan respon pertanyaan lawan bicara, Orochimaru menggunakan kata '*Iya*'

sebagai jawaban penolakan atau ‘tidak’ lalu menggunakan kata kerja bentuk O seperti “*yamero!*” sebagai kata perintah. Lalu dalam series Naruto episode 73 dan 79 pun Orochimaru menggunakan ragam bahasa pria sebagai bentuk perintah karena keadaannya yang terdesak, contoh: “*Fuzakeruna! Kono oiborega!*”, “*Sassato shine!*”, “*Kono oiborega! Watashi no ude wo kaese!*” Lalu pada saat terdesak pun, Orochimaru menggunakan *taishou daimeishi* “*kisama*” kepada lawan bicaranya seperti pada episode 73 Naruto Series, contoh: “*Kisama no omoi doori ni wa sasenu!*”. Saat masih kecil, Orochimaru masih menggunakan ragam bahasa pria seperti dalam anime Naruto Shippuden episode 114, contohnya: “*nandarou? Kore*”. Namun faktanya, pada awal seri Naruto episode 27, dia benar-benar terlihat seperti wanita karena ia menggunakan tubuh seorang ninja yang berjenis kelamin wanita. Ia menyamar sebagai wanita yang menggunakan kimono, dengan busur panah besar di punggungnya.

b. Penampilan Orochimaru

Karakter Orochimaru yang paling mencolok adalah penampilannya yang mirip ular. Ia memiliki kulit yang sangat pucat, mata keemasan dengan pupil mata yang tajam, tanda ungu di sekitar mata dan gigi yang menyerupai taring. Dia juga memiliki tulang rahang yang runcing dan memiliki rambut hitam sepanjang pinggang. Beberapa tubuh yang telah ia ambil telah dimodifikasi untuk menyerupai bentuk aslinya, kecuali perbedaan tinggi badannya. Di Naruto Gaiden, fitur wajahnya melunak dan agak androgini dengan tanda matanya yang menjadi hitam. Dia juga menguncir kuda rambutnya. Orochimaru biasanya memakai kimono dengan tali ungu besar yang diikat dan di simpul besar di belakang

punggungnya, anting-anting yang berbentuk tomoe, dan sandal shinobi dengan perban di sekitar betisnya.

E. Interpretasi Data

Setelah mengumpulkan data yang berhubungan dengan *joseigo* yang dipakai oleh Orochimaru, maka peneliti menyimpulkan keseluruhan hasil analisa yang sudah didapatkan, yaitu:

1. *Joseigo* oleh tokoh pria penggunaan partikel akhir kalimat antara lain:
 - a. Partikel *wa* sebanyak 62 data;
 - b. Partikel *wane* sebanyak 35 data;
 - c. Partikel *wayo* sebanyak 27 data;
 - d. Partikel *no* sebanyak 14 data;
 - e. Partikel *none* sebanyak 10 data;
 - f. Partikel *noyo* sebanyak 36 data;
 - g. Partikel *kashira* sebanyak 30 data;
2. *Joseigo* oleh tokoh pria penggunaan interjeksi
 - a. Penggunaan *maa* sebanyak 9 data
 - b. Penggunaan *ara* sebanyak 5 data.

Setelah menganalisis sebanyak 23 data, maka ragam bahasa wanita (*Joseigo*) yang digunakan oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime *Naruto* disebabkan oleh pengaruh situasi dan sosial. Pada data nomer 2, 7, 9, 16 dan 18 dilatarbelakangi oleh kondisi yang mengondisikan Orochimaru untuk menggunakan *Joseigo* agar terlihat lebih kejam dan dramatis. Lalu pengaruh

sosial, Orochimaru menggunakan ragam bahasa perempuan hanya kepada strata sosial yang umurnya setara atau dibawah Orochimaru. Untuk yang stratanya di atasnya, Orochimaru menggunakan ragam formal *masu* atau *desu*.

BAB V

KESIMPULAN DAN SARAN

Setelah menjabarkan hasil analisis dari data-data yang berhubungan dengan penggunaan *joseigo*, maka peneliti akan menyimpulkan keseluruhan mengenai analisis penggunaan *joseigo* oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime Naruto karya Masashi Kishimoto untuk menjawab rumusan masalah pada bab I, serta peneliti akan memberi saran sebagai bagian akhir dari skripsi ini.

A. Kesimpulan

Berdasarkan hasil penelitian yang telah dilakukan pada bab sebelumnya mengenai penggunaan *joseigo* oleh pria pada karakter Orochimaru dalam anime Naruto, maka dapat ditarik kesimpulan bahwa penggunaan *joseigo* dilatarbelakangi oleh keadaan sosial dan situasi. Seperti yang dikatakan oleh Peter Trudgill dalam bukunya (2000, 21) bahwa bahasa bukanlah kode tunggal sederhana yang digunakan dengan cara yang sama oleh semua orang dalam semua situasi, untuk itulah diperlukannya ahli untuk mengatasi kompleksitas ini. Sociolinguistik adalah bagian dari linguistik yang berkaitan dengan bahasa sebagai fenomena sosial dan budaya. Ilmu ini menyelidiki bidang bahasa dan masyarakat yang berkaitan dengan ilmu sosial, terutama psikologi sosial, antropologi, geografi manusia, dan sosiologi.

Berdasarkan hasil pengumpulan data dari 500 episode Naruto Shippuuden karya Masashi Kishimoto, ditemukan sebanyak 47 episode munculnya

Orochimaru. Dari 47 episode tersebut, ditemukan 228 data Orochimaru menggunakan *joseigo* ditinjau dari pemakaian *kandoushi* dan *shuujoshi*, yaitu:

1. *Joseigo* oleh tokoh pria penggunaan partikel akhir kalimat antara lain:
 - a. Partikel *wa* sebanyak 62 data;
 - b. Partikel *wane* sebanyak 35 data;
 - c. Partikel *wayo* sebanyak 27 data;
 - d. Partikel *no* sebanyak 14 data;
 - e. Partikel *none* sebanyak 10 data;
 - f. Partikel *noyo* sebanyak 36 data;
 - g. Partikel *kashira* sebanyak 30 data;
2. *Joseigo* oleh tokoh pria penggunaan interjeksi
 - a. Penggunaan *maa* sebanyak 9 data
 - b. Penggunaan *ara* sebanyak 5 data.

Dari data diatas dapat disimpulkan bahwa karakter Orochimaru lebih dominan menggunakan *shuujoshi* yang dipergunakan untuk wanita, khususnya *shuujoshi ~wa*.

Orochimaru adalah seorang yatim piatu, dan menjadi murid dari Sarutobi Hiruzen bersama dengan Jiraiya dan Tsunade. Berbeda dengan Jiraiya yang tampak santai, Orochimaru menunjukkan dirinya yang jenius yang dibanjiri dengan kemampuan yang hebat yang dianggap oleh Hiruzen hanya muncul satu kali dalam satu generasi, sehingga ia beranggapan bahwa Orochimaru akan meneruskan cita-citanya dan kekuatan Hiruzen. Menurut Tsunade, Orochimaru

memiliki kepribadian yang bengkok bahkan sejak kecil. Sikap sadisnya muncul karena kematian kedua orang tuanya. Setelah kehilangan orang tuanya, Orochimaru bertemu dengan ular putih di dekat makam kedua orang tuanya.

Meskipun Orochimaru laki-laki, tetapi suaranya seperti perempuan supaya terlihat lebih kejam dan dramatis. Namun Orochimaru akan menggunakan bahasa laki-laki pada situasi tertentu. Misalnya pada saat penyerangan ke Konoha episode 68, untuk memberi penekanan respon pertanyaan lawan bicara, Orochimaru menggunakan kata '*Iya*' sebagai jawaban penolakan atau '*tidak*' lalu menggunakan kata kerja bentuk O seperti "*yamero!*" sebagai kata perintah. Lalu dalam series Naruto episode 73 dan 79 pun Orochimaru menggunakan ragam bahasa pria sebagai bentuk perintah karena keadaannya yang terdesak, contoh: "*Fuzakeruna! Kono oiborega!*", "*Sassato shine!*", "*Kono oiborega! Watashi no ude wo kaese!*" Lalu pada saat terdesak pun, Orochimaru menggunakan *taishou daimeishi* "*kisama*" kepada lawan bicaranya seperti pada episode 73 Naruto Series, contoh: "*Kisama no omoi doori ni wa sasenu!*". Faktanya, pada awal seri Naruto episode 27, dia benar-benar terlihat seperti wanita karena ia menggunakan tubuh seorang ninja yang berjenis kelamin wanita. Ia menyamar sebagai wanita yang menggunakan kimono, dengan busur panah besar di punggungnya. Hal ini sesuai dengan yang dikemukakan oleh Fransiska dan Sudjianto. penyimpangan ragam bahasa wanita oleh pria dilakukan untuk tujuan tertentu, misalkan untuk menarik minat para pelanggan yang menjadi lawan bicaranya yang kebetulan sebagian besar kaum wanita, atau disebabkan karena mereka masih belum cukup umur dan masih menggunakan bahasa ibu mereka, biasanya bila sudah besar, mereka akan

merubah tatanan bahasa mereka yang sewajarnya, kecuali pada pria yang menyerupai wanita atau banci.

Penggunaan *joseigo* oleh pria pada tokoh Orochimaru disebabkan oleh faktor-faktor:

1. Penutur ingin mempertegas suatu makna agar terlihat lebih kejam dan dramatis;
2. Penutur menggunakan *joseigo* untuk memperhalus suatu kalimat dan memberi kesan akrab saat berbicara dengan strata sosial yang lebih rendah maupun yang sejajar.
3. Penutur tidak akan memakai *joseigo* kepada orang yang stratanya lebih tinggi dari penutur. Penutur akan menggunakan ragam bahasa formal *masu* dan *desu* untuk menghormati orang yang sedang diajak bicara.

B. Saran

Saran yang dapat peneliti diberikan dari beberapa adalah sebagai berikut.

1. Buku-buku mengenai penggunaan *joseigo* dan *danseigo* lebih diperbanyak lagi di perpustakaan, agar para pembelajar bahasa Jepang khususnya dapat mengetahui dan bisa menjadi referensi dalam memahami ragam bahasa Jepang dan untuk referensi skripsi dikemudian hari.
2. Para dosen bisa memberi pengajaran mengenai penggunaan *danseigo* dan *joseigo* yang tepat sehingga para pembelajar bahasa Jepang bisa mengetahui perbedaan dari kedua bahasa agar tidak terjadi penyimpangan yang serupa dalam kehidupan sehari-hari.

Daftar Acuan

- Ashlinda, dan Syafyahya, Leni. 2010. *Pengantar Sociolinguistik*. Bandung: PT. Refika Aditama.
- Chaer, Abdul dan Agustina, Leonie. 2010. *Sociolinguistik: Perkenalan Awal*. Jakarta: PT. Rineka Cipta.
- Chino, Naoko. 2005. *How To Tell The Difference Between Japanese Particle*. Tokyo: Kodasha International, Ltd.
- Hudson. 1996. *Sociolinguistics*. Australia: University Press. Cambridge
- Kridalaksana, Harimurti. 2009. *Kamus Linguistik*. Jakarta: PT. Gramedia Pustaka Utama
- Mardalis. 2006. *Metode Penelitian: Suatu Pendekatan Proposal*. Jakarta: PT. Bumi Aksara
- Masashi, Kishimoto. 2015. *The Secret Scroll of Confrontation*. Jakarta: PT. Gramedia
- Masashi, Kishimoto. 2015. *The Secret Scroll of Soldier*. Jakarta: PT. Gramedia
- Masashi, Kishimoto. 2017. *The Secret Scroll of Fighting*. Jakarta: PT. Gramedia
- Masashi, Kishimoto. 2018. *Hiden-Shippu Emaki*. Jakarta: PT. Gramedia
- Mizutani, Osamu dan Mizutani, Nobuko. 1990. *Nihongo Note 7: Situational Japanese 2*. Tokyo: The Japan Times
- Nimas, Fransiska dan Santoso, Teguh. 2016. *Bahasa Jepang: Ragam Bahasa Pria dan Wanita*. Yogyakarta: Morfalingua
- Pateda, Mansoer. 1987. *Sociolinguistik*. Bandung: ANGKASA
- Shibamoto, Janet. 1985. *Japanese Women's Language*. New York: Academic
- Shoji, Azuma. 2001. *Shakai Gengogaku Nyuumon*. Tokyo: Kenkyusha

Sudaryono. 2017. *Metodologi Penelitian*. Jakarta: PT. Raja Grafindo Persada.

Sudjianto dan Dahidi, Ahmad. 2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc

Trudgill, Peter. 2000. *Sociolinguistic an Introduction to Language and Society*. Inggris: Penguin Books Ltd

JURNAL:

Subandi, 2006. *Penyimpangan Penggunaan Ragam Bahasa Pria Oleh Penutur Wanita Sebagai Bentuk Refleksi Kondisi Pertentangan Jiwa Terhadap Perbedaan Gender*. Lentera, Jurnal Studi Perempuan, 2, 90.

INTERNET:

<http://naruto.wikia.com/wiki/Orochimaru> (diakses pada tanggal 10 April 2018)

<https://id.wikipedia.org/wiki/Naruto> (diakses pada tanggal 14 April 2018)

<https://www.viz.com>

DAFTAR RIWAYAT HIDUP

Nama : Fransisca Aprillia
NIM : 043131.520141.014
Tempat, Tanggal Lahir : Jakarta, 10 April 1996
Jenis Kelamin : Perempuan
Agama : Kristen
Alamat : Jl. Irida Barat IV, Perum Irigasi Danita,
Bekasi Timur, Bekasi.
E-mail : fransiscaaprillia10@gmail.com



Riwayat Pendidikan Formal:

SDN Duren Jaya VI	2002 – 2008
SMP PGRI 1 Bekasi.....	2008 – 2011
SMK ANANDA Bekasi.....	2011 – 2014
S1 Sarjana Jepang STBA JIA Bekasi	2014 – 2018

Riwayat Organisasi:

Anggota PMR SMP PGRI 1 Bekasi	2008
Anggota OSIS SMK Ananda	2012 - 2013
Anggota BEM STBA JIA	2016 - 2017